

163

345

京 東

武蔵野市

市岡正一編纂

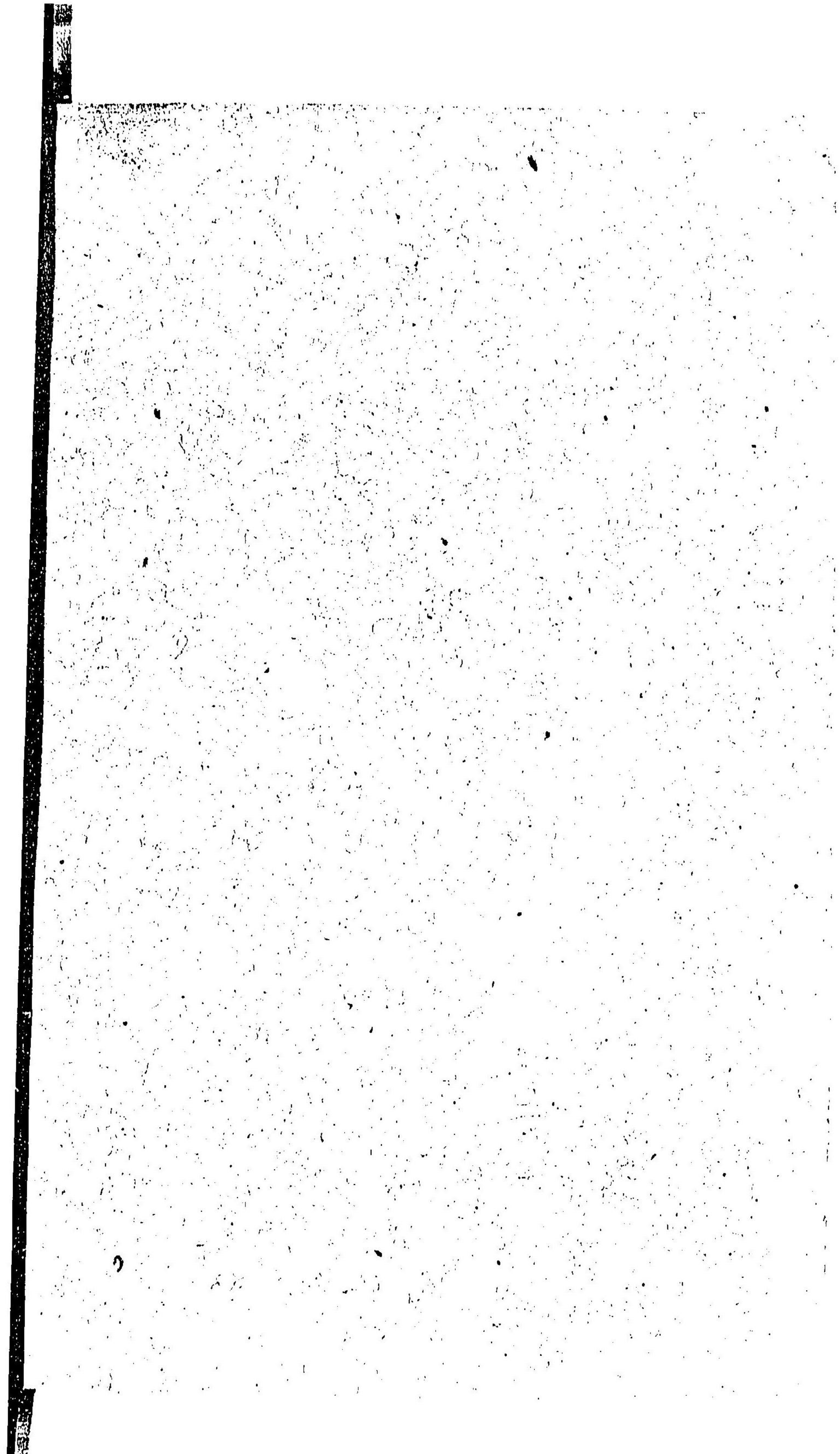
郡市町村
吏員必要類聚法令大全

下卷
續編

博行館本部



博行館



郡市町村
吏員必要類聚法令大全下卷續編

目次

第十類 租税及公債其他諸收入ニ關スル件

第二章 地租ノ徵收ニ關スル件

前加 土地臺帳ニ係ル件

第一款 地租ニ關スル諸條例規則其他取扱手續

第三章 國稅徵收法第三條ニ依リ市町村ニ於テ特ニ徵收セシムル國稅

第二款 酒造稅

第十一類 兵事

第一章 徵發及徵兵

第一款 徵發合同事務條例

第二款 徵兵

第一節 徵兵令

第二節 徵兵事務條例同施行細則及附屬ノ法令

第三節 陸軍六週間現役兵條例及施行細則

第四節 警備隊ニ關スル件

徵發丁附

一

三ウ

四

五

六ウ

十八ウ

四十四ウ

四十六ウ

下卷目次

第二章 陸軍諸規則中郡市町村長等ニ關係ノ諸件

第一款 大隊區及警備隊區司令部條例 四十七

第二款 一年志願兵條例同施行細則 四十九

第三款 陸軍志願兵身體檢查格例 五十六

第四款 陸軍下士服役並下士免役出願及身分異動等届出ノ件 五十七

第五款 歸休兵並豫備後備役ニ關スル件 全

第一節 陸軍歸休兵條例及憲兵卒概則

第二節 陸軍豫備後備將校下士兵卒服役條例及豫備役服役中養子
分家相續等届出方並豫備兵卒豫備徵員滿期名簿保存方ノ件 六十

第六款 屯田兵

第一節 屯田兵條例及召募規則 六十五

第二節 屯田兵諸給與 六十六

第七款 國民軍條例及該規則ニ關スル件 六十七

第一節 國民軍條例

第二節 國民軍召集並補充兵役國民兵兵役志願國民軍編入者ニ關スル件 全

第八款 陸軍豫備役召集 全

第一節 陸軍召集條例及召集不應者届出令狀返付方並寄留者召集
等ノ件 七十三

第三節 召集旅費ニ關スル件 七十四

第十二款 陸軍教導團生徒召集及陸軍衛生部士官候補生並醫科大學
依託生徒採用規則 七十八

第十三款 陸地測量標條例同施行細則及陸地測量部修技所生徒採用
等ニ關スル諸則

第三章 海軍規則中郡市町村長關係ノ件

第一款 海軍志願兵徵募諸則並身體檢查格例及造船學校生徒志願者
心得 九十

第二款 海軍下士卒ニ係ル件

第一節 海軍下士服役條例及下士卒免役歸省出願等ニ關スル件 九十一

第十二類 學事 九十一

第二章 小學校

第五款 小學校校長教員ニ關スル件 九十二

第十三類 農工商

前加 勸業事務ニ付市町村長市町村會等關係ノ件

第三款 官有森林原野開墾牧畜等ノ件	九十五
第四款 狩獵ニ關スル件	全ウ
第二章 商工業ニ付郡市町村長浦役人及府縣郡市參事會並府縣郡市會議員等ニ關スル件	
第一款 商業會議所ニ係ル件	百二ウ
第二款 度量衡諸則	百七
第三款 砂鐵採取ニ關スル件	百九
第四款 船舶難破ニ關シ市町村長浦役人取扱ノ件	百十一
第十四類 民刑商事ニ關スル件	
第二章 刑事ニ付郡市町村長關係ノ件	
第二款 刑法附則	百十二

下巻續編目次終

切 ヲ 正 紙 通 換 紙 用

土地		地目		土地	土地	土地	市郡	村町
本	冊	帳	簿	番	號	字		
明	地	價	別	租	地	段	國	
治	年						內書	
年							外書	
月							目	
日							別	
							地	
							免	
							租	
							年	
							期	
							有	
							所	
							住	
							者	
							名	
							氏	

主任官氏名印

○第三百十二 土地分合筆ニ付郡市町村長ノ取扱手續 明治二十年四月十日 大藏省訓令第二十五號府縣(沖繩縣ヲ除ク)

土地分合筆取扱手續

第一條 一筆ノ土地ヲ分割シ二筆以上ノ土地ヲ合併セントスル者ハ其段別地價及野取圖ヲ添ヘ戶長役場ヲ經由シ郡區役所(出願セ)シムヘシ 二十四年七月訓令第五十七號ヲ以テ(出願セ)ヲ(届出)ニ改ム

第二條 戶長ハ第一條ノ(願書)ヲ受領シタルトキハ與書ヲナスヘシ若シ段別地價ノ分配ニ於テ不適當ト認認ムルコトアルトキハ實地臨檢ノ上其旨ヲ說示シ承服セサルモノハ意見書ヲ作り郡區役所ヲ經由シ地方廳ヘ具申セシムヘシ同上訓令ヲ以テ(願書)ヲ(願書)ニ改ム

第三條 地方廳ハ第二條ノ具申書ヲ受領シタルトキハ規程ノ手續ニヨリ更ニ實地審査シ適當ノ地價ヲ定メ之ヲ所有者ニ示達スヘシ

(附言) 二十二年六月大藏省訓令第四十五號發布以後本令中掲載ノ郡區役所ノ事務ハ收稅署ノ取扱ニ屬シタリ

○第三百十四 收稅署地租事務取扱規程明治二十八年一月二十六日 大藏省訓令第四號府縣(沖繩縣ヲ除ク)

收稅署地租事務取扱規程左ノ通相定ム
但明治二十二年大藏省訓令第十號ハ之ヲ廢止ス

收稅署地租事務取扱規程

第一條 收稅署ノ地租ニ關スル事務ハ此規程ニ依リ之ヲ處理スヘシ

第二條 收稅署長ニ於テ土地又ハ所有者住所氏名ノ異動ニ關スル願屆書ヲ受ケタルトキハ地租事務整理簿(第一號)ニ之ヲ記入シテ主任者ニ交付シ主任者ハ土地臺帳ノ照合其他必要ノ調査ヲ了スル毎ニ順次同簿ニ該月日ヲ記入シ置キ其事蹟ヲ明瞭ナラシムヘシ

第三條 實地檢査ヲ要スル願屆書ハ檢査以前ニ於テ野取圖ノ檢算及該異動地、比準地ノ等級段價等帳簿地圖ト對照調査ヲ遂テ定期ト臨時トニ區分シ事務ノ緩急ヲ量リ之ヲ檢査ニ

付スヘシ其檢査ヲ要セサルモノハ相當ノ調査ヲ遂ケ速ニ處分ノ手續ヲ爲スコトヲ要ス

第四條 實地檢査ヲ了シ檢査員ヨリ復命シタルトキハ更ニ其當否ヲ調査シ速ニ處分ノ手續ヲ爲スヘシ

第五條 前二條ノ處分ヲ了シタルトキハ式ニ從ヒ其時々土地臺帳及地圖ヲ訂正シ該願屆書及土地臺帳異動整理簿(第二號)ニ其要領ヲ記入シ速ニ登記所及市町村役場ヘ之ヲ通報スヘシ

第六條 收稅署長ニ於テ土地所有權ノ移轉又ハ質入等ニ關スル登記所ノ通知ヲ受ケタルトキハ登記所通知整理簿(第三號)ニ之ヲ記入シテ主任者ニ交付シ主任者ハ土地臺帳ノ訂正ヲ了シタル後該通知書ヲ添ヘ之ヲ市町村役場ニ通報シ其月日ヲ同簿ニ記入シ置クヘシ

第七條 共有地ニ關スル異動ハ前二條ノ訂正ヲ爲ストキ共有地臺帳ヲ訂正シ共有者ノ住所氏名及所有權ノ歩合等ヲ明カナラシムヘシ

第八條 收稅署長ニ於テ土地臺帳謄本下付願書ヲ受ケタルトキハ土地臺帳ト照查ノ後謄本下付ノ手續ヲ爲シ其月日等ヲ同簿ニ記入シ置クヘシ

第九條 第五條ノ手續ヲ了シタルトキハ異動ノ種目ヲ區分シ之ヲ土地臺帳集計簿又ハ當該調理簿ニ記入シ置キ毎年一月中ニ於テ前年中ノ異動ニ係ル土地臺帳毎年ノ員額ヲ計算シテ集計簿ト照合シ其十月末日ノ現在額ヲ查覈スヘシ荒地其他ノ臺帳モ亦之ニ準ス

第十條 前條現在額ハ毎年ノ初メニ於テ各町村役場ノ土地臺帳集計額ト照合シ其正確ヲ期

スヘシ

第十一條 收稅署長ハ隨時各整理簿ヲ檢閲シ事務ノ滯滞ナカラシムヘシ
第十二條 地租改正ノ際調製シタル帳簿地圖其他土地ノ異動ニ關スル願屆書類ハ總テ之ヲ整理保存スヘシ

第十三條 收稅署長ハ地租事務年報(第五號)ヲ調製シ每翌年三月マテニ之ヲ府縣廳ニ送付スヘシ

(第一號乃至第五號様式等ス)

● 伺指令

● 土地臺帳謄本下付ノ件明治二十二年四月四日 兵庫縣收稅長問合

土地臺帳謄本ハ其土地所有者ノ外ハ下渡ス限リニアラサルカ(以下略ス)

大藏省主稅局回答 明治二十二年四月八日

土地臺帳謄本ハ御見込ノ通

● 收稅署地租事務取扱規程ニ關スル件明治二十八年二月八日 岡山縣問合

今般大藏省訓令第四號ヲ以テ收稅署地租事務取扱規程ヲ定メテ候處右ノ内疑義ノ處左ニ及御問合候

一 收稅署地租事務取扱規程第五條ニ異動ノ處分ヲ了シタルトキハ該願屆書及土地臺帳異動

整理簿ニ要領ヲ記入シ登記所及市町村役場へ通報スヘシトアリ然ルニ其様式ニハ地價地

租及内書外書等ヲ記入スヘキ欄無之固ヨリ登記所ヘノ通知ハ段別ノ一欄而已ニテ差支ナキモ之ヲ市町村役場ニ對スル通知原簿ト爲スニハ段別ノミナラス地價地租及内書外書等其異動ノ全體ヲ通知スルニアラサレハ異動通知ノ餘無之様相考候得共右市町村役場ノ分モ段別ノミノ通知ニ止ムヘキ御趣旨ナルヘキ哉

一 土地異動ノ諸願ニ對スル指令ハ二十二年三月大藏省訓令第十五號地租事務手續第三條ニヨリ市町村長ヲ經テ下付致來候處今同取扱規程ヲ以テ前手續ヲ廢セラレタルニヨリ自今ハ市町村長ヲ經テ下付スル方實際便宜ヲ得ヘキ儀ニ付從前ノ通報不都合無之哉

一 前項指令書ヲ市町村長ヲ經テ下付スルモノトスレハ市役所町村役場ハ其時々該指令書ニヨリ異動ノ許可ヲ知得シ直ニ臺帳ノ訂正ヲ爲シ得タルヘキニ付指令ヲ下付スルモノハ之カ通知ヲ省略致度右ハ目下人少ノ折柄異動ノ全體ニ就キ一筆毎ニ各種ノ帳簿ニ記載シ尙之ヲ通知書ニ騰寫スルハ實際困難ノ場合モ有之候間其指令ヲ要セサルモノニ限り通知スルコトニ取扱度御差支有之間敷哉

大藏省主稅局回答 明治二十八年二月十五日

第一項第二號様式ハ事務ノ運抄ヲ一目瞭然ナラシムルヲ主眼トスルモノニテ單ニ其要領ヲ掲ケタルモ町村通知ノ實際ニ於テハ地價地租其他詳細ノ記載ヲ要ス

第二項第三項御見込ノ通報取扱相成可然

第一款 地租ニ關スル諸條例規則其他取扱手續

○第二百十五 地租條例

明治十七年三月十五日 市告第七號

地租條例別冊ノ通制定シ明治六年^{七月}第貳百七拾貳號布告地租改正條例及地租改正ニ關スル條規其他本條例ニ抵觸スルモノハ廢止ス

但東京府管轄伊豆七島小笠原島函館縣沖繩縣札幌縣根室縣ハ當分從前ノ通タルヘシ
右奉 勅旨布告候事

地租條例

第一條 地租ハ地價百分ノ二箇半ヲ以テ一年ノ定率トス
(但本條例ニ地價ト稱スルハ地券ニ掲ケタル價額ヲ謂フ) ^{二十二年十一月法律第三十號ヲ以テ但書ヲ改ム}

第二條 地租ハ年ノ豐凶ニ由リテ増減セス

第三條 有租地ヲ區別シテ二類ト爲ス

第一類 田、畑、郡村宅地、市街宅地、鹽田、鑛泉地

第二類 (池沼、山林、原野、雜種地) ^{同上法律ヲ以テ本項ヲ改正ス}

第一類中又ハ第二類中ノ各地目變換スルモノヲ地目變換ト謂フ

第二類地ニ勞費ヲ加ヘ第一類地ト爲スモノヲ開墾ト謂フ

第一類地又ハ第二類地ノ山崩、川欠、坍塌、石砂入、川成、海成、湖水成、等ノ如キ天災ニ罹リ地形ヲ變シタルモノヲ荒地ト謂フ

二 酒類造石税ノ滯納處分ヲ受ケ滿三年ヲ經過セサル者

三 所有不動産ノ價額造石税四分ノ一ニ滿タサル者

保證物ノ種類及保證人ニ要スル事件ハ大藏大臣之ヲ定ム

第二條 酒類ヲ分テ左ノ三類トシ免許ヲ受ケタル者ハ總テ之ヲ製造スルヲ得ヘシ

一類 釀造酒 ^{清酒濁酒其他種}

二類 蒸溜酒 ^{燒酎酒精再溜酒其他(十五年布告第十七號ヲ以テ燒酎シタルモノヲ云フ)(テ(燒酎)ノ下六字ヲ加フ)}

三類 再製酒 ^{銚酒味淋白酒等(原酒造酒類ヲ調和シ又ハ之ヲ元トシテ製造シタルモノヲ云フ)}

第三條 免許ヲ受ケタル者ハ免許税及造石税ヲ納ムヘシ其額左ノ如シ^{十五年布告第六十一號ヲ以テ本條ヲ改正ス}

酒造場一箇所ニ付 金三十圓

酒類造石税

一類 壹石ニ付 金四圓

二類 壹石ニ付 金五圓

三類 壹石ニ付 金六圓

第四條 免許ハ其年十月一日ヨリ翌年九月三十日迄ヲ以テ一期トス

酒類製造新規願ノ者ハ造石高左ノ制限以上ニアラサレハ免許セス^{十五年布告第六十一號ヲ以テ本項以下ヲ追加ス}

清酒 百石

濁酒

一類 清酒濁酒 二類 三類 五石

新ニ酒造營業ヲナサントスル者ハ其地方同業者五人以上ノ連印ヲ以テ願出ヘシ

第五條 酒造營業人不在又ハ事故アル時ハ代人ヲ置キ此規則ニ關スル諸般ノ事ヲ辨セシム

ヘシ 十五年布告第拾七號ヲ以テ本條ヲ刪除シ同年布告第六十一號ヲ以テ更ニ追加

第六條 免許鑑札賣買讓與スル時ハ雙方連印ノ願書ヲ管廳ニ差出シ書換ヲ請フヘシ

第七條 免許鑑札ヲ失却毀損スルカ或ハ代換改名轉居セシキハ其旨管廳ニ願出再渡又ハ書換ヲ請フヘシ

第二章 納税

第八條 免許税ハ鑑札申受ケタル時之ヲ納ムヘシ

第九條 造石税ハ左ノ四期ニ納ムヘシ 二十三年七月法律第百四十九號ヲ以テ本條ヲ改正ス

第一期 四月十五日限

十月一日ヨリ一月三十一日迄検査済石數ニ係ル税額ノ半數

第二期 八月十五日限

二月一日ヨリ五月三十一日迄検査済石數ニ係ル税額ノ半數

第三期 十一月十五日限

六月一日ヨリ九月三十日迄検査済石數ニ係ル税額ノ全數並ニ第一期第二期ニ係ル

長船舶會社ノ店長ニ交付スヘシ

第十二條 徵發ス可キモノハ左ノ如シ

一 米麥稗藨鹽味噌醬油漬物梅干及ヒ薪炭

二 乘馬馱馬駕馬車輛其他運搬ニ供スル獸類及ヒ器具

三 人夫

四 宿舍厩圍及ヒ倉庫

五 飲水石炭

六 船舶

七 鐵道汽車

八 演習ニ要スル地所

九 演習ニ要スル材料器具

第十三條 戰時若クハ事變ニ際シテハ第十二條ノ諸項ニ掲グルモノ、外徵發ス可キモノノ左ノ如シ但平時ノ演習及ヒ行軍ニハ徵發スルコトヲ得ス

一 造船所工作所及ヒ軍事ノ工作ニ要スル材料器具

二 職工礦夫洗濯人ノ類

三 被服裝具草鞋兵器彈藥船具寢具藥劑治療器械及細帶具

四 水車搗春ノ類

五 病院

第十四條 第十二條第二項中徵發ノ免除ヲ受ク可キモノ左ノ如シ

- 一 皇族所用ノ車馬
- 二 外國公使館并ニ領事館ニ屬スル車馬
- 三 乘馬本分タル職務ニ要スル馬匹
- 四 郵便用ノ車馬
- 五 公認セラレタル種牛種馬

第十五條 第十二條第四項中徵發ノ免除ヲ受ク可キモノ左ノ如シ

- 一 公務ニ屬スル廢屋
- 二 皇族ノ邸宅
- 三 外國公使館領事館及ヒ其所屬館
- 四 鐵道電信郵便用ノ建造物
- 五 陸海軍將校并ニ同等官現住ノ家屋
- 六 博物館書籍館
- 七 病院盲啞院棄兒院
- 八 學校但臨戰合圍地境內ニ在リテハ此限ニ在ラス
- 九 製造場内機械室

皆アレハ人々其災害ノ一分ヲ受サルヲ得ス是故ニ人々心カヲ盡シ國家ノ災害ヲ防クハ則チ自己ノ災害ヲ防クノ基タルヲ知ルヘシ苟モ國アレハ則チ兵備アリ兵備アレハ則チ人々其役ニ就カサルヲ得ス是ニ由テ之ヲ觀レハ民兵ノ法タル固ヨリ天然ノ理ニシテ偶然作意ノ法ニ非ス然而シテ其制ノ如キハ古今ヲ斟酌シ時ト宜ヲ制セサルヘカラス西洋諸國數百年來研窮實踐以テ兵制ヲ定ム故ヲ以テ其法極メテ精密ナリ然レトモ政體地理ノ異ナル之ヲ用フ可カラス故ニ今其長スル所ヲ取リ古昔ノ軍制ヲ補ヒ海陸二軍ヲ備ヘ全國四民男兒二十歳ニ至ル者ハ盡ク兵籍ニ編入シ以テ緩急ノ用ニ備フヘシ郷長里正厚ク此御趣意ヲ奉シ徵兵令ニ依リ民庶ヲ説諭シ國家保護ノ大本ヲ知ラシムヘキ也

明治五年壬申十二月二十八日

太 政 官

徵兵令

緒言

兵ヲ徵スルノ方法ハ國家ノ大典忽ニスヘカラサル者ニシテ又之ヲ實踐ニ行フノ難キ固ヨリ言フヲ俟タス其法タル古今其制ヲ異ニシ各國其趣キヲ同フセスト雖モ要スルニ一ニ民兵ニ因ラサル者ナシ所謂民兵ニ二種アリ曰ク壯兵曰ク賦兵是ナリ賦兵ナル者ハ全國ノ丁壯ヲシテ兵役ヲ帶ハシメ陸軍ノ兵員ヲ充タシ其内沿海ノ住民舟楫波濤ニ慣レシ者ヲ以テ海軍ノ兵員ニ充ツ而壯兵ハ自兵役ヲ望ミ出テシ者ニシテ服役數年ヲ帶ヒ普ク武技ニ熟練シ一團精兵トナリ頗其便益ヲ得ル者ナリ然レモ後日ニ至リ或ハ弊害ヲ生スル無キ能ハス是故ニ壯兵ノ

法ヲ廢シ賦兵一般ノ制度ヲ建テント欲ス竊ニ各國賦兵ノ制ヲ考フルニ大率服役八年乃至二十年ヲ以テ程度トス今國朝實ニ始メテ賦兵ノ大典ヲ起サントスルニ方リ兵役ノ久シキ恐クハ人民生活ノ業ヲ妨害シ且當今ノ國力ニ於テモ關係無シト謂フヘカラス是ニ於テ斟酌其宜ヲ採リ折衷其要ヲ援キ現今實際ニ行フノ法ヲ定メ題シテ徵兵令ト云フ

(本令ハ改正ニ付除ク)

○第三百七十六 徵兵令明治三十二年二月二十一日(二月二十二日公布)

朕徵兵令改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

徵兵令

第一章 總則

第一條 日本帝國國民ニシテ滿十七歲ヨリ滿四十歲迄ノ男子ハ總テ兵役ニ服スルノ義務アルモノトス

第二條 兵役ハ分テ常備兵役後備兵役補充兵役及國民兵役トス廿八年三月十二日法律第十五號ヲ以テ(補充兵役)ノ四字ヲ加フ

第三條 常備兵役ハ分テ現役及豫備役トス
現役ハ陸軍ハ三箇年海軍ハ四箇年ニシテ滿二十歲ニ至リタル者之ニ服シ豫備役ハ陸軍ハ四箇年海軍ハ三箇年ニシテ現役ヲ終リタル者之ニ服ス同上法律ヲ以テ(四箇年)ノ三字ヲ加フ

第四條 後備兵役ハ五箇年ニシテ常備兵役ヲ終リタル者之ニ服ス
第五條 補充兵役ハ陸軍ニ在テハ第一補充兵役第二補充兵役トシ第一補充兵役ハ七箇年四

箇月ニシテ其年所要ノ現役兵員ニ超過スル者ノ中所要ノ人員之ニ服シ第二補充兵役ハ一箇年四箇月ニシテ其年所要ノ第一補充兵員ニ超過スル者之ニ服ス又海軍ニ在テハ一箇年ニシテ其年所要ノ現役兵員ニ超過スル者之ニ服ス同上法律ヲ以テ

第六條 國民兵役ハ分テ第一國民兵役第二國民兵役トス同上法律ヲ以テ元第五條ヲ本條ノ如ク改ム

第一國民兵役ハ後備兵役及第一補充兵役ヲ終リタル者之ニ服シ第二國民兵役ハ常備兵役後備兵役補充兵役及第一國民兵役ニ在ラサル者之ニ服ス

第七條 各兵役ノ期限既ニ滿ルト雖モ戰時或ハ事變ニ際スルトキ若クハ臨時ニ演習或ハ觀兵ノ舉アルトキ若クハ航海中或ハ外國駐割中ハ其期ヲ延スコトアル可シ元第六條同上法律ヲ以テ第七條ト改ム

第八條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ兵役ニ服スルコトヲ許サス同上元第七條ヲ第八條トス

第二章 服役

第九條 陸軍現役兵及補充兵ハ毎年所要ノ人員ニ應シ壯丁ノ身材藝能職業ニ從ヒ歩兵騎兵砲兵工兵輜重兵職工及雜卒ニ區別シ抽籤ノ法ニ依リ當籤ノ者ヲ以テ之ニ充ツ同上法律ヲ以テ元第八條ヲ第九條トシ(現役兵)ノ下ニ(及補充兵)ノ四字ヲ加フ

海軍現役兵及補充兵ハ毎年所要ノ人員ニ應シ沿海地方及島嶼ノ壯丁ヲ調査シ海軍ニ適スル職業ニ從ヒ水兵火夫職工及雜卒ニ區別シ抽籤ノ法ニ依リ當籤ノ者ヲ以テ之ニ充ツ但海軍志願兵徵募規則ニ依リ服役スル者ハ本令ノ限ニ在ラス(同上)

警備隊ヲ置キタル島嶼ノ壯丁近衛師團ニ編入スル者ヲ除クハ總テ之ヲ警備隊ニ充テ其地ニ於テ服役セ

シム但在營期限ハ一箇年以内トス同上法律ヲ以テ(世丁)ノ下別註十三字ヲ加フ

第十條 雜卒ノ現役期限ハ其職務ニ因リ之ヲ短縮スルコトアル可シ但常備兵役ノ全期ハ之ヲ減スルコトナシ元(第九條)同上法律ヲ以テ(第十條)トス

第十一條 抽籤番號ノ順序ニ由リ其年ノ補充兵役所要員ニ超過スル者ハ國民兵役ニ服セシム同上法律ヲ以テ本條ヲ追加ス

第十二條 二十歳ニ至ラスト雖モ滿十七歳以上ノ者ハ志願ニ由リ現役ニ服スルコトヲ得法律ヲ以テ元(第十條)ヲ(第十二條)トス

第十三條 滿十七歳以上(滿二十六歳以下ニシテ官立學校(帝國大學農科及)府縣立師範學校中學校若クハ文部大臣ニ於テ中學校ノ學科程度ト同等以上ト認メタル學校若クハ文部大臣ノ認可ヲ經タル學則ニ依リ法律學政治學理財學ヲ教授スル私立學校ノ卒業證書ヲ所持シ若クハ陸軍試驗委員ノ試験ニ及第シ服役中食料被服裝具等ノ費用ヲ自辨スル者ハ志願ニ由リ一箇年間陸軍現役ニ服スルコトヲ得但費用ノ全額ヲ自辨シ能ハサルノ證アル者ニハ其幾部ヲ官給スルコトアル可シ註(二十二年十一月法律第二十九號ヲ以テ(帝國大學農科及)小學校ヲ除ク)ノ別(滿二十六歳)ヲ(滿二十八歳)ト改メ同上法律ヲ以テ(自辨スル者)ノ別ヲ除ク)ト改メ二十六年三月法律第四號ヲ以テ(自辨スル者)ニ改メ元(第十一條)ヲ(第十三條)トスシ豫備後備將校タル者ニ對シテ(第十一條)ヲ(第十三條)トス一年志願兵ノ豫備役後備役年期ハ勅令ヲ以テ定ム同上法律ヲ以テ本項ヲ改正ス滿十七歳以上(滿二十六歳)以下ニシテ官立府縣立師範學校ノ卒業證書ヲ所持シ官立公立小學校ノ教職ニ在ル者ハ六週間陸軍現役ニ服セシム其服役ニ關スル費用ハ官給トス二十二年

十一月法律第二十九號ヲ以テ本項ヲ改正シ二十六年三月法律第四號ヲ以テ(滿二十六歳)ヲ(滿二十八歳)ト改ム

前項ノ現役ヲ終リタル者ハ直チニ國民兵役ニ服セシム

第三項又ハ第四項ニ依リ服役中ノ者ニシテ(滿二十六歳)迄ニ其教職ヲ罷ムル者ハ抽籤ノ法ニ依ラスニテ更ニ常例ノ兵役ニ服セシム但第一項ニ依リ一年志願兵ヲ志願スル者ハ此限ニ在ラス二十二年十一月法律第二十九號ヲ以テ本項ヲ追加シ(滿二十六歳)ヲ(滿二十八歳)ト改メ同上法律ヲ以テ(常例ノ兵役)ヲ(二箇年間陸軍現役及常例ノ豫備役後備役)ニ改ム

第十四條 禁錮ノ刑ニ處セラレ若クハ賭博犯ニ由テ懲罰ニ處セラレタル者ハ一年志願兵タルコトヲ許サス(元第十二條)同上法律ヲ以テ(第十四條)トス

第十五條 現役中殊ニ勤務ニ熱シ品行方正ナル者ハ歸休ヲ命スルコトアル可シ(第十三條)同上

第十六條 豫備兵(後備兵)ハ戰時若クハ事變ニ際シ之ヲ召集ス平常ニ在テハ毎年一度六十日以内勤務演習ノ爲メ之ヲ召集シ又毎年一度簡閱點呼ヲ爲メ之ヲ召集ス其他勤務演習及簡閱點呼ヲ爲スコト豫備兵ニ同シ(第十六條)

第十七條 第一補充兵及海軍補充兵ハ現役兵ノ補缺ニ充テ又戰時若クハ事變ニ際シ之ヲ召集ス但第一補充兵ヲ以テ現役兵ノ補缺ニ充ツルハ其服役ノ初年ニ限ル同上法律ヲ以テ本條ヲ追加ス

第一補充兵ハ平常ニ在テ百五十日以内教育ノ爲メ之ヲ召集ス其他勤務演習及簡閱點呼ヲ爲スコト豫備兵ニ同シ

第二補充兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ第一補充兵ヲ召集シ仍ホ兵員ヲ要スルトキ之ヲ召集ス(第十五條) 後備兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ豫備兵ニ次テ之ヲ召集ス平常ニ在テハ勤務演

習及簡閱點呼ヲ爲スコト豫備兵ニ同シ（同法律ヲ以テ本條ヲ削除ス）

第十八條 國民兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ後備兵ヲ召集シ尙ホ兵員ヲ要スルトキニ限り之ヲ召集ス（同上法律ヲ以テ元（第十條）ヲ（第十八條）トス）

第三章 免役延期及猶豫

第十九條 預備兵役ヲ免スルハ廢疾又ハ不具等ニシテ徵兵検査規則ニ照シ兵役ニ堪ヘサル者ニ限ル（同上元（第十七條）ヲ（第十九條）トス）

第二十條 左ニ掲グル者ハ徵集ヲ延期ス次年ニ於テ仍ホ徵集ニ適セサル者ハ國民兵役ニ服セシム（同上元（第十八條）ヲ（第二十條）トス）

第一 體格完全且強壯ナルモ身幹未タ定尺ニ滿タサル者

第二 疾病中又ハ病後ニシテ勞役ニ堪ヘサル者

第二十一條 公權ノ剝奪若クハ停止ヲ附加ス可キ重輕罪ノ爲メ訊問若クハ勾留中ノ者ハ徵集ヲ延期ス（同上元（第十九條）ヲ（第二十一條）トス）

第二十二條 徵集ニ應スルトキハ其家族自活シ能ハサル確證アル者ハ本人ノ願ニ由リ徵集ヲ延期ス其事故三箇年ヲ過クルモ止マサル者ハ國民兵役ニ服セシム但分家又ハ絶家廢家再興ノ故ヲ以テ本條ニ當ル者其他自活シ能ハサル事故ヲ作爲シタル者ハ其願ヲ許可セス（第二十條）同上法律ヲ以テ（第二十二條）トス）

第二十三條 （第十一條）第一項ニ掲グル學校ニ在校ノ者ハ本人ノ願ニ由リ（滿二十六歲）迄徵集ヲ猶豫ス其事故（滿二十六歲）迄ニ止ミ又ハ（二十六歲）ヲ過クルモ仍ホ止マサル者ハ抽籤ノ法ニ依ラスシテ之ヲ徵集ス但（第十一條）第一項ニ依リ一年志願兵ヲ志願スル者ハ（第十一條）第三項ニ依リ服役スル者ハ此限ニ在ラス（二十二年十一月法律第二十九號ヲ以テ本項ヲ（第十一條）ニ改メ元（第二十一條）ヲ（第二十三條）トス）外國ニ在ル者（朝鮮國ニ在ル者）ハ本人ノ願ニ由リ徵集ヲ猶豫ス滿三十二歲迄ニ歸朝スル者ハ抽籤ノ法ニ依ラスシテ之ヲ徵集シ三十二歲ヲ過クル者ハ國民兵役ニ服セシム但第十三條第一項ニ依リ一年志願兵ヲ志願スル者ハ此限ニ在ラス（同上法律ヲ以テ）

第二十四條 餘人ヲ以テ代フ可カラサル職務ヲ奉スル官吏及市町村長助役及收入役ハ豫備兵ニ在ルト後備兵ニ在ルトヲ問ハス勤務演習簡閱點呼ノ爲メ召集スルコトナシ（同上法律ニ在ルト後備兵）ヲ（後備兵ニ在ルト第一補充兵）ニ改メ元（第二十二條）ヲ（第二十四條）トス）法律ヲ以テ設立シタル議會ノ議員其開會中亦同シ

第四章 豫備徵員（同上法律ヲ以テ）豫備徵員（同上法律ヲ以テ）豫備徵員ノ順序ニ從ヒ毎年所要ノ現役兵員ニ超過スル壯丁ハ一箇年間（十二月）豫備徵員トシ戰時若クハ事變ニ際シ兵員ヲ要スルトキ又ハ其年徵集ノ兵員缺クルトキ之ヲ徵集ス（前條）

第二十四條 （豫備徵員ニシテ其期限内ニ徵集セサル者ハ國民兵役ニ服セシム）（前條）

第四章 雜則（同上法律ヲ以テ）

第二十五條 毎年一月ヨリ十二月迄ニ滿二十歳ト爲ル者ハ其年ノ一月一日ヨリ同月三十一日迄ニ及第二十三條第一項ニ當ル者ニシテ二十八歳迄ニ事故止ニ同條第二項ニ當ル者ニシテ三十二歳迄ニ歸朝シタル者ハ十四日以内ニ書面ヲ以テハ其月主ヨリ本籍ノ市町村長ニ届出可シ但二十歳未滿ニシテ現役ヲ終ヘタル者又ハ現役中ノ者ハ本條ノ届出ヲ爲スニ及ハス同上法律ヲ以テ(又第二十ニ及ハス三條以下五十七字ヲ加フ)

第二十六條 徵集ハ本籍所在ノ徵募區ニ於テスルヲ(例)トス(他ノ徵募區ニ寄留スル者ハ願ニ由リ其區ニ於テ徵集ニ應スルコトヲ得)(同上法律ヲ以テ(例)ヲ(モ)ノ)ニ改メ

第二十七條 疾病又ハ犯罪等ノ爲メ期限ニ際シ入營シ難キ者ハ翌年之ヲ徵集ス

第二十八條 兵役ヲ免レンカ爲メ身體ヲ毀傷シ疾病ヲ作爲シ其他詐僞ノ所爲ヲ用ヒ又ハ逃亡若クハ潜匿シタル者又ハ正當ノ事故ナク身體ノ検査ヲ受ケサル者ハ抽籤ノ法ニ依ラヌシテ之ヲ徵集ス

第二十九條 服役年期ノ計算ハ現役、豫備役、補充役及海軍後備役ニ在テハ各其役ニ就ク年ノ十二月一日第十三條第三項ニ依リ服役スル者ノ現役年期ノ計算ハ別ニ勅令ヲ以テ規定スル月日ヨリ起算スヨリ陸軍後備役ニ在テハ各其役ニ就ク年ノ四月一日ヨリ起算ス但第七條ニ依リ延期シタルモノト雖モ服役年期ノ計算ハ延期セサル者ニ同シ二十八、三十三、三十四、三十五條ヲ改メ

現役中禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ逃亡シタル者其刑期中及逃亡中ノ日數ハ現役年期ニ算入セス其豫備役年期ハ現役ヲ終ル年ヨリ起算シ陸軍ニ在テハ第六年目ノ三月三十一日迄海

軍ニ在テハ第五年目ノ十一月三十日迄トス但第十條ニ依リ現役年期ヲ短縮シタルモノハ其現役ヲ短縮シタル場合ニ於ケル豫備役年期ニ應ジ本項ニ準シテ計算ス

豫備役後備役及補充役中犯罪ノ爲メ又ハ正當ノ事由ナクシテ召集ヲ缺キタル者其召集ヲ缺キタル年ハ服役年期ニ算セス

第五章 罰則同上法律ヲ以テ(第六、第七、第八、第九、第十、第十一、第十二、第十三、第十四、第十五、第十六、第十七、第十八、第十九、第二十、第二十一、第二十二、第二十三、第二十四、第二十五、第二十六、第二十七、第二十八、第二十九、第三十、第三十一、第三十二、第三十三、第三十四、第三十五、第三十六、第三十七、第三十八、第三十九、第四十、第四十一、第四十二、第四十三、第四十四、第四十五、第四十六、第四十七、第四十八、第四十九、第五十、第五十一、第五十二、第五十三、第五十四、第五十五、第五十六、第五十七、第五十八、第五十九、第六十、第六十一、第六十二、第六十三、第六十四、第六十五、第六十六、第六十七、第六十八、第六十九、第七十、第七十一、第七十二、第七十三、第七十四、第七十五、第七十六、第七十七、第七十八、第七十九、第八十、第八十一、第八十二、第八十三、第八十四、第八十五、第八十六、第八十七、第八十八、第八十九、第九十、第九十一、第九十二、第九十三、第九十四、第九十五、第九十六、第九十七、第九十八、第九十九、第一百)トス

第三十條 第二十五條ノ届出ヲ爲サ、ル者及正當ノ事故ナク身體ノ検査ヲ受ケサル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十一條 兵役ヲ免レンカ爲メ逃亡シ又ハ潜匿シ若クハ身體ヲ毀傷シ疾病ヲ作爲シ其他詐僞ノ所爲ヲ用ヒタル者ハ一年以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第六章 附則同上法律ヲ以テ(第七、第八、第九、第十、第十一、第十二、第十三、第十四、第十五、第十六、第十七、第十八、第十九、第二十、第二十一、第二十二、第二十三、第二十四、第二十五、第二十六、第二十七、第二十八、第二十九、第三十、第三十一、第三十二、第三十三、第三十四、第三十五、第三十六、第三十七、第三十八、第三十九、第四十、第四十一、第四十二、第四十三、第四十四、第四十五、第四十六、第四十七、第四十八、第四十九、第五十、第五十一、第五十二、第五十三、第五十四、第五十五、第五十六、第五十七、第五十八、第五十九、第六十、第六十一、第六十二、第六十三、第六十四、第六十五、第六十六、第六十七、第六十八、第六十九、第七十、第七十一、第七十二、第七十三、第七十四、第七十五、第七十六、第七十七、第七十八、第七十九、第八十、第八十一、第八十二、第八十三、第八十四、第八十五、第八十六、第八十七、第八十八、第八十九、第九十、第九十一、第九十二、第九十三、第九十四、第九十五、第九十六、第九十七、第九十八、第九十九、第一百)トス

第三十二條 本令ハ明治二十二年一月ヨリ施行ス但第二十五條ノ届出期限ハ明治二十二年ニ限リ三月一日ヨリ同月十五日迄トス

第三十三條 本令ハ北海道ニ於テ函館江差福山ヲ除クノ外及沖繩縣並東京府管下小笠原島ニハ(當分)之ヲ施行セス(漸)シテ施行ス其時期區域及特ニ徵集ヲ免除シ若クハ猶豫ス可キモノハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム同上法律ヲ以テ(第十三、第十四、第十五、第十六、第十七、第十八、第十九、第二十、第二十一、第二十二、第二十三、第二十四、第二十五、第二十六、第二十七、第二十八、第二十九、第三十、第三十一、第三十二、第三十三、第三十四、第三十五、第三十六、第三十七、第三十八、第三十九、第四十、第四十一、第四十二、第四十三、第四十四、第四十五、第四十六、第四十七、第四十八、第四十九、第五十、第五十一、第五十二、第五十三、第五十四、第五十五、第五十六、第五十七、第五十八、第五十九、第六十、第六十一、第六十二、第六十三、第六十四、第六十五、第六十六、第六十七、第六十八、第六十九、第七十、第七十一、第七十二、第七十三、第七十四、第七十五、第七十六、第七十七、第七十八、第七十九、第八十、第八十一、第八十二、第八十三、第八十四、第八十五、第八十六、第八十七、第八十八、第八十九、第九十、第九十一、第九十二、第九十三、第九十四、第九十五、第九十六、第九十七、第九十八、第九十九、第一百)トス

第三十四條 本令中市町村長トアルハ市制町村制ヲ實施スル迄ノ間戸長ノコトトス

第三十五條 現今陸軍豫備役ニ在ル者ノ服役年期ハ第三條ニ依ル其後備役ニ在ル者ハ常備役年期ヲ通シテ十二箇年四箇月トス同上法律ヲ以テ本條ヲ改正ス

第三十六條 舊令第十七條ニ依リ徵集猶豫ニ屬シタル者ハ徵集ヲ延期シ其事故七箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサルトキハ國民兵役ニ服セシム

第三十七條 舊令第十八條第二項ニ依リ徵集猶豫ニ屬シタル者ハ徵集ヲ延期シ其事故七箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサルトキハ國民兵役ニ服セシム

第三十八條 舊令第十八條第七項及第二十一條ニ依リ徵集猶豫ニ屬シタル者ハ徵集ヲ延期シ其事故七箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサルトキハ國民兵役ニ服セシム

第三十九條 舊令第十八條第三項ノ生徒ニシテ第一豫備徵員ト爲リ仍ホ在校ノ者ハ該徵員タルコトヲ止メ滿三十七歳迄徵集ヲ猶豫シ其事故二十七歳ヲ過クルモ仍ホ止マサルトキハ國民兵役ニ服セシム

第四十條 第三十六條第三十七條第三十八條及第三十九條ニ掲グル者其事故各其本條ノ期限内ニ止ミタルトキハ抽籤ノ法ニ依リ徵集ス但一年志願兵ヲ志願スルコトヲ得

第四十一條 舊令第十八條第三項若クハ第十九條ニ依リ徵集猶豫ニ屬シ在校ノ者ハ其事故(六箇年)以内ニ止ミタルトキ又ハ(六箇年)ヲ過クルモ仍ホ止マサルトキハ抽籤ノ法ニ依リ徵集ス但一年志願兵ヲ志願スルコトヲ得二十六年三月法律第四號ヲ以テ(六箇年)ヲ(八箇年)ト改ム

第四十二條 舊令第三十條ニ依リ補充員ト爲リタル者ハ之ヲ豫備徵員ト爲シ三箇年間明治二十

一年十二月一日ヨリ起算スニ徵集セサル者ハ國民兵役ニ服セシム

第四十三條 舊令第三十一條ニ依リ第一豫備徵員ト爲リ在校セサル者及舊令第三十二條ニ依リ第二豫備徵員ト爲リタル者ハ直ニ國民兵役ニ服セシム補充員ヨリ第一豫備徵員ト爲リタル者亦同シ

第四十四條 明治十二年第四十六號布告徵兵令ニ依リ國民軍ノ外免役又ハ平時免役若クハ徵集猶豫ニ屬シタル者ハ直ニ國民兵役ニ服セシム

第四十五條 舊令第八條ニ依リ海軍兵ト爲リタル者ノ服役期限ハ同令第三條及第四條ニ依ル

第四十六條 第三十六條第三十七條第三十八條ニ掲グル徵集延期ノ者及第三十九條第四十條ニ掲グル徵集猶豫ノ者其事故各其本條ノ期限内ニ止ミタルトキハ三日以内ニ本籍ノ市町村長ニ届出可シ

(第十一條)第三項又ハ第四項ニ依リ服役中ノ者ニシテ滿二十六歳迄ニ其殺職ヲ罷ハル者ハ三日以内本籍ノ市町村長ニ届出可シ(第二十八條)第三項法律第十五號ヲ以テ(第十一條)第三項ニ改ム

(前項)ノ届出ヲ爲サハル者及本令施行前舊令第三十五條第三十六條ノ届出ヲ爲サスシテ本令施行後ニ於テ發覺スル者ハ本令第三十條ニ依リ處分ス(第二十六條)第三項法律第四號ヲ以テ(前項)ヲ(第一項第二項)ト改ム

(附言) 二十八號ヲ以テ前記ノ如ク本令ヲ改正ス其法律ノ末尾ニ附則ヲ掲ケテ曰「此ノ法律ハ明治二十八年四月一日ヨリ施行ス但現今ノ豫備徵員ハ從前ノ規程

●舊徵兵令明治十六年十二月二十八日
布告第四十六號

第八條 陸軍現役兵ハ毎年所要ノ人員ニ應ジ壯丁ノ身材藝能職業ニ從ヒ歩兵騎兵砲兵工兵輜重兵及ヒ雜卒職工ニ區別シ抽籤ノ法ニ依リ當籤ノ者ヲ以テ之ニ充ツ

海軍現役兵ハ海軍所要ノ人員ニ應シ沿海地方及ヒ島嶼ノ人民ヲ調査シ海軍ニ適スル職業ニ從ヒ水兵火夫職工等ニ區別シ抽籤ノ法ニ依リ當籤ノ者ヲ以テ之ニ充ツ但海軍志願兵徵集規則ニ依リ就役スル者ハ本令ノ限ニ在ラス

第十一條 年齡滿十七歲以上滿二十七歲以下ニシテ官立府縣立學校小學校卒業證書ヲ所持シ服役中食料被服等ノ費用ヲ自辨スル者ハ願ニ因リ一箇年間陸軍現役ニ服セシム其技藝ニ熟達スル者ハ若干月ニシテ歸休ヲ命スルコトアル可シ但常備兵役ノ全期ハ之ヲ減スルコトナシ

第十七條 左ニ掲ケル者ハ徵集ヲ猶豫ス但其年補充員不足スルトキ又ハ戰時若クハ事變ニ際シ兵員ヲ要スルトキハ之ヲ徵集ス

第一項 兄弟同時ニ徵集ニ應スル者ノ内一人及ヒ現役兵ノ兄或ハ弟一人

第二項 現役中死没又ハ公務ノ爲メ負傷シ若クハ疾病ニ罹リ免役ニタル者ノ兄或ハ弟一人

第三項 戶主年齡滿六十歲以上ノ者ノ嗣子或ハ承祖ノ孫

第四項 戶主癡疾又ハ不具ニシテ一家ノ生計ヲ營ムト能ハサル者ノ嗣子或ハ承祖ノ孫

第五項 戶主 左ニ掲ケル者ハ其事故ノ存スル間徵集ヲ猶豫ス

第一項 教正ノ職ニ在ル者

第二項 官立府縣立學校小學校卒業證書ヲ所持スル者ニシテ官立公立學校教員タル者

第三項 官立大學校及ヒ之ニ準スル官立學校本科生徒

第四項 陸海軍生徒海軍工夫

第五項 身幹未タ定尺ニ滿タサル者

第六項 疾病中或ハ病後ノ故ヲ以テ未タ勞役ニ堪ヘサル者

第七項 學術修業ノ爲メ外國ニ寄留スル者

第八項 禁錮以上ニ該ル可キ刑事被告人ト爲リ裁判未決ノ者

第九項 公權停止中ノ者

第十九條 官立府縣立學校小學校ニ於テ修業一個年以上ノ課程ヲ卒リタル生徒ハ六個年以內徵集ヲ猶豫ス

第二十一條 官省院廳府縣ニ於テ餘人ヲ以テ代フ可カラサル技術ノ職ヲ奉スル者ハ太政官ノ決裁ニ依テ徵集ヲ猶豫スルコトアル可シ

第二十條 補充員ハ補充籤ヲ抽シタル者ヲ以テ一個年間之ニ充ツ其期限内現役兵欠員ス

ルトキ又ハ戰時若クハ事變ニ際シ兵員ヲ要スルトキ其番號ノ順序ニ從ヒ之ヲ徵集ス
補充員ノ數ハ概テ現役徵員五分ノ二ヨリ少カラサルモノトス

第三十一條 補充員ニシテ其期限内徵集ノ命ヲキ者及ヒ第十八條第三項ノ生徒ニシテ二
個年以上ノ課程ヲ卒リタル者ハ年齡滿二十七歲迄之ヲ第一豫備徵員トス

第三十二條 第十七條ニ當ル者ニシテ其年徵集ノ命ナキ者第十八條第二十一條ニ當ル者
ニシテ七個年間其事故ノ存スル者及ヒ第一豫備徵員ヲ終リタル者年齡滿三十二歲迄ハ
之ヲ第二豫備徵員トス但第十七條ニ當ル者第二豫備徵員ト爲リタル後六個年間ニ該條
ニ掲クル資格ヲ失ヒタルトキハ現役ニ徵集ス

第三十五條 毎年一月ヨリ十二月迄ニ年齡滿二十歲ト爲ル者ハ其年ノ九月一日ヨリ同月
十五日迄ニ書面ヲ以テ戸主ヨリ本籍ノ戸長ニ届出可シ若シ届出ノ後翌年四月十日迄ニ
異動ヲ生シタルトキハ其事由ヲ詳記シ三日以内ニ本籍ノ戸長ニ届出可シ但二十歲未滿
ニシテ現ニ服役スル者ハ届出ルニ及ハス

第三十六條 第十七條ニ當ル者其資格ヲ失ヒ第十八條第十九條第二十一條ニ當ル者其事
故止ミ及ヒ第三十二條但書ニ當ル異動ヲ生シタルトキハ其事由ヲ詳記シ其年ノ九月一
日ヨリ同月十五日迄ニ戸主ヨリ本籍ノ戸長ニ届出可シ但九月十六日以後翌年四月十日
以前本條ニ當ル者ハ三日以内ニ本籍戸長ニ届出可シ

○第二百七十七條 令第二十三條第二項ニ當ル者徵集猶豫出願證明書添付ノ件明治三十
八年一月

二十四日
陸軍省令第一號

明治二十六年陸軍省令第一號ヲ左ノ通改正ス

一 徵兵令(第二十一條)第三項ニ依リ徵集猶豫ヲ出願セントスル者ニシテ其願書ニハ公使
又ハ領事ノ證明書ヲ添ヘ三月一日迄ニ差出シ難キ事情アルモノハ海外旅券ヲ受取リタ
ル官廳ノ承認書ヲ以テ公使又ハ領事ノ證明書ニ換ヘ同日迄ニ差出シ置キ追テ該證明書
ヲ差出スコトヲ得(令第二十一條ハ二十八年三月法律
第十五號ヲ以テ第二十三條ト改ム)

二 公使及領事ヲ置カサル國ニ在ル者ハ其徵集猶豫願書ニ海外旅券ヲ受取リタル官廳ノ證
明書ヲ添ヘ差出スベシ

○第二百七十八條 令第二十四條ニ當ル官吏資格ノ件明治二十二年二月二十七日
閣令第六號各官廳

明治二十二年法律第一號徵兵令第二十二條ニ當ル餘人ヲ以テ代フ可カラサル職務ヲ奉スル
官吏ハ豫メ其官廳ヨリ内閣ニ具狀シ認可ヲ請フ可シ令第二十二條ハ廿八年法律第
十五號ヲ以テ二十四條トナル

○第二百七十九條 師範學校卒業生ニシテ令第四十一條第二十七條ニ關スル件明治二十
二年八月八日公布
法律第八號

朕官立府縣立師範學校卒業生ノ徵兵ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

官立府縣立師範學校生徒ニシテ明治二十二年中ニ卒業スル者ハ徵兵令第四十一條ニ據ラズ
直ニ官立公立學校ノ教員ト爲ルコトヲ得其教員ト爲リタル者ハ同令第三十七條ニ據リ處分
スベシ

○第二百八十 附籍者徵兵適齡届出方ノ件明治二十二年一月二十二日(内務大臣連署)
附籍者ニシテ徵兵適齡ノトキハ戸主ト家族ヲ問ハス戸主ヨリ家族ノミ他ヘ附籍ノ場合ニ在
テハ本籍戸主ヨリ徵兵令第二十五條ノ届書ヲ差出サシメ本籍ノ徵募區ニ於テ徵集ニ應ゼシ
ム可シ

○第二百八十 北海道ニ徵兵令施行ノ件明治二十八年九月二十日(同日二十一日公布)
勅令第四百二十六號

第一條 明治二十九年一月一日ヨリ北海道渡島、後志、膽振、石狩ノ四箇國ニ徵兵令ヲ施行ス
第二條 前條ノ徵兵令施行地ニ轉籍移住シ開墾其ノ他一定ノ生業ニ従事スル者ハ轉籍移住
ノ後五箇年ニ滿ツル年迄徵集ヲ猶豫ス但轉籍移住ノ後前條ノ區域外ニ轉籍シ更ニ轉籍移
住シタル者ハ此ノ限ニアラス

第三條 屯田兵ノ戸籍内ニ在ル者ハ徵集ヲ免除ス

第四條 從來徵兵令ヲ施行セル函館江差福山ニハ本令ヲ適用スルノ限ニアラス

○第二百八十 沖繩縣ニ徵兵令ノ一部施行ノ件明治二十八年十月四日(同日五日公布)
勅令第四百四十二號

明治二十九年一月一日ヨリ沖繩縣ニ徵兵令第十三條第三項第四項ヲ施行ス

●伺指令

●徵集猶豫ノ小學校教員ニシテ師範學校入學ノ者引續猶豫ノ件明治二十二年三月十六日
宮城縣伺
小學校教員ニシテ徵集猶豫ニナリタル者ニシテ高等師範學校ニ入學セシムル者ハ引續キ猶
豫ニ屬スヘキヤ

陸軍省指令 明治二十二年三月十八日

伺ノ通但シ更ニ新令第二十一條(改正二十三條)ニ依ルモノトス

●令第二十三條第四十條第四十一條但書適用方第三十六條乃至第三十八條第四十一條年限
分界方及第三十九條ノ事故止ミタル者徵集方等ノ件明治二十二年三月十八日
大阪府伺合

本年法律第一號ヲ以テ徵兵令改正相成候就テハ本令ニ關スル取扱方不日發布可相成トハ存
候得共最早各自届出期限ニモ差迫候ニ付不取敢左ノ廉々及御問合候

一第二十一條(改正二十三條)第四十條第四十一條ノ但書ハ各其本文年齢滿二十六歳若クハ
六箇年ヲ過クル者ニモ適用スヘキ乎

一第三十五條但書現役中ニハ陸海軍諸生徒モ含有スル乎

一第三十六條乃至第三十八條及第四十一條中何箇年トアルハ各自ノ年齢ニ拘ハラス例ヘハ
文久元年五月生(即チ明治十
五年徵兵)ニシテ舊令ニ據リ平時免役ニ屬セシ者其後右免役名稱ヲ罷メ

再ヒ舊令第十八條ニ當ル資格ヲ得タルニヨリ更ニ該條ニ據リ處分セシ者ノ如キハ其處分
セシ年ヲ以テ第一年トシ其第七年若クハ第六年目ノ十二月迄ヲ以テ分界トスヘキ乎

一第三十九條中年齡滿二十七歳迄ニ其事故ノ止ミタル者其年徵集スル能ハサルトキハ二十
七歳ヲ過ルモ翌年之ヲ徵集スヘキ乎

陸軍省總務局回答 明治二十二年三月十一日
第一項御見解ノ通

但第二十一條(改正二十三條)第一項ノ事故止マサル者ハ滿二十六歳トナル年ニ於テ徵集スルヲ以テ同項但書ハ二十六歳以前ノ者ニ適用ス

第二項御見解ノ通

但兵籍ニ編入セザル者ハ此限ニ在ラス

第三項適齡年ヨリ起算シ第七年第八年目ノ徵集事務終結ヲ以テ分界トス

第四項徵募事務終結後ニ係ル者ハ徵集セズ

●令第十二條第二十二條第二十三條第三十六條乃至第三十八條第四十一條ノ年齡及年限起算方ノ件明治二十二年二月九日 宮城縣問合

徵兵令中疑義ノ廉左ニ及御問合候

第一項 令第十條(改正十二條)ノ滿十七歳及第十一條(改正十三條)ノ滿十七歳二十六歳ハ其志願スル年ノ十二月ヲ以テ分界トスヘキヤ

第二項 令第二十條(改正二十二條)ノ三箇年及第三十六條第三十七條第三十八條ノ七箇年並第四十一條ノ六箇年ハ適齡年ノ一月ヨリ起算スヘキヤ將タ十二月一日ヨリ起算スヘキヤ

第三項 令第二十一條(改正二十三條)ノ滿二十六歳及第三十九條ノ滿二十七歳ハ生月ヨリ起算スヘキヤ將タ適齡年ノ十二月一日ヨリ起算スヘキヤ
陸軍省總務局回答 明治二十二年三月十二日

第一項 滿十七歳ハ見解ノ通滿二十六歳ハ志願スル年ノ一月ヨリ十二月迄ニ其年齡ニ當ル者ヲ云フ

第二項 令第二十條(改正二十二條)ノ三箇年ハ同條ノ事故ニ由リ徵集ヲ延期シタル年ヨリ其他ハ適齡ノ年ヨリ起算ス

第三項 適齡ノ年ヨリ起算シ滿二十六歳又ハ滿二十七歳トナル年ノ徵募事務終結ヲ以テ徵集猶豫ノ分界トス

●舊徵兵令第二十條ノ官吏召集ノ件明治二十二年四月一日(電報) 鹿兒島縣問合

舊令第二十條ニ當ル官吏ハ更ニ客月閉令六號ノ手續ヲ爲スニ非サレハ召集可相成哉

陸軍省回答 明治二十二年四月五日(電報)

問合ノ通

●官立府縣立師範學校卒業者ニシテ猶豫ノ事故止ミタル者六箇月現役志願及令第二十八條ニ依リ徵集スル者ノ件明治二十二年四月六日 岩手縣問合

第一項 徵兵令第二十二條(改正二十三條)及第四十一條但書一年志願兵ヲ志願スルヲ得ヘキ旨掲載有之然レハ一旦猶豫ニ屬シタルモ事故止ミタルトキハ一年志願兵ヲ志願スルヲ得ルニ止リタルモノ、如ク相見得候得共官立府縣立師範學校ノ卒業者ハ第十一條(改正十三條)ニ依リ六箇月現役ヲ志願スルコトヲモ得ル儀ニ候哉

第二項 同令第二十八條ニ依リ抽籤ノ法ニ依ラスシテ徵集スルモノハ第三十條又ハ第三十

一條ニ依リ處罰セラレタルモノニ限ルヤ
陸軍省指令 明治二十二年四月十五日

第一項 伺之通

第二項 公訴期満免除トナリタル者ヲ除クノ外伺ノ通

●令第十三條第三項ニ當ル者翌年廻處分方及入營旅費支給ノ件 明治二十三年三月十九日 佐賀縣被廳
一 毎年六月一日以後徴兵令第十一條(改正十三條)第三項ノ資格ヲ有シタル者ハ翌年廻シト
ナスヘキヤ

但六月一日前ニ本文資格ヲ得ルモ夫々取扱中期日經過スルモノモ本文同様可取計哉
一 入營旅費ハ一般徴兵旅費定則ニ依リ本縣ニ於テ支給スヘキヤ
陸軍省總務局回答 明治二十三年四月一日

總テ御意見ノ通ト存候

●公立小學校長令第十三條第三項ニ依リ取扱ノ件 明治二十三年四月二日 佐賀縣被廳

公立小學校長ハ直接生徒ニ教授ヲナサ、ルモ訓導其他教員ヲ指揮職務ヲモ整理スルモノニ
付教職ト稱ス可キヤ果シテ然ラハ徴兵令第十一條(改正十三條)第三項ニ依リ取扱筋ニ候哉
陸軍省總務局回答 明治二十三年四月十二日

御意見ノ通

●令第四十六條届出方ノ件 明治二十四年五月十九日 佐賀縣被廳

徴兵令第四十六條届出ノ儀ハ戸主本人ノ區別明文無之候處同令第二十五條届出ノ原則ヨリ
推考スル時ハ勿論戸主ヨリ届出ヘキチ正當ノ儀ト被相考候果シテ然ルトキハ同令第二十五
條第四十六條ノ届出ハ同一ノ精神ニ出ルモノト相心得可然哉
陸軍省指令 明治二十四年五月二十五日

伺ノ通

但第四十六條第二項ニ當ルモノ戸主ニアラサルトキハ本人ヨリ届出ヘキモノトス
●令第二十七條ニ當ル者海軍志願兵志願ノ件 明治二十四年六月二日 三浦縣被廳

徴兵現役當籤ノ者ハ海軍志願兵徵募規則ニヨリ志願スルコトヲ得サル旨先キニ鹿兒島縣へ
御指令相成候處徴兵令第二十七條ニヨリ翌年徵集セラルヘキ者ハ假令前年ニ於テ現役當籤
セシモ抽籤前ニ在リテハ同規則ニヨリ志願スルコトヲ得ルヤ本年陸軍省令第五號違ノ次第
モ有之候ニ付相伺候

海軍省指令 明治二十四年六月二十五日

徴兵令第二十條ニ當ル者ハ海軍志願兵徵募規則ニ依リ志願スルヲ得ス

●徴兵未行地へ轉籍ノ者検査後抽籤前徵集セサル件 明治二十五年五月二十四日 滋賀縣被廳

變ニ兵庫縣知事ヨリ徵集相當者ノ内家事ノ都合ニ依リ徴兵未行地へ全戸轉籍又ハ分家移住
セシ場合ニ於テ別ニ徴兵上規定無之候得共既ニ検査ノ上合格セシモノ抽籤前並ニ新兵ニ
テ入營前ハ勿論徵集スル義ト相心得可然哉トノ伺ニ對シ徵集セサル旨御指令相成候然ルニ

本月二十日官報第二千六百六十六號登載ノ貴省副官ヨリ兵庫縣知事ヘノ御通牒ニ依レハ右御指令ハ徵兵事務條例第五十條ノ改正ニ依リ全部消滅ニ屬シタルモノ、如クニ相見ヘ候得共條例第五十條ハ單ニ新兵入營前ノ規定ナルヲ以テ檢査後ト雖モ抽籤前ニ於テ令第二十八條ニ當ル者ト否トヲ間ハス總テ從前ノ如ク徵集セサル義ト承知致シ可然哉爲念及御問合候
 陸軍省軍務局第三軍事課回答 明治二十五年五月二十七日
 御意見ノ通ニ付此段及御回答候也

(附言) 兵庫縣知事ヘ陸軍副官ヨリノ通報ハ事務條例ク末ニ附記ス

●尋常師範學校簡易科卒業者令第十三條第三項第四項取扱ノ件明治二十五年七月二十七日 文部省照會
 官立府縣立師範學校卒業者ハ一定ノ年限間國家教育ノ職務ニ服事セシムヘキ者ナレハ之ヲ普通ノ兵役ニ服セシムルトキハ長ク其職務ヲ廢止セシムルコト、ナリ學政上ニ支障尠カラサルカ爲該卒業者ノ兵役義務ニ就テハ明治二十二年法律第一號徵兵令第十一條改正第十三條第三項第四項ノ特典ヲ設ケテ居候處本年七月文部省令第八號ヲ以テ尋常師範學校ノ學科及其程度ヲ改正シ其第四條ニ於テ土地ノ情況ニ依リ尋常師範學校ニ簡易科ヲ置ケテ得セシメ又同省令第十五號ヲ以テ尋常師範學校簡易科規程ヲ設タリ抑モ此簡易科ヲ設ケタル理由ハ目下小學校教員缺乏ノ折柄尋常師範學校ニ於テ毎年卒業セシムル者ノミニテハ容易ニ其需要ニ應スルコト能ハサレハ一時權宜ノ途ニ依リ尋常小學校即チ各市町村ニ於テ必ス設置セサル可ラサル小學校ノ教員ヲ養成シ以テ國家教育ノ普及ヲ計ルハ學政上之ヲ以テ今日

ノ急務トスルニ在リ故ニ簡易科卒業者モ亦國家教育ノ職ニ服事スルコト從前ノ師範學校卒業者ト毫モ徑庭アルコトナシ唯其速成ヲ期シテ修業年限ヲ短縮シ隨テ服務年限ヲモ幾分カ短縮シタルアルノミ又簡易科ノ課程ニモ兵式體操ヲ加ヘ其程度ハ尋常師範學校ニ於テ他ノ生徒ニ課スルモノト異ナル所ナシ唯修業年限ノ短キカ爲ニ熟練ニ於テ多少ノ差アルヲ免カレサルノミ之ヲ要スルニ簡易科モ亦尋常師範學校ノ一部ニシテ其卒業者ハ即チ國家教育ノ職務ニ服事セシムル者ナレハ該卒業者モ亦前記徵兵令ノ特典ニ與カラシムヘキハ學政上必要ニ候條貴省御主管ノ徵兵事務ニ於テモ前陳ノ理由ニ依リ尋常師範學校簡易科卒業者ハ即チ府縣立師範學校卒業者タルコトヲ認メテ御取扱相成様致度候依テ別記參考書相添此段及御照會候也 (參考書略ス)

陸軍省回答 明治二十五年八月二十日

今般學政上ノ都合ヲ以テ尋常師範學校ニ簡易科ヲ置カレ候處右簡易科卒業ノ者モ徵兵令第十一條(改正十三條)第三項第四項ニ依リ取扱候様御照會ノ趣承知致候

●令第二十條ノ事故再發者取扱ノ件明治二十五年十一月三十日 第五師團申請
 徵兵令第二十條(改正二十二條)ニ因リ徵集延期既ニ三年ニ至リ其後事故止ミ徵集身分ト爲リ新令ニ合格ノ處抽籤後入營再ヒ本條相當ノ事故ヲ生ジタルヲ以テ徵兵事務條例第五十三條ニ依リ徵集ヲ延期シタル者有之候處右ハ前後ヲ通算スルトキハ三箇年ヲ過クル者ニ付翌年徵集事務執行ノ勸國民兵編入ノ處分ヲ爲シ可然候哉或ハ事故再發ノ者ニ付更ニ三箇年過

キ仍ホ事故止マサル者ニ非ラサレハ其取扱難致儀ニ候ヤ是迄類例モ無之候間何分ノ御指揮相成度

陸軍省指令 明治二十五年十二月七日

後段申請ノ通

●令第二十二條事故再發者取扱德島縣へ回答ト矛盾ノ件明治二十五年十二月二十日 熊本縣問合

徵兵令第二十二條(改正二十二條)徵集延期ノ年通算ノ義ニ付去ル明治二十三年十二月二十日

貴課ヨリ德島縣へ御回答ノ趣有之候處本月八日第五師團長ノ申請ニ對スル陸軍大臣ノ御指

令ハ前後ノ年限ヲ通算セサル事ニ相成居右ハ一端現役ニ當籤セシ後新ニ事故ノ生シタルモ

ノト否ラサルモノトニ依リ差違アル義ト了解致可然哉何分ノ御回答有之度候也

陸軍省第二軍事課回答 明治二十六年二月二十二日

事故ノ繼續ト否トニ由リ區別アル旨趣ニ有之候尤德島縣照會ノ儀モ乙家離退ノ時一旦

事故止ミタル者ニ付丙家ニ於テ延期トナリタル初年ヨリ更ニ延期年限ヲ起算シ可然旨

其後同縣へ及通知候條右様御承知有之度

●小學校教員休職者及六週間現役ヲ終リタル徵員徵集セサル件明治二十五年九月十九日 島根縣書記官照會

第一項 舊徵兵令第十八條第二項相當ニシテ新徵兵令第三十七條ニ依リ徵集延期ノモノ七

箇年内ニ於テ明治二十四年十一月文部省令第二十號第五條ニ依リ休職ヲ命セラル、モ教員

ノ資格ヲ存スルモノニ付徵集スヘカラサル儀ニ候哉

第二條 徵兵令第十一條(改正第十三條)第三項ニ依リ六週間ノ現役ヲ終リタル教員ニシテ

其在官ノ儘高等師範學校其他官立學校ニ入學セシモノハ國民兵ノ儘差措可然哉

但徵兵令第三十七條ニ依リ徵集延期ノモノ本文同様ノトキハ依然徵集延期可相成哉

右差掛リタル儀有之候間速ニ何分ノ御回答相成度

陸軍省軍務局第二軍事課回答 明治二十五年九月二十七日

兩項但書共御意見ノ通ト存候

●豫備徵員徵集ニ關スル件明治二十七年十二月二十五日 德島縣問合

今回ノ充員召集ニ當リ徵集セラレタル豫備徵員疾病犯罪其他ノ事故アリ入營セサル者ハ令

第二十七條ニ據リ爲取扱可然ト思考候得共聊カ疑義有之爲念及御問合候

陸軍省軍務局第二軍事課回答 明治二十七年十二月二十八日

事故ノ爲メ徵集セサルモ其期限ノ終ル迄ハ戰時事變ニ於ケル徵集ニ應スヘキ義務ヲ有

スル者ニシテ新兵ニ繰上ラレタル者トハ相異候ニ付徵兵令第二十七條ニ據ルノ限ニア

ラサル儀ト御承知有之度

●寄留地應徵者ニ關スル件明治二十八年三月二十日 岐阜縣問合

徵兵令第二十六條中改正相成リタルモ既ニ許可セシ寄留地應徵者ハ其儘ニテ然ルヘキヤ

陸軍省指令 明治二十八年三月二十一日

伺之通

第二節 徵兵事務條例同施行細則及附屬ノ法令
○第二百八十一 徵兵事務條例明治二十二年二月二十五日(二月二十七日公布)勅令第十五號

朕徵兵事務條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
徵兵事務條例

第一章 徵兵區

第一條 徵兵區ハ師管旅管及大隊區又ハ警備隊區ノ區域ニ從フ

第二條 大隊區及警備隊區ハ更ニ之ヲ徵募區ニ分ツ

第三條 徵募區ハ一郡又ハ一市ヲ以テ一區ト爲ス

一市ニシテ二大隊區ニ分屬スルモノハ各別ニ一區ト爲ス

第四條 常備步兵各聯隊ノ兵員ハ其旅管内最寄ニ大隊區ヨリ(徵集スルヲ例トシ不足スル

トキハ同管内他ノ大隊區ヨリ補充ス)其他ノ兵員ハ其師管ヨリ徵集ス二十八年三月勅令第三十

(補充ス)マデノ近衛步兵隊(及騎兵隊)ノ兵員ハ各師管ヨリ其他ノ兵員ハ第一師管ヨリ徵集ス二十七年十一月

十六號ヲ以テ(及騎兵隊)ノ四字ヲ削ル警備隊ノ兵員ハ其警備隊區ヨリ徵集ス月勅令第九

海軍兵員ハ各師管内沿海及島嶼ヲ包括スル大隊區ヨリ徵集ス

本條第一項第二項ニ依リ要員ヲ充タシ能ハサルトキハ他ノ大隊區若クハ他ノ師管ヨリ其

ノ不足ヲ補充スルコトヲ得二十八年三月勅令第三十號ヲ以テ本項ヲ追加ス

第二章 徵兵官

第五條 徵兵官ハ總理徵兵官師管徵兵官旅管徵兵官大隊區徵兵官及警備隊區徵兵官トス

第六條 總理徵兵官ハ內務大臣及陸軍大臣ヲ以テ之ニ充テ全國徵兵ノ事ヲ統轄ス

第七條 師管徵兵官ハ師管内府縣毎ニ師團長及府縣知事ヲ以テ之ニ充テ師團長ヲ首座トシ

其管内府縣徵兵ノ事ヲ統轄ス

第八條 旅管徵兵官ハ旅管内府縣毎ニ旅團長及府縣書記官ヲ以テ之ニ充テ旅團長ヲ首座トシ

旅管内徵募事務ヲ執行ス

第九條 大隊區徵兵官ハ大隊區内徵募區毎ニ大隊區司令官及島司若クハ郡市長ヲ以テ之ニ

充テ警備隊區徵兵官ハ(警備隊司令官)及島司若クハ郡市長ヲ以テ之ニ充テ大隊區司令官又

ハ(警備隊司令官)ヲ首座トシ其區内徵募準備事務ヲ執行ス二十五號ヲ以テ(警

第十條 第八條第九條ニ掲クル徵兵官ノ外旅管内府縣毎ニ旅管徵兵參事員大隊區内徵募區

毎ニ大隊區徵兵參事員警備隊區内徵募區毎ニ警備隊區徵兵參事員ヲ置ク同上勅令ヲ以テ

第十一條 旅管徵兵參事員及大隊區徵兵參事員又ハ警備隊區徵兵參事員ハ徵兵令(第二十

條)ニ當ル徵集延期及徵集免除ニ關スル事件ヲ審議シ意見ヲ徵兵官ニ具中スルヲ任トス

但徵兵官ノ裁決ニ付可否ヲ議スルノ權ナキモノトス同上勅令ヲ以テ本條ヲ改正シ二十八號三月勅令

第三十號ヲ以テ(第二十二條)ニ改

第十二條 旅管徵兵參事員ハ府縣名譽職參事會員ヲ以テ之ニ充テ大隊區徵兵參事員又ハ警備隊區徵兵參事員ハ郡市名譽職參事會員ヲ以テ之ニ充ツ但府ニ在テハ其府名譽職參事會員ニ於テ郡市部各二名ヲ互選シ市ニ在テハ其市名譽職參事會員ニ於テ四名ヲ互選シ之ヲ定ム二十五年勅令第三十三號ヲ以テ本條ヲ改正ス

島廳ヲ置ク島嶼ノ大隊區徵兵參事員又ハ警備隊區徵兵參事員ハ島司ニ於テ各町村會議員ヨリ四名ヲ選ビ府縣知事ノ認可ヲ得テ之ヲ命ス其任期ハ町村會議員ノ任期ニ依ル

第十三條 旅管徵兵參事員及大隊區徵兵參事員又ハ警備隊區徵兵參事員ハ互ニ兼ヌルヲ得ス郡市參事會員ヲ兼ヌル府參事會員ニシテ互選ニ當リタル者又ハ縣參事會員ニシテ郡市參事會員ヲ兼ヌル者ハ旅管徵兵參事員ニ充ツ此場合ニ於テ郡ノ大隊區徵兵參事員又ハ警備隊區徵兵參事員ノ缺員ハ郡制第四十八條ニ依リ補充員ノ内ヨリ之ヲ補缺ス可シ(同上)

第十四條 毎年徵募事務及徵募準備事務執行中ハ旅管徵兵醫官及大隊區徵兵醫官又ハ警備隊區徵兵醫官ヲ置ク(同上)

旅管徵兵醫官ハ旅管内徵兵身體檢查ニ係ル事ヲ總管シ大隊區徵兵醫官又ハ警備隊區徵兵醫官ハ徵兵身體ノ檢查ニ從事ス

第十五條 旅管徵兵醫官ハ陸軍二等軍醫正一名ヲ以テ之ニ充テ大隊區徵兵醫官又ハ警備隊區徵兵醫官ハ陸軍一三三等軍醫一名ヲ以テ之ニ充ツ

參照 戰時又ハ事變ニ際シ旅管及大隊區警備隊區徵兵醫官職務ノ件(明治二十八年一月八日勅令)

朕徵兵事務條例中旅管徵兵醫官大隊區徵兵醫官警備隊區徵兵醫官ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

戰事又ハ事變ニ際シテハ徵兵事務條例第十五條ノ規程ニ依ラス旅管徵兵醫官ハ陸軍一等軍醫ヲ以テ之ニ充テ大隊區徵兵醫官又ハ警備隊區徵兵醫官ノ職務ハ雇員ヲシテ之ニ從事セシムルコトヲ得但雇員ハ醫術開業免狀ヲ所持スル者ニ限ル

雇員ヲシテ大隊區徵兵醫官又ハ警備隊區徵兵醫官ノ職務ニ從事セシムルトキハ徵兵體格等位ノ適否ハ旅管徵兵醫官之ヲ判定ス

第十六條 毎年徵募事務及徵募準備事務執行中ハ旅管徵兵署事務員旅管徵兵署事務補助員及大隊區徵兵署事務員又ハ警備隊區徵兵署事務員ヲ置ク

旅管徵兵署事務員ハ旅管徵兵署一般ノ事務ヲ掌理シ旅管徵兵署事務補助員及大隊區徵兵署事務員又ハ警備隊區徵兵署事務員ハ該徵兵署ノ庶務ニ從事ス

第十七條 旅管徵兵署事務員ハ旅團副官一名府縣兵事擔任ノ課長ヲ以テ之ニ充テ旅管徵兵署事務補助員ハ旅團書記一名府縣屬若干名及島廳郡市書記各一名ヲ以テ之ニ充テ大隊區徵兵署事務員又ハ警備隊區徵兵署事務員ハ大隊區書記又ハ警備隊區書記一名島廳書記又ハ郡市書記一名若クハ二名ヲ以テ之ニ充ツ

第十八條 毎年徵募準備事務執行中ハ地方醫師若干名ヲ以テ徵兵醫官補助員トシ府縣知事

ノ選ヲ以テ之ヲ命ス

徴兵醫官補助員ハ徴兵醫官ノ指揮ヲ受ケ身體検査ノ事ヲ補助ス

第三章 配賦

第十九條 毎年徴集ス可キ(新兵)ノ員數ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(同上勅令ヲ以テ(新兵)ヲ(現役兵及補充兵)ニ改ム)

第二十條 (陸軍大臣)ハ第十九條ノ勅令ニ基キ近衛新兵及海軍新兵ノ委員ヲ各師管ニ配賦ス(二十七年十二月公布勅令第百九十六號ヲ以テ本條ヲ削除ス)

第二十一條 師團長ハ第十九條ノ勅令及第二十條ノ配賦ニ基キ(新兵)ノ要員ヲ各旅管ニ旅團長ハ之ヲ各大隊區ニ大隊區司令官ハ之ヲ各徴兵區ニ配賦ス(二十五年四月勅令第三十三號ノ勅令ニ基キ)ノ十八字ヲ加ヘ二十七年十二月公布勅令第百九十六號ヲ以テ(及第二十條ノ配賦)ノ八字ヲ削リ二十八年三月勅令第三十號ヲ以テ(新兵)ヲ(現役兵及補充兵)ニ改ム

第二十二條 (新兵)ノ配賦ハ壯丁ノ總數ヲ率トシ比例ヲ以テ之ヲ定ム(同上勅令ヲ以テ(新兵)ヲ(現役兵及補充兵)ニ改ム)

第四章 徴募準備

第二十三條 町村長ハ毎年戶籍簿ニ據リ徴兵適齡者ヲ取調ヘ徴兵令第二十五條ノ届書ヲ戶籍簿ニ照較シ壯丁名簿ヲ作リ三月二日迄ニ島司又ハ郡長ニ差出シ島司郡長ハ點檢

ノ後之ヲ一徴募區ニ取纏メ前年假決ノ諸名簿ト共ニ大隊區徴兵署又ハ警備隊區徴兵署ニ提出ス(二十五年四月勅令第三十三號ヲ以テ三月一日)ヲ(二月十五日)ニ改メ二十七

市長ハ前項ノ例ニ依リ壯丁名簿ヲ作リ前年假決ノ諸名簿ト共ニ之ヲ大隊區徴兵署ニ提出ス可シ

第二十四條 毎年徴募準備事務執行ノトキハ各徴募區ニ大隊區徴兵署又ハ警備隊區徴兵署ヲ設ク

土地廣潤壯丁多數ノ徴募區ニ在テハ數箇ノ徴兵検査所ヲ設クルコトヲ得

第二十五條 大隊區司令官又ハ警備隊區司令官ハ島司郡市長ニ協議シ徴兵署及検査所巡回日割ヲ定メ之ヲ旅管徴兵官ニ申報ス可シ(二十五年四月勅令第三十三號ヲ以テ)

島司郡市長ハ検査ノ日時、徴兵署及検査所設置ノ場所ヲ豫メ其管内ニ告示ス可シ

第二十六條 兵役ノ適否ヲ定ムル爲メ大隊區徴兵署又ハ警備隊區徴兵署及検査所ニ於テ壯丁ノ身體検査ヲ行フ其検査ハ(徴兵委員)ノ面前ニ於テスルモノトス(同上勅令ヲ以テ(徴兵委員)ヲ(徴兵官及徴兵委員)ニ改ム)

若シ兵役ノ適否判定シ難キ者アルトキハ他ノ徴兵署又ハ検査所ニ於テ其検査ヲ續行スルコトヲ得(同上勅令ヲ以テ)

第二十七條 大隊區司令官又ハ警備隊區司令官ハ壯丁ノ身體検査ノ事ヲ監督シ兵種ノ選定ニ任ス(同上勅令ヲ以テ(警備隊)ノ一字ヲ加フ)

第二十八條 島司郡市長ハ徴集延期及徴集猶豫ニ關スル書類ノ調査及事實ノ審察ニ任ス

第二十九條 壯丁ノ身體検査終ルトキハ大隊區徴兵官又ハ警備隊區徴兵官ハ徴兵検査名簿徴集延期名簿及徴集猶豫名簿ヲ作ル可シ

第三十條 大隊區徴兵署又ハ警備隊區徴兵署ニ於テ徴集ヲ延期シ又ハ徴集ヲ猶豫ス可キモノト裁決シタルトキハ各其證書ヲ附與ス

第二十一條 徵募準備事務終ルノ後大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ハ検査名簿其他終決ヲ受テ可キ書類ヲ取纏メ旅管徵兵官ニ差出ス可シ但徵集延期及徵集猶豫ニ屬シタル者ハ其人員ヲ旅管徵兵官ニ報告シ其名簿ハ島司郡市長之ヲ保管ス可シ

第五章 徵募

第二十二條 毎年徵募事務執行ノトキハ旅管内府縣毎ニ旅管徵兵署ヲ設ケ

第二十三條 旅團長ハ府縣知事書記官ニ協議シ徵兵署巡回日割ヲ定メ之ヲ師管徵兵官ニ申報シ又之ヲ大隊區司令官又ハ警備隊區司令官ニ達ス可シ同上勅令ヲ以テ(警備隊)府縣書記官ハ抽籤ノ日時及徵兵署設置ノ場所ヲ島司又ハ郡市長ニ達シ島司郡市長ハ豫メ之ヲ管内ニ告示ス可シ

第三十四條 身體検査ニ合格シタル壯丁ハ徵集順序ヲ定ムル爲メ徵募區毎ニ體格ノ等位及兵種ヲ分チ旅管徵兵署ニ於テ抽籤ヲ行フニ同勅令ヲ以テ(合格)ノ下(タル)トアルヲ(現役ニ復ス可キ)抽籤ハ(旅管徵兵委員)及大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ノ面前ニ於テ抽籤總代人之ヲ爲スモノトス二十五勅令第三十三號ヲ以テ(旅管徵兵委員)ニ改ム

第三十五條 旅管徵兵官ハ總代人ノ抽キタル籤番號ノ順序ニ依リ抽籤名簿二本ヲ作り其一本ハ之ヲ島司郡市長ニ交付ス可シ同上勅令ヲ以テ本條ヲ改正ス

第三十六條 抽籤總代ルトキハ旅管徵兵官ハ當籤番號ノ順序ニ從ヒ(新兵徵募)ノ處分ヲ爲シ

其他ハ大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ヨリ差出シタル書類ニ就キ終決ノ處分ヲ爲シ

(新兵名簿豫備徵員)名簿(免役名簿及國民兵編入)名簿ヲ作ル可シ同上勅令ヲ以テ(免役名簿國民兵編入)ニ改ム

第三十七條 旅管徵兵署ニ於テ終決ノ處分ヲ爲シタル者(徵集免除)ニハ各其證書ヲ附與ス二十五勅令第三十三號ヲ以テ(爲シタル者)ノ下ニ註ヲ加フ

第三十八條 徵募事務終ルトキハ旅團長ハ旅管徵兵事務報告書及徵兵表ヲ作り師團長ニ差出シ又(新兵)名簿ヲ各隊ニ交付シ抽籤名簿及(豫備徵員)名簿ヲ大隊區司令官又ハ警備隊區司令官ニ交付ス可シ二十八勅令第三十號ヲ以テ(新兵)ニ改ム

近衛(新兵)名簿ハ近衛(都督)ニ海軍(新兵)名簿ハ鎮守府司令官ニ送致ス可シ二十五勅令第三十三號ヲ以テ(都督)ヲ(師團長)ニ改ム

免役名簿及國民兵編入名簿ハ府縣廳ニ備置ク可シ

第三十九條 師團長ハ師管徵兵事務報告書及徵兵表ヲ作り陸軍大臣ニ差出シ陸軍大臣ハ全國徵兵表ヲ作り奏上ス可シ

第六章 裁決

第四十條 裁決ハ分テ假決及終決ノ二種トス

第四十一條 假決ハ徵集延期及徵集猶豫ノ事ヲ裁決シ終決ハ(新兵徵募豫備徵員)及國民兵編入並免役)ノ事ヲ裁決ス二十五勅令第三十三號ヲ以テ(及國民兵編入並免役)ヲ(編入徵集免除)ニ改ム

第四十二條 假決ハ大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官之ヲ爲シ終決ハ旅管徵兵官之ヲ爲ス
 第四十三條 壯丁若クハ其家族ニ於テ徵兵令第二十條(第二十一條第二十八條)ニ關スル大
 隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ノ裁決ニ不服アルトキハ旅管徵兵官ニ旅管徵兵官ノ裁決
 ニ不服アルトキハ師管徵兵官ニ師管徵兵官ノ裁決ニ不服アルトキハ總理徵兵官ニ訴願ス
 ルコトヲ得但訴願ノ爲メニ裁決ノ執行ヲ停止セス(二十五年四月勅令第三十三號ヲ以テ(第二十一條
 十號ヲ以テ(第二十條)
 大(第二十二條)ニ改ム)
 本條ノ訴願ハ裁決書ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ヲ爲ス可シ其期日ヲ過クルモノハ
 受理セス

第四十四條 徵兵官ノ裁決ニ對シ訴願スル者ハ其裁決ヲ爲シタル徵兵官ニ其由ヲ届出可シ
 第四十五條 第四十三條ノ訴願ヲ爲サントスル者ハ其願書ニ同徵募區内其年徵集ニ應ス可
 キ壯丁ノ戶主三名ノ保證書ヲ添フ可シ

第四十六條 徵兵官ノ裁決ニ對シテハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ許サス

第七章 (新兵)(二十八年三月勅令第三十號ヲ以テ
 (新兵)ヲ(現役兵及補充兵)ニ改ム)

第四十七條 (新兵)入營期日ハ毎年十二月一日トス但疾病犯罪其他ノ事故ニ由リ十二月一
 日ニ入營シ難キ者ハ同月三十一日迄ニ入營セシム(同上勅令ヲ以テ(新兵)
 警備隊諸兵輜重輸卒ノ入營期日ハ別ニ定ムル所ニ據ル
 (現役兵)ニ改ム)

第四十八條 現役兵入營ノトキハ先ツ大隊區司令部若クハ便宜ノ地ニ召集シ入營兵引率員

之ヲ入營地ニ引率シ大隊區司令部所在ノ入營地ニ
 在テハ大隊區司令部ヨリ直ニ當該隊長ニ交付ス但入營兵五人未滿ナルトキ
 ハ直ニ入營地ニ單行セシム

近衛現役兵及海軍現役兵ハ其ノ集合地ニ引率シ入營兵受領員ニ交付スルモノトス但入營
 兵引率員出發後到着シタル者ハ直ニ入營地ニ單行セシム同上勅令ヲ以テ
 本條ヲ改正ス

第四十九條 (新兵)入營ニ際シ父母ノ疾病危篤或ハ死亡ノ爲メ入營ノ延期ヲ願フ者アルト
 キハ大隊區司令部又ハ警備隊區司令部官ニ於テ十四日以内ノ延期ヲ許ス可シ(二十五年三月
 勅令第三十號ヲ以テ(新兵)ノ一字ヲ加ヘ二十八年
 三月勅令第三十號ヲ以テ(現役兵)ニ改ム)

第五十條 (新兵)入營前ハ第四條ノ區域外ニ轉籍戶籍上本人ノ出入ニ含有ス
 以下轉籍トアル者皆同シスルモ所屬ノ隊籍ヲ變
 更セス(寄留地ニ於テ徵集ニ應ス可キ者ニシテ本籍ニ復歸シタルトキ亦同シ)(二十五年四月勅
 令第三十三號ヲ
 以テ本條ヲ改正シ二十八年三月勅令第三十號ヲ以テ
 (新兵)ヲ(現役兵)ニ改メ(寄留地)以下三十號ヲ削ル

徵兵令第二十七條ニ當リ翌年廻ト爲リタル者ハ身體検査ヲ行ヒ更ニ隊籍ヲ定ムルモノト
 ス但第四條ノ區域外ニ轉籍シ又ハ寄留地ニ於テ徵集ニ應ス可キ者ニシテ同條區域外ノ
 本籍ニ復歸シタル者ハ其ノ地ニ於テ身體検査ヲ行ヒ隊籍ヲ定ム(二十七年十二月公布勅令第九
 八年三月勅令第三十號ヲ以テ(又ハ
 寄留地ニ於テ)以下三十一號ヲ削ル)

第五十一條 現役兵入營前死亡シ若クハ疾病犯罪其他ノ事故ニ由リ十二月三十一日迄ニ
 入營シ難シト認メタル者又ハ入營ノ後翌年一月三十一日前ニ死亡シタル者若クハ常備後
 備ノ服役及永久服役ニ堪ヘ難キ者アルトキハ其ノ徵募區ヨリ同兵種ノ第一補充兵若クハ

海軍補充兵ヲ抽籤番號ノ順序ニ從ヒ召集シ若シ其ノ徵募區ヨリ召集スルコト能ハサルトキハ大隊區内他ノ徵募區ヨリ補フ其ノ配賦ハ各徵募區補充兵ノ總數ヲ率トシ比例ヲ以テ之ヲ定ム同上勅令ヲ以テ

第五十二條 (新兵)入營前癩疾又ハ不具トナリ永久兵役ニ堪ヘ難キ者アルトキハ旅團長ニ於テ兵役ヲ免ス同上勅令ヲ以テ(新兵)

但徵兵令第二十七條ニ當リ翌年回ト爲リタル者其ノ年徵募事務終結前ハ此ノ限ニ在ラズ二十七年十二月公布勅令第百九十六號ヲ以テ但徵兵ヲ加フ

第五十三條 (新兵)入營前徵兵令(第二十條)ニ當ルヘキ事故ノ生スルトキハ本人ノ願ニ由リ旅團長ニ於テ徵集ヲ延期ス同上勅令ヲ以テ(新兵)ナ(現役兵)

其願書ニハ同徵募區内(新兵)ノ戶主二名ノ保證書ヲ添ヘ島司郡市長及大隊區司令官又ハ警備隊區司令官ヲ經テ旅團長ニ差出ス可シ但町村ニ在テハ町村長ノ與書證印ヲ受ク可キモ

ノトス二十五年四月勅令第三十三號ヲ以テ本項ヲ改正シ二十八年三月勅令第三十號ヲ以テ(新兵)ヲ其ノ年徵募ニ應ス可キ現役兵ニ改ム

島司郡市長ハ其事實ヲ審覈シ狀況書ヲ作り願書ト共ニ大隊區司令官又ハ警備隊區司令官ニ送付ス可シ同上勅令ヲ以テ

第五十四條 現役兵入營前及補充兵補充兵既經附與後其ノ年十一月三轉籍シタルトキハ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ監視區長ニ届出可シ但監視區外ニ係ルトキハ新舊住地所管ノ監視區長ニ

届出可シ二十五年四月勅令第三十三號ヲ以テ本條ヲ改正シ二十八年三月勅令第三十號(寄留地ニ於テ徵集ニ應ス可キ者本籍ニ復歸シタルトキハ前項ノ例ニ依リ届出可シ)ニ改ム

勅令第三十三號ヲ以テ本項ヲ追加シ二十八年三月勅令第三十號ヲ以テ削除ス

本條ノ届出ヲ爲サ、ル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス(轉籍若クハ復歸)大隊區外ニ係ルトキハ舊住地大隊區司令官ヨリ新住地大隊區司令官ニ通報ス可シ

第五十五條 現役兵入營前及補充兵「寄留若クハ二十四日」以上ノ旅行ヲ爲サントスル「トキハ(徵集)ノ命アルトキハ之ヲ通報ス可キ者ヲ定メ市町村長ヲ經テ監視區長ニ届出可シ

「其復歸シタルトキ亦届出可シ」二十五年四月勅令第三十三號ヲ以テ(若クハ)ノ下(七日)トアリシヲ(十四日)ニ改メ二十七年十一月勅令第百九十六號ヲ以テ(若クハ)ノ下(者ハ)トアリシヲ(トキハ)ニ改メ

「届出可シ」ノ下(其復歸)以下十四字ヲ加ヘ二十八年三月勅令第三十號ヲ以テ(新兵入營前)トアリシヲ(現役兵入營前)ニ改メ

本條ノ届出ヲ爲サ、ル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

通報人正當ノ事由ナクシテ(徵集)ノ命ヲ通報セス若クハ其ノ通報ヲ遲緩シタルトキハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料又ハ一日以上十日以下ノ勾留ニ處ス二十七年十一月勅令第百九十六號ヲ以テ本項ヲ追加シ

第五十六條 第一補充兵及海軍補充兵ハ他ノ徵募區ニ轉籍スルモ現役兵補缺ノ爲メニハ舊徵募區ノ召集ニ應セシム同上勅令ヲ以テ

(第八章 豫備徵員) 自第五十六條(同上勅令ヲ以テ總)至第五十九條(本條ヲ削除ス)

第五十七條 徵兵令(第十條)ニ依リ現役ニ服センコトヲ志願スル者ハ其願書ニ戸主或ハ後見人連署シ身元證書ヲ添ヘ市町村長ノ與書證印ヲ受ケ九月一日以前自己ノ服役セント欲スル軍隊又ハ鎮守府ニ願出テ許可ヲ受ク可シ但軍隊又ハ鎮守府遠隔ノ地ニ居住ノ者ハ徵兵検査ノ際大隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署若クハ徵兵検査所ニ申立テ身體検査ヲ受ケ合格ノ者ハ合格證書ヲ添ヘ願出ルコトヲ得二十五年四月勅令第三十三號ヲ以テ本條ヲ改正シ二十八年六月勅令第五十七條ヲ以テ

検査ノ爲メ往復ノ旅費及ヒ入營旅費ハ自辨トス

第五十八條 前條服役ノ許可ヲ得タル者ハ入營前本籍地ノ市町村長ニ届出可シ同上勅令ヲ以テ第六十一條ヲ第五十八條トス

第五十九條 徵兵令(第二十條)ニ當ル者ハ同徵募區内其ノ年ノ徵集ニ應ス可キ壯丁ノ戸主二名ノ保證書(第二十一條)第一項ニ當ル者ハ學校長ノ證明書同條第二項ニ當ル者ハ公使又ハ領事ノ證明書ヲ以テ三月一日迄ニ大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ニ願出可シ「但徵兵令(第二十條)ニ當リ其事故繼續シテ三箇年ヲ過クルモ尙ホ止マサル者ハ本條ノ保證書ヲ添ヘ届出可シ」二十五年四月勅令第三十三號ヲ以テ但書ヲ追加シ二十七年十一月勅令第九十六號ヲ以テ(第二十二條)ニ(第二十一條)ノ下(繼續シテ)ノ四字ヲ加ヘ二十八年三月勅令第三十號ヲ以テ(第二十條)ニ改メ元(第六十二條)ヲ(第五十九條)トス

其願書及届書ニハ市町村長ノ與書證印ヲ受ク可キモノトス二十五年四月勅令第三十三號ヲ以テ(第六十一條)ノ(公印)ノ三字ヲ加ヘ

第六十條 徵兵令第二十三條第一項ノ事故止ミタル者ノ届書及同條第二項ノ歸朝シタル者ノ届書ハ町村長ヨリ其ノ年ノ壯丁名簿進達前ニ在テハ其ノ名簿ト共ニ進達後ニ在テハ三日以内ニ大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ニ差出ス可シ但市長ニ在テハ本文ノ届書ヲ大隊區徵兵署開設ノトキ同署ニ提出ス可シ二十八年三月勅令第三十號ヲ以テ本條ヲ追加ス

第六十一條 他ノ徵募區ニ寄留シ其ノ地ニ於テ身體検査ヲ受ケンコトヲ冀望スル者ハ三月一日迄ニ島司又ハ郡市長ニ願出可シ同上勅令ヲ以テ本條ヲ追加ス

島司又ハ郡市長ニ差出ス願書ニハ本籍地町村長ノ與書證印ヲ受ク可キモノトス

島司郡市長其ノ願ヲ許可シタルトキハ之ヲ本人寄留地ノ島司郡市長ニ通知ス可シ

本條ノ願出已ムヲ得サル事故ノ爲メ三月一日ヲ過クルモノハ島司郡市長ヨリ本人寄留地ノ島司郡市長ニ協議シ徵募上故障ナキモノニ限り許可ス可シ

第六十二條 疾病傷疾或ハ犯罪等ニテ身體ノ検査ヲ受ケ難キ者及一年志願兵出願中ノ者ハ書面ヲ以テ検査當日迄ニ島司又ハ郡市長ニ届出可シ其ノ疾病傷疾ノ者ハ醫師ノ(診斷書)ヲ添フ可シ二十五年勅令第三十三號ヲ以テ(診斷書)ヲ(診斷證書)ニ改メニ

島司又ハ郡市長ニ差出ス届書ニハ町村長ノ與書證印ヲ受ク可キモノトス

本條ノ届出ヲ爲サ、ル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

(元第六十三條 徵兵令第二十六條ニ依リ他ノ徵募區ニ於テ徵集ニ應セント欲スル者ハ三

月一日迄ニ本籍地ノ島司又ハ郡市長ニ願出可シ（第二十八年勅令第三十號ヲ以テ本條ヲ削除ス但第二項第三項ハ第六十一條ト同文ニ付除ク）

第六十三條 疾病傷痍或ハ犯罪等ニテ期限ニ際シ入營シ難キ者ハ書面ヲ以テ入營當日迄ニ監視區長ヲ經テ大隊區司令官又ハ警備隊區司令官ニ届出可シ其疾病傷痍ノ者ハ醫師ノ（診斷書）ヲ添フ可シ（廿五年四月勅令第三十三號ヲ以テ（警備隊）ノ下（區）ヲ加ヘ（診斷書）ヲ（診斷證書）ニ改メ二十八年三月勅令第三十號ヲ以テ元（第六十五條）ヲ（第六十三條）トス）

其届書ニハ市町村長ノ與書證印ヲ受ク可キモノトス

本條ノ届出ヲ爲サル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第六十四條 徵兵署及徵兵検査所ノ諸費、壯丁及抽籤總代人ノ旅費、（新兵）入營ノ旅費（府縣郡市島嶼）徵兵參事員ノ手當金旅費、（地方徵兵醫員）ノ給料旅費ハ官給ス（二十五年四月勅令郡縣郡市島嶼）ノ六字ヲ削リ（地方徵兵醫員）ヲ（徵兵醫員）ニ改メ二十八年四月勅令第三十號ヲ以テ（新兵）ヲ（現役兵）ニ改メ元（第六十六條）ヲ（第六十四條）トス

第六十五條 現役中疾病或ハ傷痍ニ依リ（永久服役）ニ堪ヘ難キ者ハ（近衛都督）師團長又ハ鎮守府司令長官ニ於テ兵役ヲ免ス其一時服役ニ堪ヘ難キ者ハ豫備役ニ編入シ現役年期ヲ通シテ陸軍ニ在テハ七箇年四箇月間海軍ニ在テハ七箇年間服役セシム（二十五年四月勅令第三十三號ヲ以テ（通シテ）ノ下（陸軍）以下十九字ヲ加ヘ元（第六十七條）ヲ（第六十五條）トス

其疾病傷痍ニ依リ常備後備ノ服役ニ堪ヘ難キ者ハ國民兵ニ編入ス（二十五年勅令第三十三號ヲ以テ本項ヲ追加ス）

陸軍現役兵ニシテ一時服役ニ堪ヘ難キ者軍隊第二期ノ教育ヲ卒ラサル前ニ在テハ第一補充兵ニ編入シ現役年期ヲ通シテ七箇年四箇月間服役セシム（二十八年勅令第三十號ヲ以テ本項ヲ追加ス）

第六十六條 現役中徵兵令（第二十條）ニ當ル可キ事故ノ生スルトキハ其家族ノ願ニ由リ

（近衛都督）師團長又ハ鎮守府司令長官ニ於テ現役ヲ免シ豫備役ニ（編入ス但）現役年期ヲ通シテ陸軍ニ在テハ七箇年四箇月間海軍ニ在テハ七箇年間服役セシム「但陸軍現役兵ニシテ軍隊第二期ノ教育ヲ卒ラサル前ニ在テハ第一補充兵ニ編入シ現役年期ヲ通シテ七箇年四箇月間服役セシム」（二十五年四月勅令第三十三號ヲ以テ（近衛都督）ノ四字ヲ削リ二十八年三月勅令第三十六號ヲ加ヘ（第六十六條）トス

其願書ニハ同徵募區内現役兵ノ戶主一名ノ保證書ヲ添ヘ島司郡市長大隊區司令官又ハ警備隊區司令官及旅團長ヲ經テ師團長又ハ鎮守府司令長官ニ差出ス可シ但町村ニ在テハ町村長ノ與書證印ヲ受ク可キモノトス（二十五年勅令第三十三號ヲ以テ本項ヲ改正ス）

島司郡市長ハ其事實ヲ查覈シ狀況書ヲ作り願書ト共ニ大隊區司令官又ハ警備隊區司令官ニ送付ス可シ（同上勅令ヲ以テ追加ス）

第九章 附則（第二十八年三月勅令第三十號ヲ以テ十章ヲ九章トス）

第六十七條 北海道廳管下（函館江差福山）其他島嶼ニ於テ本條例中ノ條規ヲ實施スルコト能ハサルトキハ師團長地方長官協議ノ上適宜ノ方法ヲ設クルコトヲ得（二十八年三月勅令第三十號ヲ以テ（函館江差福山）ノ六字ヲ削リ元（第六十九條）ヲ（第六十七條）トス

第六十八條 徵兵令ヲ施行セサル地ニ寄留ノ者ハ（同令第二十六條後段ノ例ニ準シ）寄留地最寄ノ徵募區ニ於テ徵集ニ應スルコトヲ得（二十八年三月勅令第三十號ヲ以テ（同令第二十六條後段ノ例）ニ改メ元（第七十條）トス）

第六十九條 徵兵令ヲ施行セサル地ヨリ施行ノ地ニ轉籍シタル者ハ其年又ハ翌年ノ徵集ニ

應セシム但年齢二十六歳ヲ過クル者ハ此限ニ在ラス(第二十八年三月勅令第三十號ヲ以テ元(第七十一條)ヲ(第六十九條)トス)

第七十條 本條例中市長ノ職務ハ市制ヲ實施スル迄ハ區長ニ於テ町村長ノ職務ハ町村制ヲ

實施スル迄ハ戶長ニ於テ行フ可シ(同上勅令ヲ以テ元(第七十條)トス)

第七十一條 第三條ノ徵募區ハ市制ヲ實施スル迄ハ區ノ境域ニ依ル(同上勅令ヲ以テ元(第七十條)トス)

第七十二條 明治二十二年ニ限リ第二十三條ノ壯丁名簿差出期限及第六十二條ノ願出期限

ハ四月十五日迄トシ第六十三條ノ願出期限ハ三月一日ヨリ同月十五日迄トス(同上勅令ヲ以テ元(第七十二條)トス)

第七十三條 第十條ノ旅管徵兵參事員ハ未タ府縣制ヲ施行セサル府縣ニ在テハ府縣會常置

委員ニ於テ四名ヲ互選シ常選ノ者ヲ以テ之ニ充ツ(二十五年四月勅令第三十三號ヲ以テ元(第七十五條)トス)

大隊區徵兵參事員又ハ警備隊區徵兵參事員ハ未タ郡制ヲ施行セサル郡ニ在テハ其郡内ニ

於テ四名ヲ選舉シ當選ノ者ヲ以テ之ニ充ツ其選舉人資格選舉ノ方法及任期ハ總

テ府縣會議員ノ例ニ依ル(附言) 二十八年勅令第三十號附則ヲ以テ「現今ノ豫備徵員ハ從前ノ規程ニ依ル」ノ明文ヲ掲ク

○第二百八十一條 徵兵事務條例施行細則(明治二十二年三月二十八日 陸軍省令第一號)

徵兵事務條例施行細則左ノ通定ム

徵兵事務條例施行細則

第一條 條例第二十三條ノ壯丁名簿ハ附錄第一様式ニ依リ之ヲ作り一市一町村ヲ一冊ト爲

シ冊尾ニ其人員ノ總計ヲ記シ市町村長之ニ署名押印ス可シ

第二條 徵兵令(第七條)及第二十五條但書ニ當ル者ハ市町村長之ヲ調査シ人名書(各事項ヲ

作り壯丁名簿ニ添付ス可シ(二十七年十二月省令第二十四號ヲ以テ人名書ノ下附書七字ヲ加ヘ二十八年四月省令第四號ヲ以テ(第七條)ヲ(第八條)ニ改ム)

第三條 條例第二十五條ノ徵兵署及徵兵検査所巡回日割ヲ定ムル爲メ島司郡市長ハ壯丁名

簿及前年假決ノ諸名簿ヲ調査シ其人員ヲ大隊區司令官又ハ(警備隊司令官)ニ報告ス可シ(二十五年四月省令第七號ヲ以テ(警備隊司令官)ニ改ム)

第四條 大隊區徵兵署警備隊區徵兵署及徵兵検査所ハ島司郡市長ニ於テ適當ノ家屋ヲ選定

シ「要スレハ吏員ヲ派シ豫メ準備シ」大隊區司令官又ハ(警備隊司令官)到著ノ上之ヲ開

設ス可シ(同上省令ヲ以テ(警備隊司令官)ヲ(警備隊區司令官)ニ改メ二十七年十二月省令第二十四號ヲ以テ(選定シ)ノ下ニ(要スレハ)云々ノ十五字ヲ加フ)

第五條 大隊區徵兵署警備隊區徵兵署及徵兵検査所巡回日割既ニ定マルトキハ島司郡市長

ハ其徵募區内ニ於テ毎日検査ヲ受ク可キ壯丁ノ順序ヲ定メ之ヲ壯丁ニ達シ當日ニ至レハ

市町村吏員ヲシテ壯丁ヲ引繼メ徵兵署又ハ徵兵検査所ニ出頭セシム可シ

第六條 壯丁ノ身體検査ヲ行フトキハ(島應附府縣屬)郡市書記ハ壯丁ヲ呼出シ軍醫ハ徵兵

検査規則ニ依リ身體ヲ検査シ體格ノ等位其他所要ノ件ヲ壯丁名簿及前年假決ノ諸名簿ニ記入シ大隊區司令官又ハ(警備隊司令官)ニ差出ス可シ同上省令ヲ以テ(島嶼附府縣屬)ヲ(島嶼書記)ニ(警備隊司令官)ヲ(警備隊區司令官)ニ改ム
(體格ノ等位ハ甲乙丙丁ノ四種ニ分チ其甲乙兩種ヲ合格トシ丙種ヲ徵集延期トシ丁種ヲ不合格トス同上省令ヲ以テ本項ヲ削ル)

第七條 身體検査ヲ行フニ當リ壯丁ヲシテ裸體ナラシムルトキハ勉メテ別室若クハ隔障内ニ於テス可シ

第八條 身體検査ノ際現役ニ服センコトヲ志願スル者アルトキハ大隊區司令官ハ本人ノ身元ヲ調査シ其景況書ヲ添ヘ旅管徵兵官ニ具申ス可シ
其志願者ハ體格甲種ニシテ身元確實ト認ムル者ハ旅管徵兵官ニ於テ之ヲ許可スルコトヲ得

第九條 身體検査終ルノ後大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ハ(合格者)ヲシテ抽籤總代人ヲ選ハシメ其人名ヲ旅管徵兵官ニ報告ス可シ同上省令ヲ以テ(合格者)ヲ(籤丁)ニ改ム

第十條 徵兵令(第十八條第十九條及第二十條)ニ依リ徵集延期ニ屬シ(第二十一條)ニ依リ徵集猶豫ニ屬スル者ハ大隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署ニ於テ附録第二様式ニ依リ徵集延期證書徵集猶豫證書ヲ作り市ハ市長ヨリ本人ニ附與シ郡又ハ島嶼ニ在テハ町村長ヲシテ本人ニ附與セシム可シ二十八年四月省令第四號ヲ以テ(第十八條第十九條及第二十條)ヲ(第二十二條)ニ改ム
第二十一條及第二十二條)ニ改メ(第二十三條)ニ改ム
徵兵令(第二十條)(第二十二條)ノ願ヲ許可セサル者ニハ(願書)ニ裁決ノ旨趣ヲ記載シ前項

ノ例ニ依リ本人附與ス可シ二十五年四月省令第七號ヲ以テ(第二十一條)ノ五字ヲ削リ願書ニ裁決ノ旨趣ヲ記載シ(其裁決書)ニ改メ二十八年四月省令第四號ヲ以テ(第二十條)ヲ(第二十二條)ニ改ム

第十一條 陸軍諸兵ニ編入ス可キ者ハ左ノ項目ニ依リ之ヲ選フ可シ

- 一 歩兵ハ身體強健ニシテ能ク勞力及遠足ニ堪ユル者
 - 二 騎兵ハ成ル可ク馬匹ノ使用ニ慣レ體格ハ輕捷ニシテ筋肉肥滿ニ過キサル者
 - 三 砲兵ハ體力強大ニシテ視力清明ナル者
 - 四 工兵ハ(諸職工中殊ニ)工兵ノ作業ニ適當シ膂力アル者二十五年四月省令第七號ヲ以テ(諸職工中殊ニ)ヲ(成ル可ク)ニ改ム
 - 五 輜重兵及輜重輸卒ハ成ル可ク馬匹ノ使用ニ慣レ且膂力アル者
 - 六 職工ハ(現ニ其職ニ從事シ又ハ管テ)其職ニ從事セシ者同上省令ヲ以テ(現ニ其職ニ從事)ヲ(成ル可ク)ニ改ム
(近衛兵ハ甲種合格ニシテ品行方正ノ者ヲ選フ可シ)同上省令ヲ以テ
- 第十二條 海軍兵ニ編入ス可キ者ハ左ノ項目ノ順序ニ從ヒ之ヲ選フ可シ同上省令ヲ以テ本條ヲ改正ス
- 一 水兵ハ依ル可ク帆、錨、舵、櫂等ノ使用ニ慣レタル者
 - 二 火夫ハ成ル可ク汽機汽罐ノ取扱又ハ火焙ノ業ニ慣レタル者
 - 三 職工及雜卒ハ成ル可ク各其職類似ノ業ニ慣レタル者

第十三條 條例第二十九條ノ徵兵検査名簿徵集延期名簿及徵集猶豫名簿ハ壯丁名簿及前年假決ノ諸名簿ヲ以テ編綴ス可シ但徵兵検査名簿ハ種類ヲ分チ之ヲ編綴シ冊尾ニ大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官署名押印シ旅管徵兵官ニ差出ス可シ
公權停止中若クハ逃亡失踪等ノ爲メ其年徵集スルコト能ハサル壯丁ハ徵集延期名簿ニ一年志願兵出願中及認可ヲ受ケタル者ハ六週間現役ニ服ス可キ者ハ徵集猶豫名簿ニ編入シ

各假決ノ區畫ニ其事由ヲ記スルモノトス(二十六年五月省令第七號ヲ以テタル者)ノ下

第十四條 大隊區ニ於テ旅團歩兵聯隊ノ配賦人員ヲ充スコト能ハサルトキハ大隊區司令官ヨリ之ヲ旅團長ニ具狀シ旅團長ハ他ノ大隊區同兵種ノ人員ヲ調査シ殘餘アルトキハ先ツ之ヲ以テ其缺ヲ補ヒ仍ホ不足スルトキ他ノ最寄二箇ノ大隊區ニ配賦ス可シ其配賦ノ法ハ條例第二十二條ノ例ニ依ル

旅管内ニ於テ要員ヲ充タシ能ハサルトキハ旅團長ヨリ師團長ニ具狀シ師團長ハ他ノ旅管ヨリ其缺ヲ補ヒ仍ホ不足スルトキハ陸軍大臣ニ具狀ス可シ(二十八日四月省令第四號ヲ以テ本項ヲ追加ス)

第十五條 徵兵令(第二十條)ニ當リ其事故繼續シテ三箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサル旨届出ル者アルトキハ大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ハ大隊區徵兵參事員又ハ警備隊區徵兵參事員ニ審議セシメ其意見書ニ自己ノ意見ヲ附シ旅管徵兵官ニ差出ス可シ(二十五年四月省令第七號ヲ以テ改ム)

第十六條 徵兵令(第二十一條)ニ當ル者ハ(徵集猶豫)ノ期限間(身體)ノ検査ヲ行ハス(二十五年四月省令第七號ヲ以テ改ム)

第十七條 疾病傷痍又ハ犯罪等ノ爲メ身體検査ニ出頭セサル者「及身體検査未済ノ徵募區ヨリ轉入ノ者」アルトキハ大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ハ其狀況ニ由リ他ノ徵募區ノ大隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署若クハ徵兵検査所(若クハ旅管徵兵署)ニ出頭セシメ若クハ翌年、検査ニ回ス可シ但疾病傷痍ノ者ハ時宜ニ由リ其家ニ就キ検査ス可シ(二十五年四月省令第七號ヲ以テ改ム)

第十八條 旅管徵兵署ハ府縣書記官ニ於テ適當ノ家屋ヲ選定シ「要スレハ吏員ヲ派シテ豫メ準備シ旅團長到着ノ上之ヲ開設ス可シ(二十七年十二月省令第二十四號ヲ以テ改ム)

第十九條 抽籤施行ニ先タチ旅管徵兵署ニ於テ合格者ノ人員ヲ調査シ徵募區毎ニ兵種及甲乙兩種ニ分チ籤札ヲ作ル可シ

籤ノ番號ハ「甲乙兩種各」合格者ノ數ニ應ジ第一號ヨリ起ヌチ例トス然レトモ抽籤ノ列ニ加ヘサル者アルトキハ現役ニ編入スルノ順序ヲ定ムル爲メ之ニ首位ノ番號ヲ附著シ其次番號ヨリ籤番號ヲ起ヌ可シ(二十五年四月省令第七號ヲ以テ改ム)

第二十條 籤札ハ附録第三様式ニ依リ之ヲ作り籤箱ニ納レ之ヲ封鎖シ(旅管徵兵委員)大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官例席ノ前ニ置キ其封ヲ披キ旅管徵兵署事務補助員「籤丁名簿」ノ順序ニ氏名ヲ呼ビ抽籤總代人ニ之ヲ抽カシム(二十五年四月省令第七號ヲ以テ改ム)

第二十一條 條例第二十五條ノ抽籤名簿ハ附録第四様式ニ依リ之ヲ作り冊尾ニ旅管徵兵官署名押印ス可シ(二十五年四月省令第七號ヲ以テ改ム)

第二十二條 抽籤總代人ハ抽ク所ノ番號ヲ高聲ニ呼ビ其籤札ヲ「旅管徵兵署事務補助員」ニ渡シ「旅管徵兵署事務補助員」ハ之ヲ籤丁名簿氏名ノ頭ニ貼付シ押印シ一人毎ニ之ヲ籤丁切り總代人ニ交付ス(二十五年四月省令第七號ヲ以テ改ム)

第二十三條 (検査)合格者ハ左ニ掲グル順序ニ從ヒ現役兵「及補充兵」ニ編入シ其要員ニ超

過スル者ハ豫備徵員ニ編入ス(二十五年四月省令第七號ヲ以テ(檢査)ヲ(甲乙兩利)ニ改メ二十八年四月省令第四號ヲ以テ(現役兵)ノ下(及補充兵)ノ四字ヲ加(豫備徵員)ニ編入ス)五月省令第七號ヲ以テ左ノ各款ヲ改正ス

- 一 甲種合格者ニシテ徵兵令第二十八條ニ當ル者(二人以上ナルトキハ年齢ノ順序ノ同年齡ノ者ハ誕生月日ノ順序)ニ從テ第二項第三項第四項第六項第七項第八項
 - 二 甲種合格者ニシテ徵兵令(第十一條)第五及(第二十一條)ニ當リ抽籤ノ法ニ依リシニテ徵集スル者(二十八年四月省令第四號ヲ以テ(第十一條)ヲ(第一)テ徵集スル者(第十三條)ニ(第二十一條)ヲ(第二十三條)ニ改ム)
 - 三 甲種合格者ニシテ徵兵令第二十七條ニ當リ徵集スル者
 - 四 甲種合格者ニシテ現役志願ノ者
 - 五 甲種合格者ニシテ抽籤ノ者
 - 六 乙種合格者ニシテ徵兵令第二十八條ニ當ル者
 - 七 乙種合格者ニシテ徵兵令(第十一條)第五項及(第二十一條)ニ當リ抽籤ノ法ニ依ラスニテ徵集スル者(同上省令ヲ以テ(第十一條)ヲ(第十三條)ニ改ム)
 - 八 乙種合格者ニシテ徵兵令第二十七條ニ當リ徵集スル者
 - 九 乙種合格者ニシテ抽籤ノ者
- 第二十四條 抽籤終ルトキハ旅管徵兵署ニ於テ附錄(第四)第五第六(第十)様式ニ依リ(新兵)證書(豫備員)證書(國民兵證書)及(免役證書)ヲ作り市ハ市長ヨリ本人ニ附與シ郡又ハ島嶼ニ在テハ町村長ヲシテ本人ニ附與セシム可シ(二十五年四月省令第七號ヲ以テ(第四)第(七)國民兵證書)ニ改メ二十八年四月省令第四號ヲ以テ(新)兵(現役兵)ニ(預備員)ニ(補充兵)ニ改ム

徵集免除ニ屬シ國民兵役ニ服スル者ハ別ニ證書ヲ附與セス市町村長ヲシテ其由ヲ本人ニ達セシム可シ(同上省令ヲ以テ第二項ヲ本項及次項ノ如ク改ム)

本則第十五條ニ當ル者ノ中徵集免除ニ屬セサル者アルトキハ其裁決書ヲ第一項ノ例ニ依リ本人ニ附與ス可シ

第二十五條 條例第二十六條ノ(新兵)名簿(豫備員)名簿(免役名簿及國民兵編入)名簿ハ徵兵檢査名簿ヲ以テ繼續シ種類ヲ分チ冊尾ニ旅管徵兵官署押印ス可シ(二十五年四月省令第七號ヲ以テ(免役名簿及國民兵編入)ヲ(徵集免除名簿及兵役免除)ニ改メ二十八年四月省令第四號ヲ以テ(新兵)ヲ(現役兵)ニ(預備員)ヲ(補充兵)ニ改ム)

(第二十六條) 旅管徵兵署ニ於テ抽籤名簿ニ基キ新兵監視名簿及豫備員監視名簿ヲ作り各監視區長ニ交付ス可シ(二十五年四月省令第七號ヲ以テ本條ヲ削除ス)

第二十六條 條例第二十八條ノ徵兵表ハ附錄(第八)様式ニ依リ之ヲ作ル可シ(同上省令ヲ以テ(第二十六條)トシ(第八)ヲ(第七)ニ改ム)

第二十七條 壯丁名簿進達前(市ニ在テハ調製前)他ノ市町村ニ轉籍スル者アルトキハ市町村長ヨリ本人徵兵適齡屆書ヲ添ヘ轉籍地ノ市町村長ニ通知ス可シ(同上省令ヲ以テ本條ヲ追加ス)

第二十八條 壯丁名簿進達後檢査前名簿ニ關スル異動ヲ生シタル者若クハ他ノ(徵募區)ヨリ入籍シタル者アルトキハ町村長之ヲ島司又ハ郡長ニ報告ス可シ但檢査後抽籤前ニ係ルモノハ島司又ハ郡長ヲ經テ旅管徵兵官ニ報告ス可シ(同上省令ヲ以テ(徵募區)ヲ(市町村)ニ改ム)

市ニ在テ檢査名簿進達後抽籤前項ニ當ル者ハ市長之ヲ旅管徵兵官ニ報告ス可シ

新兵入營前及豫備員ノ名簿ニ關スル異動(轉入籍ヲ除ク)ハ市町村長ヨリ監視區長ニ通知ス可シ

但寄留地ニ於テ徵集ニ應ス可キ者ノ異動ハ本籍ノ市町村長ヨリ寄留地ノ市町村長ニ通知シ寄留地市町村長本項ノ通知ヲ爲スモノトス二十六年五月省令第七號ヲ以テ但第五十九字ヲ加ヘ二十年四月省令第四號ヲ以テ(新兵)ヲ(現役兵)ニ(豫備徵兵)ニ改ム

第二十九條 「壯丁名簿受領後市ニ在テハヨリ壯丁名簿若クハ「検査名簿ヲ添ヘ轉籍地ノ島司又ハ郡市長ニ通知ス可シ二十五年四月省令第七號ヲ以テ」
(検査後)トアルヲ(壯丁名簿受領後)以下別注ニ改ム
(メヨリ)ノ下ニ(壯丁名簿若クハ)ノ七字ヲ加フ

第二十條 徵兵令第十八條第十九條第二十條第二十一條及第二十七條ニ當リ徵集延期徵集猶豫若クハ入營延期翌年回「中名簿ニ關スル異動ヲ生スル者アルトキハ島司郡市長ニ於テ其名簿ニ訂正ヲ加フ可シ但郡又ハ島嶼ニ在テハ町村長其異動ヲ島司又ハ郡長ニ報告ス可シ二十六年五月省令第七號ヲ以テ(第二十條)ノ下(及第二十一條)ニ當リ徵集延期若クハ(徵集猶豫)トアリシヲ」
十條第二十一條第二十二條第二十三條)ニ改ム

第三十一條 徵兵令第二十六條ニ依リ他ノ徵募區ニ於テ徵集ニ應ス可キ者ニシテ徵集延期若クハ徵集猶豫ト爲リタル者ハ島司郡市長ヨリ其名簿ヲ添ヘ本籍ノ島司郡市長ニ通知ス可シ其他事故ニ依リ徵集ニ應セサル者亦同シ二十五年省令第七號
其徵集免除又ハ兵役免除ト爲リタル者ハ府縣應ヨリ其名簿ヲ添ヘ本籍ノ府縣應ニ通知ス可シ二十八年四月省令第四號ヲ以テ本條ヲ改正ス

第三十二條 徵兵令(第十一條)第五項及「條例(第七十一條)ニ當ル者アルトキハ町村長ハ戸籍ニ基キ壯丁名簿ヲ作り島司又ハ郡長ニ差出ス可シ二十六年五月省令第七號ヲ以テ(徵兵令)ノ」
十一條第五項及「三改メ二十八年四月省令第四號ヲ以テ(再十
一條)ヲ(第十三條)ニ(第七十一條)ヲ(第六十九條)ニ改ム

第三十三條 (新兵入營)ノ期ニ先タチ大隊區司令官ニ於テ入營地若クハ近衛海軍(新兵集合地)ニ到ル日數ヲ量リ召集ノ場所及日時ヲ定メ島司又ハ郡市長及町村長ヲ經テ之ヲ各自ニ達ス可シ二十八年四月省令第四號ヲ以テ(新兵入營)ヲ(現役
兵入營)ニ(新兵集合地)ヲ(入營兵集合地)ニ改ム
大隊區外ニ轉籍シタル者ニ在テ舊住地大隊區司令官ヨリ其召集ノ場所及日時ヲ新住地大隊區司令官ニ通報シ新住地大隊區司令官ハ前項ノ手續ニ依リ之ヲ各自ニ達ス可シ(寄留地)ニ於テ徵集ニ應ス可キ者ニシテ本籍ニ復歸シタル者亦同シ
二十七年十二月省令第二十四號ヲ以テ本項ヲ追加シ二十八年四月省令第四號ヲ以テ(寄留地)以下二十九字ヲ削ル

第三十四條 條例第四十八條ノ(新兵)引率員及近衛海軍(新兵)受領員ハ左ノ如シ二十五年四月省令第七號ヲ以テ本條ヲ改正シ二十八年四月省令第四號ヲ以テ(新兵)ヲ(入營兵)ニ改ム
新兵引率員

- 新兵五人以上三十人迄 大隊區書記一名
- 新兵三十一人以上百人迄 大隊區書記一名上等兵一名若クハ二名
- 新兵百一人以上二百人迄 大隊區副官一名下士一名上等兵一名乃至三名
- 但二百一人以上三百人迄ハ下士二名上等兵二名乃至四名三百一人以上ハ下士三名上等兵一名

等兵二名乃至五名トス
近衛海軍新兵受領員

新兵(五人以上)三十人迄
新兵(五人以上)三十人迄
新兵(五人以上)三十人迄
新兵(五人以上)三十人迄
新兵(五人以上)三十人迄
新兵(五人以上)三十人迄
新兵(五人以上)三十人迄
新兵(五人以上)三十人迄
新兵(五人以上)三十人迄
新兵(五人以上)三十人迄

近衛海軍新兵引率員、新兵人員ノ多少ニ拘ハラズ大隊區書記一名トス
第二十五條 條例第四十八條第二項ノ近衛、海軍(新兵)集合地ハ左ノ如シ二十八年四月省令第四

- 第一師管ハ東京、横須賀
 - 第二師管ハ仙臺、白河、直江津二十五年四月省令第七號ヲ以テ(高田)ヲ加ヘ(二十七年
 - 第三師管ハ四日市、沼津、名古屋二十五年四月省令第七號ヲ以テ(高田)ヲ加ヘ(直江津)ニ改ム
 - 第四師管ハ「京都、神戸」二十七年十二月省令第二十四號ヲ
 - 第五師管ハ廣島、吳、丸龜以テ(神戸)ヲ(京都、神戸)ニ改ム
 - 第六師管ハ(長崎)、佐世保、(大分)二十五年四月省令第七號ヲ以テ(長崎)
 - 第七師管ハ(小倉)ニ改ム(大分)ノ二字ヲ削ル
- 第三十六條 近衛海軍(新兵)入營ノ期ニ先チテ近衛、師團司令部及鎮守府ニ於テ(新兵)ノ集合地ヨリ入營地ニ到ル日數ヲ量リ集合地到着ノ日數ヲ定メ豫メ之ヲ各師團司令部ニ通牒ス可シ同上省令ヲ以テ(近衛)ノ下ニ(師團司令部)ノ六字ヲ加ヘ(二十八年四月省令

第三十七條 條例第四十九條ノ入營延期願濟ノ者其他事故不參ノ者アルトキハ(新兵)引率員大隊區司令部所在ノ入營地ニ在テハ大隊區司令部ヨリ各隊長又ハ近衛海軍(新兵)(受領委員)ニ其由ヲ通知ス可シ

第三十八條 條例第五十一條ニ依リ(豫備徵員)ヲ以テ(新兵)ノ缺員ヲ補フニハ大隊區司令官ニ於テ其取扱ヲ爲ス可シ但他ノ大隊區又ハ警備隊區司令官ノ通知ヲ得テ其取扱ヲ爲ス可シ

第三十九條 徵兵令第二十七條ニ依リ翌年回ト爲リタルモノハ其年ノ新兵同時ニ入營セシム可シ但本條ノ人員ハ其年ノ新兵所要人員ニ加ヘサルモノトス

第三十九條 (新兵)入營前癩疾又ハ不具ト爲リ永久兵役ニ堪ヘ難キ者ト認メタル者アルトキハ其(診斷書)ヲ添ヘ大隊區司令官又ハ(警備隊司令官)ヨリ旅團長ニ具申ス可シ但(新兵)召集地若クハ(新兵)交付ノ際ニ於テ若シ永久兵役ニ堪ヘ難キ者ト認メタル者アルトキハ一時其入營ヲ差止メ置キ本條ノ手續ヲ爲ス可シ

以下十五字ヲ(入營兵)引率員召集地若クハ(改)

(新兵)入營ノ期ニ迫リ條例第五十三條ニ依リ徵集延期ヲ願出ル者アルトキハ大隊區司令官又ハ警備隊區司令官一時其入營ヲ差止メ置キ旅團長ニ具申ス可シ

第四十條 條例第五十四條及本則第二十八條第三項ニ當ル(新兵)ノ異動ハ大隊區司令官

守府司令官長官ニ通牒ス可シ(一)又ハ警備隊區司令官ニ當ル(新兵)ノ異動ハ大隊區司令官

第四十一條 (新兵)ニシテ徵集延期若クハ入營延期翌年回下爲リタル者ノ名簿ハ大隊區司令官

前項ノ名簿中入營延期翌年回ト爲リタル者ノ名簿ハ島司郡市長之ヲ徵集延期名簿ニ編入

第四十二條 條例第五十八條ニ當ル豫備徵員ノ異動中其大隊區外又ハ警備隊區外ニ係ル

官又ハ警備隊區司令官ニ送付ス可シ

第四十三條 (新兵豫備徵員)ニシテ轉籍シタル者ノ(新兵)豫備徵員(證書)ハ總テ轉籍地

ノ大隊區司令官又ハ警備隊區司令官ニ於テ訂正ス可シ

第四十四條 (新兵)證書(豫備徵員)證書(國民兵役證書)及(免役證書)ヲ失ヒ又ハ損傷シタル

者ハ新ニ渡方ヲ島司郡市長ニ請求ス可シ

第四十五條 條例第六十一條ニ依リ寄留地徵募區ニ於テ身體検査ヲ受クルコトヲ許可シタ

ル旨島司郡市長ヨリ寄留地ノ島司郡市長ニ通知スルニハ之ニ壯丁名簿ヲ添フ可シ

添へ其旨ヲ本籍地ノ大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ヨリ検査名簿ヲ

第四十六條 條例第六十條ノ願書ハ附録第八樣式ニ依リ身元證書ハ附録第九樣式ニ依リ合

格證書ハ附録第十樣式ニ依リ之ヲ作ル可シ

第四十七條 壯丁名簿及假決名簿中一年志願兵又ハ六週間現役兵ト爲リテ入營シタル者ノ

名簿ハ大隊區徵兵官ヨリ旅管徵兵官ニ差出ス可シ

第一樣式 (壯丁名簿)

住	所府(縣)國郡(市)町(村)大字
職	分 華(士族)平民(何職)無職業
明	番 兵種 甲(乙)種何兵第何番

治何年壯丁名簿		假決	終決	體格	備考	誕生	姓名
現役兵(第一補充兵)(補充兵)				等位	備考	年 月 日	其長(次)男(兄)弟 本人戸主ナレハ 戸主ト記スヘシ
胸造	胸造	視力	身長	備考	戸主(家族)直接國稅何圓ヲ納ム 戸主(家族)家屋ヲ有ス 年月日何罪ニ依リ罰金ニ處セラルル 年月日何罪ニ依リ罰金ニ處セラルル		
胸造	胸造	視力	身長	備考	戸主(家族)直接國稅何圓ヲ納ム 戸主(家族)家屋ヲ有ス 年月日何罪ニ依リ罰金ニ處セラルル 年月日何罪ニ依リ罰金ニ處セラルル		
胸造	胸造	視力	身長	備考	戸主(家族)直接國稅何圓ヲ納ム 戸主(家族)家屋ヲ有ス 年月日何罪ニ依リ罰金ニ處セラルル 年月日何罪ニ依リ罰金ニ處セラルル		

一 職業ハ現ニ從事スル所ノ職業ヲ記シ兼業ノ者ハ之ヲ併記ス假令「農兼木工」「商兼鍛工」等ノ如シ但シ官吏教員醫師僧侶ノ類ハ總テ其名稱ヲ身分職業ノ區畫ニ記スヘシ

二 兵種番號、假決、終決、體格ノ區畫ニハ大隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署又ハ旅管徵兵署ニ於テ其事項ヲ記入スルモノトス(元三)

三 諸學生ハ其種類ニ依リ備考區畫中ニ醫學生、獸醫學生、電氣技師生、漢學生、何學校修業或ハ卒業等ヲ併記スヘシ(元四)

(附言) 二十六年省令第七號ヲ以テ本表中住所ノ區畫中(町村)ノ下(大字)ノ二字ヲ加ヘ二十七年省令第二十四號ヲ以テ欄外(元四)ヲ加ヘ二十八年省令第四號ヲ以テ本表(假決)ノ區畫中(第十八條)トアリシヲ(第二十條)ニ移シテノ區畫中(豫備徵兵)トアリシヲ(第一、第二、補充兵)(補充兵)ニ改メ欄外二項ヲ削リ以下番號ヲ繰上ケ

第二様式 徵集延期猶豫證書 用紙ハ厚紙

表

右徵集ヲ延期(猶豫)ス

年月日

凡曲尺五寸

何大隊區徵兵署 印

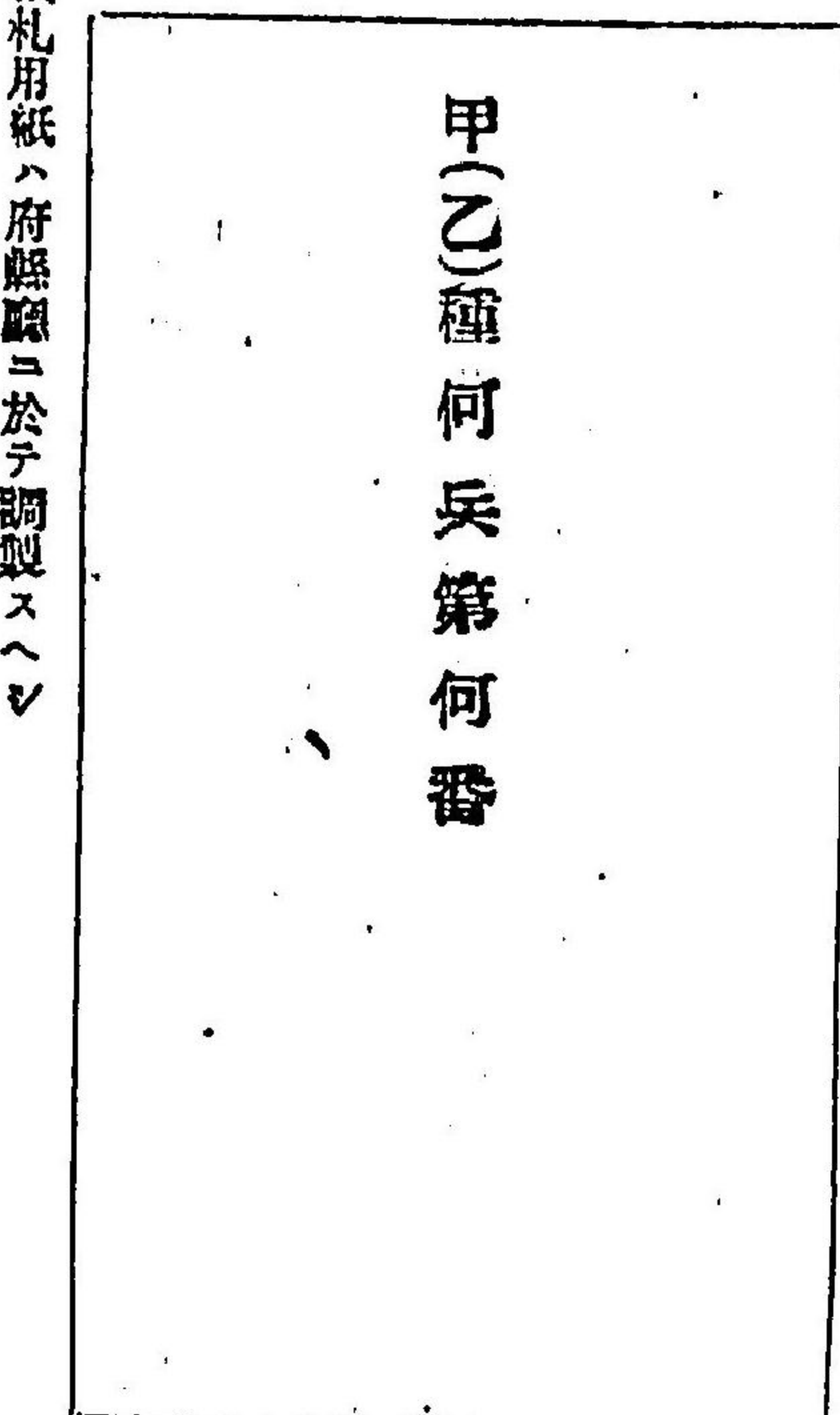
本證書ハ翌年徵兵假決ノ前日迄其効ヲ有スルモノトス但翌年終決ノ處分ヲ受クヘキモノハ其前日迄トス

- 一 本證書ハ大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ニ於テ假決ノ處分ヲ爲シタル者ニ限り附與スルモノトス
- 二 本證書ハ島廳郡市役所ニ於テ調製スヘシ

第二様式 (鐵札)

用紙ハ厚紙

甲(乙)種何兵第何番



鐵札用紙ハ府縣廳ニ於テ調製スヘシ

第四様式 (抽籤名簿)

用紙ハ府縣廳名ノ美濃野紙

府(縣)郡(市)甲(乙)種何兵抽籤名簿

第一番	何町	何	某
<small>令第二十八條ニ當ル者(令第十三條第五項ニ當ル者)(令第二十三條ニ當ル者)(令第二十七條ニ當ル者)(志願兵)</small>			

(附言) 二十六年五月省令第七號ヲ以テ本表中(令第二十八條ニ當ル者)ノ下(第三十一條ニ當ル者)トアリシヲ令第十一條第九項ニ當ル者(令第二十一條ニ當ル者)(令第二十七條ニ當ル者)ト改メ二十八年省令第四號ヲ以テ(第十一條)ヲ(第十三條)ニ(第二十一條)ヲ(第二十三條)ニ改メ

第五様式

(新兵)「豫備徵員」證書

(用紙ハ厚紙)

第二番	何村	何	某
-----	----	---	---

第何旅管何大隊區
 府(縣)郡(市)町(村)
 甚(長)次(男)兄(弟) 本人戸主ナレハ
 戸主ト記スヘシ

甲(乙)種何兵第何番 氏 名

右現役ニ徵集シ何兵第何聯(大)隊ニ編入ス(右豫備徵員ニ編入ス)

年月日 第何旅管徵兵署 印

凡出尺六寸

心得

- 一新兵ノ入營期ハ十二月一日トス
- 一豫備隊諸兵ノ入營期ハ第一期ハ十二月一日第二期ハ六月一日トス
- 一輜重輸卒ノ入營期ハ第一期ハ十二月一日第二期ハ四月一日第三期ハ八月一日トス
- 一豫備徵員ハ暇時若クハ事變ノトキ徵集セラレ又其年ノ新兵缺クルトキハ其缺トシテ徵集セラルトモトス

要

- 一疾病傳染或ハ犯罪等ニテ入營シ難キ者ハ市町村長ノ與書印ヲ受ケタル書面疾病傳染ノ者ハナシテ以テ入營當日迄ニ監視區長ヲ經テ大隊區司令官(警備隊區司令官)ニ届出ヘシ其届出ヲ爲サ、ルトキハ科料ニ處セラレ、モノトス
- 一入營ニ際シ父母ノ疾病危篤或ハ死亡ノ爲メ入營延期ヲ願ハントスルモノハ市町村長ノ與書印ヲ受ケタル書面父母疾病危篤ノ者ハ醫ヲ以テ大隊區司令官(警備隊區司令官)ニ願出ヘシ
- 一故ナク入營ノ期ニ後レ十日以内ハ、チ過クルトキハ禁錮ノ刑ニ處セラレ、モノトス
- 一轉籍シタルトキハ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ監視區長ニ届出シ其監視區外ニ係ルトキハ新舊住地ノ監視區長ニ届出ヘシ寄留地ニ於テ徵集ニ應スヘキ者本籍ニ復歸シタルトキ亦同シ其届出ヲ爲サ、ルトキハ科料ニ處セラレ、モノトス
- 一寄留若クハ十四日以上ノ旅行ヲ爲サントスルトキ徵集ノ命ヲ違報スヘキ者ヲ定メ市町村長ヲ經テ監視區長ニ届出ヘシ復歸シタルトキ亦其由ヲ届出ツヘキモノトス
- 一此届出ヲ爲サ、ルトキハ科料ニ處セラレ又過期人正當ノ事由ナクシテ徵集ノ命ヲ違報セス若クハ遲緩シタルトキハ科料又ハ拘留ニ處セラレ、モノトス
- 一此證書ハ新兵ハ入營迄豫備徵員ハ翌年十一月三十日迄其效ヲ有スルモノトス
- 一此證書ヲ失ヒ若クハ損傷シタルトキハ更ニ下渡ヲ島前郡市長ニ請求スヘシ

- 一 表面「右現役兵ニ徵募シ」ノ下近衛又ハ海軍兵ニ在テハ「近衛歩(騎)(砲)(工)(輜重)兵隊ニ編入ス」又ハ「横須賀(吳)佐世保(鎮守府海兵團)ニ編入ス」ト記スヘシ
- 二 本證書用紙ハ府縣廳ニ於テ調製スヘシ

(附言) 裏面裏中九項前後三行トモ二十七年十二月省令第二十四號ニ依リ改正ス

第六様式 (兵役免除證書)

(用紙ハ厚紙)

表 第四四四号

右兵役ヲ免ス

年月日

第何旅管徴兵署

印

第何旅管大隊區
府(縣)郡(市)町(村)

其(長)次(男)兒(弟)本人戸主ナレハ
戸主ト記スヘシ

氏 名

凡此尺六寸

此證書ヲ失ヒ若シハ損傷シタルトキハ更ニ下渡ヲ島司又ハ郡市長ニ請求
スヘシ

本證書用紙ハ府縣廳ニ於テ調製スヘシ

第八様式 (現役志願書)

二十八年省令第四號ヲ以テ本表中(徴兵令)
ノ下(第一條)トアリシヲ(第十二條)ニ改ム

現役志願書

私儀徴兵令第十二條ニ依リ現役ニ服シ度候間服役ノ義御許可相成度
別紙身元證書(検査合格證書ヲ添ユル者ハ「身元證書」) 相添ヘ戸主(後見人)連署
ヲ以テ此段奉願候也

年月日

本人

氏

名 印

口

戸主(後見人)

氏

名 印

歩(騎)(野戰砲)(要塞砲)(工)(糧食)兵何聯隊(大)隊(何鎮守府)近衛隊ニ出願スル者ハ兵種ノ
上ニ近衛ノ二字ヲ加フヘシ

御 中

第九様式 (身元證書)

身元證書

府(縣)郡(市)町(村)番地(士)族(平民)
 某(長)次(男)兄(弟) 本(戸)主(ナレハ) 戸(主)ト能(ス)ヘシ
 氏 年月日生 名

一 戸籍内ノ者

一 妻 某 何某長(次)女 年月日婚姻

一 父 某 一母 某

一 祖父 某 一祖母 某

一 兄 某 一妹 某 年月日生

一 何々

一 戸主(家族)直接國稅何圓何錢ヲ納ム

一 戸主(家族)家屋ヲ有ス(家屋ヲ有セス)

一 尋常(高等)小學校卒業(何年級迄修業)

一 何學校(塾)ニ於テ何學卒業(何學修業)

一 現今何ノ職業ニ従事ス

一 年月日何ノ賞トシテ何々ヲ受ク

一 刑罰ヲ受ケタルコトナシ(年月何々ノ科ニ依リ何罰ニ處セラル)

一 種痘何回(天然痘)

右ノ通相違無之候也

年月日

本人

氏

名

印

戸主(後見人)

氏

名

印

前書ノ通相違無之候也

年月日

何市(區)(町)(村)長 氏

名

印

(第七様式)第十様式署

○第二百八十三

徵兵事務條例補則 明治二十八年十一月一日(同日公布) 勅令第五百五十四號

朕徵兵事務條例補則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

徵兵事務條例補則

- 第一條 徵兵事務條例中第七師管ニ實施シ難キ諸件ハ當分本則ニ依ル
- 第二條 第七師管ニハ旅管徵兵區及之ニ屬スル職員ヲ置カス
- 第三條 札幌區函館區ハ各之ヲ徵募區ト爲ス
- 第四條 大隊區徵兵官ハ大隊區内徵募區毎ニ大隊區司令官及郡區長ヲ以テ之ニ充テ大隊區司令官ヲ首座トシ其ノ區内徵募準備事務及徵募事務ヲ執行ス
- 其ノ徵募事務ニ關シテハ徵兵事務條例中旅管徵兵官ニ係ル規程ニ從フ

第五條 大隊區徵兵參事員ハ徵募區毎ニ四名トシ北海道廳長官之ヲ命ス其ノ任期等ハ北海道廳長官ノ定ムル所ニ依ル

第六條 大隊區徵兵事務員ハ徵兵事務條例第十一條ニ掲クルモノ、外明治二十八年勅令第三百二十六號第二條ノ徵集猶豫ニ關スル事件ヲ審議シ意見ヲ徵兵官ニ具申スルヲ任トス

第七條 毎年徵募準備事務及徵募事務執行中ハ徵兵事務條例第十七條ニ掲クルモノ、外北海道廳屬若干名ヲ以テ大隊區徵兵署事務員ト爲ス

第八條 毎年徵募事務執行ノトキハ大隊區聯合徵兵署ヲ設ク

大隊區聯合徵兵署ノ數及其ノ場所ハ屯田兵司令官及北海道廳長官協議ノ上之ヲ定ム

第九條 明治二十八年勅令第三百二十六號第二條ニ當ル者ハ其ノ移住年月日及生業ノ狀況ヲ詳記シ徵兵事務條例第五十九條中徵兵令第二十二條ニ當ル者ノ例ニ據リ毎年顯出ヘシ

第十條 壯丁若シハ其ノ家族ニ於テ前條徵集猶豫ニ對スル大隊區徵兵官ノ裁決ニ不服アルトキハ徵兵事務條例第六章ノ規程ニ依リ訴願スルコトヲ得

第十一條 大隊區徵兵官ノ裁決ニ對スル訴願ハ直ニ師管徵兵官ニ提出スルモノトス

第十二條 徵兵事務條例第五十二條ノ永久兵役ニ堪ヘサル者及第五十三條ノ徵集延期ニ屬スル者ハ屯田兵司令官之ヲ處分ス

第十三條 第七師管ニ在テ徵兵事務條例中師團長ノ職務ハ屯田兵司令官、府縣知事ノ職務ハ北海道廳長官、市長市書記ノ職務ハ區長區書記、町村長ノ職務ハ戶長之ヲ行フ

○第二百八十四

事務條例中徵募區市長市書記市徵兵參事員壯丁名簿徵兵署抽籤總代人等ノ件 明治二十六年十月五日(七月六日公布) 勅令第六十三號

朕徵兵事務例中徵募區及市長市書記徵兵參事員ニ關スル明治二十二年勅令第六十四號改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 徵兵事務條例第三條ノ徵募區ハ東京市京都市大阪市ニ於テハ更ニ之ヲ検査區ニ分チ區ヲ以テ検査區ト爲ス

第二條 徵兵事務條例中大隊區徵兵官ハ東京市京都市大阪市ニ於テハ検査區毎ニ大隊區司令官及區長ヲ以テ之ニ充ツ

第三條 徵兵事務條例中市長及市書記ノ職務ハ東京市京都市大阪市ニ於テハ區長若クハ區書記ニ於テ之ヲ行フ

第四條 徵兵事務條例第二十三條ノ壯丁名簿ハ東京市京都市大阪市ニ於テハ區長之ヲ作リ一検査區ニ取纏メ大隊區徵兵署ニ提出スヘシ

第五條 東京市京都市大阪市ニ於テハ大隊區徵兵署ハ之ヲ検査區ニ設ケ又抽籤總代人ハ検査區毎ニ一名ヲ出スモノトス

第六條 東京市京都市大阪市ニ於テハ市ニ大隊區徵兵參事員ヲ置カス區ニ大隊區徵兵參事員四名ヲ置キ市ノ大隊區徵兵參事員ノ職務ヲ掌ラシム

第七條 區ノ大隊區徵兵參事員ハ市會ニ於テ其區内ニ住スル市公民中選舉權ヲ有スル者ヨ

リ選舉ス但其任期ハ市會議員ノ任期ニ依ル

○第二百八十五 試補及非職休職ノ官吏一年志願兵服役ノ件明治二十三年三月二十七日勅令第六十二號(同廿八日公布)
朕試補(及判任官見習)並非職休職ノ官吏ニシテ一年志願兵トナル者服役ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム二十六年十月勅令第八十三號ヲ以テ文官試補及見習規則ヲ廢ス但司法官試補ハ存ス
試補(及判任官見習)並非職休職ノ官吏ニシテ一年志願兵トナル者ハ其儘服役スルコトヲ得但有給者ニハ俸給ヲ給セス試補(及判任官見習)ニ在テハ服役時日ヲ實務練習ノ期限ニ算入セス

○第二百八十六 陸軍輜重輸卒現役期限及入營期限ノ件明治廿二年三月十九日(同廿一日公布)勅令第三十七號
朕陸軍輜重輸卒ノ現役期限ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
陸軍輜重輸卒ノ現役期限ハ一箇年トシ三期ニ分テ入營セシム第一期ハ十二月一日第二期ハ四月一日第三期ハ八月一日トス
疾病犯罪等ニテ期限ニ際シ入營シ難キ者ハ次期ニ於テ入營セシム其補缺員ハ次期入營ス可キ者ヲ繰上テ其月ノ十日迄ニ入營セシム但第三期ニ在テハ豫備徵員ヲ以テ補缺ス

○第二百八十七 令第二十七條ニ當ル輜重輸卒特別取扱ノ件明治二十六年十月二十四日陸軍省訓令甲第六號師團司令部近衛師團司令部ヲ除ク)道府縣(沖繩縣ヲ除ク)
徵兵令第二十七條ニ當ル者ハ翌年身體檢査ヲ行ヒ一般徵兵同様取扱フヘキノ處輜重輸卒ニ限リ左ノ通取扱フヘシ

一 疾病犯罪等ノ爲メ第三期ニ入營シ難キ者ハ身體檢査ヲ行ハス直ニ所要人員ニ加ヘ其年新兵同時ニ入營セシムヘシ

其事故繼續シ若クハ再發シテ仍ホ次年第二期ニ至ルモ入營シ難キ者アルトキハ徵兵檢査ノ際身體檢査ヲ行ヒ其徵否ヲ判定スヘシ

二 毎年徵募事務結了後ニ在テ前項ニ當ル者アルカ爲メ其年所要人員超過スルトキハ第二期入營ノ時末番號者ヨリ豫備徵員ニ繰下クヘシ

○第二百八十八 步兵聯隊ノ兵員ヲ徵集ス可キ聯合大隊區ノ件明治二十二年五月十一日陸軍省令第十一號
徵兵事務條例第四條ニ依リ步兵聯隊ノ兵員ヲ徵集ス可キ聯合大隊區左ノ通定ム

- 步兵第一聯隊 麻布大隊區 横濱大隊區
- 步兵第十五聯隊 高崎大隊區 長野大隊區
- 步兵第二聯隊 佐倉大隊區 水戸大隊區
- 步兵第三聯隊 本郷大隊區 宇都宮大隊區
- 步兵第四聯隊 仙臺大隊區 福島大隊區
- 步兵第十六聯隊 新發田大隊區 柏崎大隊區
- 步兵第五聯隊 青森大隊區 (盛岡)大隊區二十二年九月省令第十二號ヲ以テ(盛岡)大隊區ニ改ム
- 步兵第十七聯隊 (秋田)大隊區 山形大隊區同上省令ヲ以テ(秋田)大隊區ニ改ム
- 步兵第六聯隊 名古屋大隊區 津 大隊區

步兵第十八聯隊 豊橋大隊區 静岡大隊區
 步兵第七聯隊 金澤大隊區 富山大隊區
 步兵第十九聯隊 岐阜大隊區 福井大隊區
 步兵第八聯隊 大阪大隊區 和歌山大隊區
 步兵第九聯隊 大津大隊區 京都大隊區
 步兵第十聯隊 姫路大隊區 岡山大隊區
 步兵第十一聯隊 神戸大隊區 宮津大隊區
 步兵第十二聯隊 廣島大隊區 山口大隊區
 步兵第十三聯隊 尾ノ道大隊區 松江大隊區
 步兵第十四聯隊 九輪大隊區 徳島大隊區
 步兵第十五聯隊 松山大隊區 高知大隊區
 步兵第十六聯隊 熊本大隊區 宮崎大隊區
 步兵第十七聯隊 (八代)大隊區 鹿兒島大隊區二十三年五月省令第十七號ヲ以テ(八代)ヲ(大分)ニ改ム
 步兵第十八聯隊 小倉大隊區 佐賀大隊區
 步兵第十九聯隊 福岡大隊區 長崎大隊區

○第二百八十九 徵集延期若クハ徵集猶豫中又ハ翌年廻ノ者他ノ徵募區ニ轉籍ノトキ 島司郡市長取扱ノ件明治二十二年十月三十一日 陸軍省訓令甲第六號北海道廳府縣(沖繩縣ヲ除ク)

徵兵令第三十六條第三十七條第三十八條第三十九條及第四十一條ニ當リ徵集延期若クハ徵集猶豫中他ノ徵募區ニ轉籍スル者アルトキハ島司郡市長ヨリ其名簿ヲ添へ轉籍地ノ島司郡市長ニ通知セシム可シ 但失踪逃亡其他ノ事故ニ依リ翌年回ト爲リタル者ニテ他ノ徵募區ニ轉籍スル者ノ取扱ヒ亦本文ニ同シ

○第二百九十 地方徵兵醫官補助員定數ノ件明治二十五年四月五日 陸軍省訓令甲第四號北海道廳府縣(沖繩縣ヲ除ク)
 徵兵事務條例第十八條ノ徵兵醫官補助員ノ定員ハ一徵募區ニ(二名)トス 但實際ノ便宜ニ依リ數徵募區ヲ通シテ同一人ヲ採用スルコトヲ得二十三年三月訓令第三號ヲ以テ(三名)ヲ(二名)ニ改ム

○第二百九十一 徵兵身體検査ノ際壯丁ノ身長事務員測定ノ件明治二十五年四月五日 陸軍省訓令甲第五號師團司令官(近衛師團司令官ヲ除ク) 北海道廳府縣(沖繩縣ヲ除ク)
 徵兵身體検査ノ際壯丁ノ身長ハ大隊區又ハ警備隊區徵兵事務員ヲシテ測定セシム可シ

○第二百九十二 現役兵トシテ徵集シ又ハ補充員ヨリ現役兵ニ繰上タル者アルトキ島司郡市長取扱ノ件明治二十四年二月二十六日 陸軍省訓令甲第一號北海道廳府縣(沖繩縣ヲ除ク)
 毎年現役兵トシテ徵集シ又ハ豫備徵員ヨリ現役兵ニ繰上タル者アルトキハ島司又ハ郡市長ヨリ各自ノ戶籍寫ヲ大隊區司令官又ハ警備隊區司令官ニ送附セシム可シ

○第二百九十三 海軍志願兵海軍徵兵後備兵滿期トナリ又ハ豫備役滿期トナリタルトキ免役又ハ後備役編入ノ件明治二十三年三月十八日 海軍省告示第八號
 海軍准士官後備役滿期トナリ海軍志願兵豫備役滿期トナリ海軍徵兵後備役滿期トナリタル

トキ辭令ヲ用ヒス准士官下士ハ召官卒ハ免役トス

豫備ヨリ後備ニ入ル者ハ辭令ヲ用ヒス豫備滿期トナリタルトキ後備トス

○第三百九十四 海軍新兵入營ノトキ鐵道乘車券附與ノ件 明治二十三年三月十日
海軍省訓令第一號府縣

海軍新兵入營ノ時私設鐵道條例第二十一條ニ依リ乘車セシムルトキハ徵兵ナレハ集合地ヨ
リ入營地マテノ乘車證券ヲ新兵受領委員ヨリ附與シ志願兵ナレハ出發地ヨリ入營地マテノ
乘車證券ヲ徵集官ヨリ府縣廳ヲ經テ附添人ニ交附シ附添人ヨリ之ヲ附與スルモノトス

○第三百九十五

徵兵失踪逃亡ノ者歸投若クハ所在發見ノトキ徵集ノ手續及踪跡不明
ノ者調査ニ不及件 明治二十三年三月二十日(内務大臣達)
陸軍省訓令甲第五號師團司令部道府縣(沖繩縣ヲ除ク)

明治十七年以前ノ徵兵ニシテ失踪逃亡ノ者ハ歸投若クハ所在發見スルニ從ヒ徵集ノ手續ヲ
爲シ其踪跡不明ノ者ハ毎年調査スルニ及ハス

○第三百九十六

軍人生徒學生傷痍疾病其他ノ事故ニ由リ免役等ノトキ徵否定メ方ノ
件 明治二十七年二月二十一日
陸軍省訓令甲第二號師團司令部(近衛師團司令部ヲ除ク)道府縣(沖繩縣ヲ除ク)

徵兵事務條例ニ依リ終決處分ヲ受ケタル者ニシテ志願ニ由リ現役軍人トナリ服役三箇年未
滿ノ者若クハ常備兵籍ニ編入ノ諸生徒學生傷痍疾病其他ノ事故ニ由リ現役若クハ生徒學生
ヲ免シ兵役上ニ關スル爾後ノ處分ヲ受ケサルモノハ更ニ徵兵検査ヲ爲シ其徵否ヲ定ムヘシ

但明治二十一年陸軍省訓令甲第二號師團司令部ハハ廢ス
○第三百九十六 徵兵事務條例施行細則中第七師管ニ施行シ難キ諸件 明治二十八年十一
月三十日

徵兵事務條例施行細則中第七師管ニ施行シ難キ諸件ハ當分左ノ諸項ニ依ル

一 明治二十八年勅令第二百二十六號第二條ニ當リ徵集猶豫ニ屬スル者ハ初年及徵集ニ應ス
ヘキ年ノ外身體ノ検査ヲ行ハス

二 明治二十八年勅令第二百二十六號第二條ニ當ル者ノ取扱ハ徵兵事務條例施行細則第十條
ノ例ニ依ル

三 區戶長徵兵事務條例第二十三條同施行細則第一條ニ依リ壯丁名簿ヲ作ルニ當リ屯田兵
ノ戶籍内ニ在ル者ハ其事由ヲ名簿ノ備考區畫ニ記載スヘシ

四 明治二十八年勅令第二百二十六號第三條ニ依リ徵集免除ニ屬スル者ハ身體ノ検査ヲ行ハ
ス

五 徵兵事務條例第二十九條ノ徵集猶豫名簿ハ徵兵令第二十三條ニ當ル者ト明治二十八年
勅令第二百二十六號第二條ニ當ル者ト各別ニ作ルヘシ

六 徵兵事務條例第四十八條第二項ノ近衛、海軍入營兵集合地ハ函館トス

七 第七師管ニ在テハ徵兵事務條例施行細則中旅管徵兵署及之ニ屬スル職員ニ係ル規程ハ
大隊區徵兵署及之ニ屬スル職員ニ係ル規程トアルハ屯田兵司令部、
屯田兵司令官ニ府縣廳トアルハ北海道廳ニ市トアルハ區ニ町村長トアルハ戶長ニ適用
ス

● 伺指令

● 事務條例第七十一條但書及寄留地ニ於テ検査ヲ受クル件 明治二十二年十二月四日 軍務部令
 一 徵兵事務條例第七十一條但書ノ年齢二十六歳ヲ過クルト否トノ分界ハ轉籍シタルトキノ
 年齢ニ依ルニアラズシテ徵集ニ應セシムヘキ年ノ十二月ヲ以テ區分シ例ハ本年徵募事
 務終決後二十六歳未滿ニシテ入籍シ來ル二十三年十一月迄ニ滿二十六歳トナル者ハ徵集
 セサル儀ニ候哉

一 學術修業又ハ商業等ノ爲メ一時他ニ寄留ノ者該地ニ於テ徵集ニ應スルニアラスシテ身體
 ノ検査ノミヲ受ケ度旨願出ルトキハ本籍及寄留地大隊區徵兵官協議ノト検査及本籍ノ抽
 籤等ニ差支無之ト認ムル者ニ限リ便宜取扱苦シカラス哉
 陸軍省總務局回答 明治二十二年十二月二十四日

第一項ハ年齢滿二十六歳トナリタル年ノ徵募事務終結ヲ以テ分界シ右終結迄ニ轉籍シ
 タル者ハ徵集シ其以後ニ係ル者ハ徵集セズ第二項ハ御意見ノ通ニテ可然存候
 ● 寄留地應徵者ニシテ施行細則改正以前徵集延期者ハ徵集猶豫トナリタル者細則第三十
 一條ノ手續ヲ爲ス件 明治二十五年四月二十八日 陸軍省令
 今般徵兵事務條例施行細則中改正相成候處本令第二十六條ノ寄留地應徵者ニシテ昨二十四
 年以前徵集延期者ハ徵集猶豫ト爲リタル者ハ本年假決若クハ終決ノ處分ヲ爲シタル後ニ
 於テ細則第三十一條ノ手續ヲ爲スヘキヤ

其假決若クハ終決ノ處分ヲ爲シタル者ノ證書ハ寄留地ニ於テ調製シ本人ニ附與スヘキ義ニ
 候哉

陸軍省軍務局第二軍事課回答 明治二十五年四月三十日

● 兩項共御意見ノ通リニテ可然存候

● 徵兵未行地へ轉籍ノ者條例第五十條ニ依リ取扱ノ件 明治二十五年五月十八日 陸軍省令
 客年九月十七日付ヲ以テ徵兵令未行地へ轉籍ノ者取扱ノ件御伺出ニ對シ當省指令ノ趣モ有
 之候處今般徵兵事務條例第五十條改正ニ付テハ向後ハ右未行地ニ轉籍ノ者ト雖モ同條ニ依
 リ可取扱儀ニシテ最前ノ指令ハ自然消滅スル義ト御承知有之度

● 徵兵令未行地へ轉籍者取扱ノ件 明治二十四年九月十七日 兵部省令
 徵集相當者ノ内家事ノ都合ニ依リ徵兵令未行地へ全戶轉籍又ハ移住セシ場合ニ於テ別ニ
 徵兵上規程無之候得共既ニ検査ノ上合格セシモノ抽籤前ハ竝ニ新兵ニシテ入營前ハ勿論
 徵集スル義ト相心得可然哉

陸軍省指令 明治二十四年九月二十五日
 伺ノ趣徵集セサル義ト心得ヘシ

● 施行細則第三十九條但書滞在若クハ歸郷旅費等ノ件 明治二十五年七月二十九日 第五師團參謀長令
 徵兵事務條例施行細則第三十九條但書ニ係ル者ノ滞在若クハ歸郷旅費等ハ何レニ於テ支給
 スヘキ筋ニ候哉

陸軍省軍務局第二軍事課回答 明治二十五年八月十六日

地方廳ニ於テ徴兵費ヨリ支給スル儀ト心得ヘシ

●屯田兵志願者採用後徴兵検査ノ件明治二十六年三月二十四日 徳島縣問合

屯田兵志願者ニシテ其採用ノ違ヲ受ケ既ニ誓文書ヲ差出サシメタル者ト雖モ移任前徴兵検査ニ際スレハ身體検査ヲ受ケシムル儀ト思考候得共少シク疑義ニ涉リ御問合ニ及ヒ候

陸軍省軍務局第二軍事課長回答 明治二十六年三月二十九日

身體検査ヲ受ケシメサル儀ト御承知可有之

●令第二十七條ニ該當スル者身體検査ノ件明治二十六年五月二十日 第四師團參謀長照會

本月十三日附省令第八號ヲ以テ二十四年省令第五號廢止相成候右ハ全ク令第二十七條ニ該當スルモノハ身體検査施行不致精神ニ有之候哉同日省令第七號ヲ以テ徴兵事務條例施行細則改正追加中ニモ別ニ検査ノ明文ハ無之候得共實際上検査施行ハ徴集上利益不尠殊ニ本年ノ如キハ訓令乙第三號ニ依リ撰兵上必要ニ有之候就テハ右検査施行ト否トハ師管徴兵官ノ意見ニ可被任儀ニ候哉將タ全ク検査ハ施行シ得サル儀ニ候哉差掛リタル儀モ有之候ニ付至急電報ニテ御回答相成度

陸軍省軍務局第二軍事課回答 明治二十六年五月二十二日(電報)

検査ノ上相當兵種ニ組入ルヘキ主意ナリ

●輜重輸卒ニ合格シ犯罪ニ依リ處刑ノ者入營等ノ件明治二十七年五月三十一日 第四師團參謀長照會

明治二十五年徴兵適齡検査ニ合格シタル後同年十月七日竊盜犯ニ依リ重禁錮五箇月監視六箇月ニ處セラレタルヲ以テ徴兵令第二十七條ニ照シ昨二十六年再ヒ検査ヲ遂ケ候處輜重輸卒ニ合格シ猶又同年十月二日同犯ニ因リ重禁錮八箇月監視六箇月ニ處セラレ本年十二月一日マテニ滿期ト相成ルヘク候就テハ客年御省訓令甲第六號第一項ニ據リ來ル二十八年第二期ニ入營セシムル筋ナルヤ又ハ同項第二ニ據リ更ニ検査ヲ行ヒ其徵否ヲ定ムヘキ筋ナルヤ何分ノ御指示相成度

陸軍省副官回答 明治二十七年六月五日

來ル二十八年第二期ニ入營セシメ可然存候

●失踪逃亡ノ徴兵ニ關スル件明治二十八年五月十日 岡山縣照會

明治十七年以前ノ徴兵ニシテ失踪逃亡ノ者ハ明治二十三年御省訓令甲第五號ニ依リ歸投若クハ所在發見スルニ從ヒ徴集ノ手續ヲ爲ス儀ニ候處右ハ年齡四十歳ヲ過クルトキハ其人名ヲ具シ處分方向出候儀ニ候哉將タ徴集ノ手續ヲ終ル迄ハ年齡ニ不拘依然名簿ニ据置儀ニ候哉折返シ何分ノ御指示相成度

陸軍省軍務局第二軍事課回答 明治二十八年五月十三日

御伺出ニ及ハス候條郡市長ヨリ大隊區司令官へ通知セシメ尙ホ名簿ヲ添へ縣廳へ報告セシメ之ヲ以テ處分濟ノモノトシ御取扱相成可然存候

●乙種歩兵合格者國民兵役編入方ノ件明治二十八年七月四日 滋賀縣問合

抽籤番號ノ順序ニ由リ其年ノ現役兵及補充兵役所要員ニ超過スル者ハ國民兵役ニ編入スヘキ義ニ有之候處歩兵ニシテ甲種歩兵合格者ノミヲ以テ其現役及補充兵役所要員ヲ補充シ得ヘキ場合ニ於テハ乙種歩兵合格者ハ便宜抽籤セシメ直ニ國民兵役ニ編入ノ處分ヲ爲シ可然哉

陸軍省指令 明治二十八年七月八日

伺ノ趣抽籤ヲ行ヒ其番號順序ニ依リ徵集免除名簿ヲ作ル儀ト心得ヘシ

第三節 陸軍六週間現役兵條例及施行細則

○第二百九十六乙 陸軍六週間現役兵條例 明治二十八年十月四日 勅令第四百四十一號

朕陸軍六週間現役兵條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍六週間現役兵條例

- 第一條 徵兵令第十三條第三項ニ依リ六週間陸軍現役ニ服セシムヘキ者ハ教職ニ就キタル年若クハ其ノ翌年ニ於テ其ノ居住地師管内ノ歩兵隊 警備隊ヲ置ク島嶼ニ編入シ服役セシムニ編入シ服役セシム
- 第二條 六週間現役兵ノ入營期日ハ毎年六月一日トス但疾病其ノ他ノ事故ニ由リ期日ヨリ三日以内ニ入營シ難キ者ハ翌年徵集ス
- 戰時若クハ事變ニ際シテハ其徵集ヲ延ハスコトアルヘシ
- 第三條 現服役日數ハ入營期日ヨリ起算ス
- 第四條 六週間現役兵ノ教育ハ聯隊長 獨立大隊ニ在テハ隊長警備隊長ニ在テハ司令官以下ニ徵テ其ノ責ニ任スニ任ス

第五條 六週間現役兵中勤務勉勵品行方正ニシテ第二國民兵ヲ以テ編成スルヲ部隊ノ幹部ルヲ得ヘキ材幹アル者ニハ聯隊長其ノ成績ヲ具シ順序ヲ經テ師團長 第七師團ニ在テハ屯田兵司令官ノ認可ヲ受ケ國民軍幹部適任證書ヲ授與ス

第六條 六週間現役兵ノ身體検査ハ入營スヘキ年ニ於テ一般ノ徵兵検査ト同時ニ之ヲ行フ徵集ニ適セサル者ハ徵兵検査規則ニ照シ處分ス

第七條 北海道及沖繩縣ニ在ル者ノ身體検査ニ關スル規程ハ陸軍大臣別ニ之ヲ定ム

附 則

第八條 北海道ニ在ル者ハ第七師管ニ常備歩兵隊ヲ置ク迄ハ第二師管ノ歩兵隊ニ編入シ服役セシム

第九條 本令ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

明治二十三年勅令第二十二號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス (勅令第二十二號ハ六週間現役ニ服スヘキ者兵籍編入身體検査入營期日旅役等ノ件)
○第二百九十六丙 陸軍六週間現役兵條例施行細則 明治二十八年十月十一日 陸軍省令第十八號
陸軍六週間現役兵條例施行細則左ノ通定ム

陸軍六週間現役兵條例施行細則

第一條 六週間現役兵ノ身體検査ハ教職ニ就キタル年居住地最寄ノ大隊區徵兵署、警備隊區徵兵署又ハ検査所ニ於テ之ヲ行フ但其ノ年ノ入營期日ニ切迫シ若クハ入營期日後教職

トナリタル者ハ翌年回トス

第二條 府縣廳ニ於テハ徵兵事務條例施行細則第一様式ニ準シ六週間現役兵名簿ヲ作り身體検査ニ先ダチ之ヲ大隊區司令官又ハ警備隊區司令官ニ送付シ検査ノ手續ヲ協議スヘシ但官立小學校ノ教職モ亦本文同様該校所在府縣ニ於テ取扱フヘシ

第三條 大隊區司令官警備隊區司令官ハ六週間現役兵ノ身體検査ニ關シテハ尋常徵兵ト同一ノ取扱ヲ爲シ其ノ名簿ヲ旅團長ニ差出シ且其ノ成績ヲ府縣知事ニ通知スヘシ

第四條 旅團長ハ其ノ合格者ニ附録第一様式ノ合格證書ヲ付與シ其ノ名簿ヲ師團長ニ呈シ其ノ他ハ尋常徵兵同一ノ處分ヲ爲スヘシ但沖繩縣在籍者ニシテ徵集ニ適セサルモノハ尋常徵兵同一ノ處分ヲ爲スノ限ニアラス

第五條 師團長ハ合格者在職地ノ遠近ニ應シ適宜之ヲ各隊ニ配附スヘシ

第六條 北海道及沖繩縣ニ在ル者ノ身體検査ハ左ノ諸項ニ依ルヘシ

- 一 北海道ニ在テハ札幌大隊區司令部沖繩縣ニ在テハ沖繩分遣隊ニ於テ身體検査ヲ行フ
- 二 北海道廳及沖繩縣廳ニ於テハ教職トナルヘキ年豫メ第二條ニ準シ名簿ヲ作り札幌大隊區司令部又ハ沖繩縣分遣隊ニ送付スヘシ
- 三 札幌大隊區司令官及沖繩縣分遣隊長ハ三月一日迄ニ醫官ヲシテ身體検査ヲ爲サシメ其ノ名簿ヲ札幌大隊區司令官ヨリハ屯田兵司令官沖繩分遣隊長ヨリハ鹿兒島大隊區司令官ニ送付シ鹿兒島大隊區司令官ハ第三條ノ例ニ準シ取扱フヘシ

第七條 身體検査ノ後教職ヲ罷メタル者アルトキハ道廳府縣廳ヨリ直ニ師團司令部又ハ屯田兵司令部ニ通報スヘシ但北海道及沖繩縣ニ在テハ検査後入營期日迄ニ教職ヲ命セサル者アルトキ亦同シ

第八條 身體検査ヲ受ケタル者沖繩縣在籍者ヲ除ケハ其ノ年ノ五月三十一日迄ニ合格若クハ其ノ受ケ

本條ノ届出ヲ爲サル者ハ五錢以上壹圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第九條 條例第五條ニ依リ國民軍幹部適任證書ヲ授與シタル者アルトキハ聯隊長獨立大隊ニ在テハ其ノ隊長警備隊ニ在テハ該司令官ヨリ本籍所管ノ大隊區司令官又ハ警備隊區司令官ニ通報シ大隊區司令官警備隊區司令官ハ其ノ名簿ヲ調製シ且道廳府縣廳ニ通報スヘシ

國民軍幹部適任證書ハ附録第二様式ニ準シ調製スヘシ

第十條 國民軍幹部適任證書ヲ授與セラレタル者ニシテ懲戒處分ヲ受ケ又ハ家資分散若クハ破産ノ宣告ヲ受ケ若クハ禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキハ其證書ヲ返還セシム

第十一條 前諸條ニ掲グルモノ、外ハ師團長屯田兵司令官及道廳長官府縣知事協議ノ上之ヲ定ムヘシ

條例第九條ニ依リ第二師管ノ歩兵隊ニ編入スヘキ者ノ取扱ハ屯田兵司令官ヨリ第二師團長ニ協議シ之ヲ定メ陸軍大臣ニ報告シ道廳長官ニ通知スヘシ

第一様式 用紙厚紙 (第二様式ハ略ス)

陸軍六週間現役兵合格證書

府(縣)郡(市)町(村)
某(長)次(男)兄(弟)
氏 名

右検査合格ニ付此證書ヲ付與ス

表

凡曲尺六リ

職(爵)氏 名印

心得

- 一 此證書ヲ所持スル者ノ入營期日ハ六月一日トス
但疾病其他ノ事故ニ由リ期日ヨリ三日以内ニ入營シ難キ者ハ
翌年徵集セラルトモノトス
- 二 戰時若クハ事變ニ際シテハ其ノ徵集ハ延ハスコトアルヘシ
- 三

裏

第四節 警備隊ニ關スル件

○第三百九十七 警備隊條例 明治十九年十一月三十日(十二月一日公布)
朕警備隊條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

警備隊條例

○第四百四 大隊區司令部條例 明治二十一年五月十二日(五月十四日公布)
朕大隊區司令部條例制定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

大隊區司令部條例

第一條 各大隊區ニ司令部ヲ置ク其職員左ノ如シ

- 司令官 中佐若クハ少佐一名
- 副官 大尉若クハ中尉一名
- 書記 下士五名内二名ハ軍吏部下士
- 監視區長 曹長二名乃至四名

第二條 大隊區司令官ハ旅團長ニ隸シ其大隊區内徵兵事務及召集事務ヲ掌ル

第三條 大隊區司令官ハ大隊區内ニ現在スル「在郷陸軍軍人豫備徵員及屯田補充兵役ニ在ル者」ノ身上異動其他願盾ニ關スル事ヲ掌ル二十七年十月勅令第百七十八號ヲ以テ現在スルノ下(豫備後備ノ將校及相當官)トナルヲ(在郷)云々ノ二十一字ニ改

第四條 大隊區副官ハ司令部一般ノ事務ニ服シ且會計ノ事ヲ管理ス

第五條 大隊區書記ハ上官ノ指揮ニ從ヒ記注及計算ノ事ニ從フ

第六條 各大隊區司令部ノ位置左ノ如シ

- 麻布 横濱
- 長野 佐倉
- 本郷 宇都宮
- 高崎 水戸
- 仙臺

福島	新發田	柏崎
青森	盛岡	秋田
山形	名古屋	津田
豊橋	静岡	金澤
富山	岐阜	福井
大坂	和歌山	大津
京都	姫路	岡山
神戶	福知山 <small>元(宮津)二十三年五月勅令第八十一號ヲ以テ(福知山)ニ改ム</small>	廣島
尾ノ道	山口	松江
丸龜	徳島	松山
高知	熊本	宮崎
大分 <small>元(八代)同上勅令ヲ以テ(大分)ニ改ム</small>	鹿児島	小倉
佐賀	福岡	長崎
札幌	函館	空知太
天塩	根室	釧路
十勝	浦河 <small>二十七年十月勅令第百七十八號ヲ以テ(札幌)以下七ヶ所ヲ追加ス</small>	

第七條 大隊區ヲ分テ二箇乃至「五箇」ノ監視區ト爲ス二十七年十月勅令第百七十八號ヲ以テ(四箇)トアルヲ(五箇)ト改ム

第八條 監視區長ハ監視區内ニ駐劄シ「在郷陸軍下士兵卒」屯田兵條例ニ依リ服役ス豫備徴員及屯田兵役ニ在ル者ヲ監視シ身上異動其他願届ニ關スル事ヲ取扱ヒ大隊區司令官ニ報告ス同上勅令ヲ以テ(駐劄シ)ノ下(豫備後備)ノ下(士卒)トアルヲ(在郷陸軍)以下勅令共四十三字ニ改ム

第九條 監視區ノ區域並ニ監視區長ノ駐劄地ハ師團長之ヲ定ム

附則

第十條 函館、空知太、天鹽、釧路、十勝、浦河ノ各大隊區ハ土地ノ狀況ニ依リ漸チ以テ司令部ヲ兼轄セシメ監視區長ノ事務ハ最寄監視區長ヲシテ兼務セシム但函館大隊區中函館、江差、福山ハ第七師團設置迄青森大隊區司令部ノ管轄ニ屬ス同上勅令ヲ以テ本條ヲ追加ス

前項司令部及監視區長ノ設置並大隊區ノ兼轄所屬ハ陸軍大臣之ヲ定メ監視區長兼務ノ區域ハ師團長之ヲ定ム

第十一條 本條例中師團長旅團長ノ職務ハ第七師管ニ在テハ師團旅團設置迄屯田兵司令官之ヲ行ヒ又當分ノ内大隊區司令官ハ本職アル中少佐ヲ以テ兼補シ監視區長ハ現役豫備後備ノ下士ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得其豫備後備下士身分ノ取扱ハ召集中ノ者ニ同シ(同上)

●參照 漸チ以テ司令部ヲ置クヘキ大隊區ノ兼轄所屬ノ件明治二十七年十月二十日陸軍省令第二十二號

大隊區司令部條例第十條ニ依リ漸チ以テ司令部ヲ置クヘキ大隊區ノ兼轄所屬左ノ通定ム

函館大隊區、空知太大隊區、天塩大隊區、浦河大隊區ハ札幌大隊區司令部ノ所轄トス

釧路大隊區、十勝大隊區ハ根室大隊區ノ所轄トス

(附言) 本令第八條中豫備徵員ナル明文アリ豫備徵員ノ名稱タル當時徵兵令ニ於テ籤丁ノ當籤セサル者ニ命スルノ稱ニシテ豫備徵員ハ其年入營ノ期ヨリ翌年入營ノ期迄ニ入營セサル者ヲ云フ若シ限内徵集定員ニ不足スルトキハ抽籤番號ノ順序ニ依リ入營セシメテ以テ定員ヲ補充スル者ナリ而ルニ二十八年四月徵兵令中改正セラレ該令中既ニ掲載アリシ豫備徵員ノ明文ヲ改メテ補充兵役トセラレタルニ依リ本令掲載ノ豫備徵員ナルモノモ自然補充兵役ト改マリタルモノト看做シ補充兵役者ニ係ル事項ニ關シ本條ニ當ルモノハ又本令ニ依リ取扱フヘキモノトス

○第四百五 警備隊區司令部條例明治二十二年十二月二十八日(十二月三十日)公布
朕警備隊區司令部條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

警備隊區司令部條例
第一條 警備隊區ニ司令部ヲ置ク其職員左ノ如シ
司令官 中佐若クハ少佐一名
副官 大尉若クハ中尉一名
書記 下士二名

第二條 警備隊區司令官ハ警備隊司令官之ヲ兼攝ス
第三條 警備隊區司令官ハ旅團長ニ隸シ警備隊區内徵兵事務及召集事務ヲ掌ル

第四條 警備隊區司令官ハ警備隊區内ニ現在スル「在郷陸軍軍人」ノ身上異動其他願届ニ關スル事ヲ掌ル二十七年十月勅令第七十九號ヲ以テ(現在スル)ノ下(豫備隊區司令官)トアルヲ(在郷)云々ノ六字ニ改ム

第五條 警備隊區司令官ハ警備隊區内ニ現在スル豫備後備下士卒ヲ管轄シ歸休兵ヲ監視ス

第六條 警備隊區副官ハ司令部一般ノ事務ニ服シ且會計ノ事ヲ管理ス

第七條 警備隊區書記ハ上官ノ指揮ニ從ヒ記注計算ノ事ニ從フ

第八條 警備隊區司令部位置ハ豫備隊常屯ノ地トス

第二款 陸軍一年志願兵條例施行細則
○第四百六 陸軍一年志願兵條例明治二十六年七月十九日(七月二十日)公布
朕陸軍一年志願兵條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍一年志願兵條例
第一條 徵兵令(第十一條)ニ依リ一年志願兵トナル者ハ居住地師管内ニ於テ服従スヘキ兵科及衛戍地ヲ選ブコトヲ得但第四條ニ當ル者ハ此限ニ在ラス二十八年三月勅令第三十四號ヲ以テ(第十一條)ヲ(第十三條)ニ改ム

第二條 一年志願兵ニハ所屬隊ヨリ糧食、被服、裝具、兵器、彈藥ノ現品ヲ給シ被服費、裝具費、彈藥費及兵器修理費トシテ金六十二圓糧食費トシテ金三十八圓ヲ納メシム又騎兵科ニ入ル者ニハ馬匹ヲ貸與シ馬糧費、裝蹄費、剔毛費及馬藥費トシテ更ニ金七十五圓ヲ納メシム以上ノ金額ニテ不足ヲ生スルトキハ之ヲ追徵シ殘餘アルトキハ之ヲ還付シ兵器ハ本人滿期ノ際之ヲ返納セシム

第三條 一年志願兵ハ在營セシムルヲ例トス但本人ノ願ニ依リ聯隊長聯隊長ヲ成サハル隊ニ在外
ヲハ該隊長以下同シ泊ヲ許シ通勤セシムルコトヲ得

第四條 費用ノ全額ヲ自辨シ能ハサルノ證アル者ハ糧食費外ノ費用ヲ官給ス

第五條 一年志願兵ハ總テ無給料トス其検査住復並ニ入營退營旅費亦自辨トス

第六條 官費服役ヲ許スヘキ一年志願兵ノ定員ハ毎年陸軍大臣之ヲ定ム
官費服役出願者前項ノ定員ヲ超過スルトキハ年少ノ者ヨリ順次次年廻シ入隊セシム同上
ヲ以テ本項
ヲ追加ス

第七條 一年志願兵ハ現役滿期ノ後六箇年四箇月間豫備役ニ五箇年間後備役ニ服セシム
豫備役後備役中犯罪ノ爲メ又ハ正當ノ事由ナクシテ召集ヲ缺キタル者其召集ヲ缺キタル
年ハ服役年期ニ算セス同上勅令ヲ以テ
本條ヲ改正ス

第八條 一年志願兵志願者ハ其願書ヲ一月三十一日迄ニ本籍ノ島司東京府大阪ノ三市
以下同シヲ經テ自費服役者ニ在テハ服役スヘキ衛戍地所管ノ旅團長東京衛戍地ニ在テハ
八歩兵第一旅團長ニ官費服
役者ニ在テハ居住地所管ノ旅團長ニ差出スヘキ但徵兵令第十一條ノ學校卒業者ハ卒業
證書寫及戸主ニアラサルモノ又ハ戸主二十歳未滿者ハ戸主若クハ後見人ノ承認書ヲ添附
スルヲ要ス同上勅令ヲ以テ(第十一
條)ヲ(第十三條)ニ改ム

第九條 前條ノ志願者ニシテ一月三十一日迄ニ徵兵令(第十一條)ノ學校ヲ卒業セサル者ハ

其年十月三十一日迄ニ卒業スヘキ者ニ限リ學校長ノ證明書ヲ以テ卒業證書寫ニ換フルヲ
得但卒業ノ上ハ直ニ卒業證書寫ヲ添ヘ旅團長ニ届出ヘシ(同上)

第十條 旅團長ハ第八條ノ志願者中學術試驗ヲ受クヘキ者ノ人名書ニ通テ製シ師團長ニ呈
スヘシ師團長ハ其一通ヲ監軍ニ呈シ一通ヲ身體検査ヲ爲サシムヘキ軍醫ニ下付スルモノトス

第十一條 一年志願兵ノ學術試驗格例ハ毎年監軍之ヲ定メ陸軍大臣之ヲ告達ス

第十二條 師團長ハ學術試驗ヲ受クヘキ者ノ身體検査時日ヲ定メ府縣知事ニ通達シ本人ヲ
検査地ニ召集ス

第十三條 師團長ハ軍醫ヲシテ學術試驗ヲ受クヘキ者ノ身體検査ヲ爲サシム其合格者ハ陸
軍將校生徒試驗臨時委員ヲシテ學術試驗ヲ爲サシメ試驗書類ヲ(將校學校監ニ送付スヘ
シ)二十七年二月勅令第二十號ヲ以テ(將校學校
監ニ送付スヘシ)ヲ(旅團長ニ交付ス)ニ改ム

(將校學校監ハ試驗ノ成績ニ據リ及第落第ヲ定メ監軍ノ裁定ヲ受ケ之ヲ旅團長ニ通告ス
ヘシ)同上勅令ヲ以テ
本項ヲ削除ス

第十四條 旅團長ハ(前條ノ通告ニ據リ)及第者ニハ一年志願兵認定證書ヲ付與シ落第者ニ
ハ其旨ヲ通知スヘシ(同上勅令ヲ以テ(前條ノ通告ニ據リ)ヲ(試
驗ノ成績ニ據リ及第落第ヲ定メ)ニ改ム

第八條但書ノ卒業者及第九條ニ當ル者ハ通常ノ徵兵ト同時ニ身體検査ヲ爲シ合格者ニハ
一年志願兵認定證書ヲ付與シ不合格者ニハ其旨ヲ通知スヘシ但第九條ニ當ル者ノ認定證
書ハ同條但書ノ届出ヲ爲シタルトキ之ヲ付與スルモノトス

第四條ニ當ル者ハ認定證書ノ外別ニ官費服役證書ヲ付與スヘシ

第十五條 一年志願兵ノ入隊期日ハ毎年十二月一日トス

第十六條 一年志願兵認定證書ヲ受ケタル者ハ入隊スヘキ年ノ十一月三十日迄ニ第二條若クハ第四條ノ金額ヲ所屬隊ニ納付スヘシ但入隊前外泊ノ許可ヲ受ケタル者ハ第二條ノ糧食費ヲ控除シ納付スヘシ

第十七條 一年志願兵ノ教育ニ關シテハ聯隊長其責ニ任スルモノトス

第十八條 一年志願兵中勤務熟達品行方正ニシテ豫備士官タルヲ得ヘキ材幹アル者ハ入隊ノ日ヨリ起算シ四箇月ノ後一等卒ヲ命シ通常教育ノ外特別ノ教育ヲ授ケ更ニ二箇月ノ後上等兵ト爲シ下士ノ勤務ヲ爲サシメ更ニ三箇月ノ後二等軍曹ノ階級ニ進メ諸勤務ヲ練習セシム

其服役滿期ニ際シテハ聯隊長終末試験委員ヲシテ第二十六條ノ格例ニ從ヒ終末試験ヲ爲サシメ其成績ヲ具シ師團長歩兵ニ在テハ旅團長ヲ經テノ認可ヲ受ケ及第者ニハ終末試験及第證書ヲ授與シ一等軍曹ニ其落第者ハ二等軍曹ニ任シ豫備役ニ編入ス

第十九條 前條及第二十二條ノ選ニ當ラサル者ハ入隊ノ日ヨリ起算シ六箇月ノ後一等卒ヲ命シ更ニ三箇月ノ後上等兵ト爲シ通常教育ノ外下士タルノ教育ヲ授ケ服役滿期ノ際其成績優等ノ者ハ師團長ノ認可ヲ受ケ二等軍曹ニ任シ之ニ亞ク者ハ下士適任證書ヲ付與シ若クハ之ヲ付與セスシテ豫備役ニ編入ス

第二十條 第十八條及第二十二條ニ當ル者ニシテ疾病其他ノ事故ニ由リ豫備士官ト爲スノ見込ナキニ至リタルトキハ第十九條ノ例ニ準シ取扱フモノトス

第二十一條 醫學、藥學、理財學若クハ商業學ノ卒業證書ヲ所持スル者ハ步兵隊理財學、商業學所持スル者ハ師團司令部所在地ノ歩兵隊ニ限ルニ獸醫學ノ卒業證書ヲ所持スル者ハ騎兵隊、野戰砲兵隊又ハ輜重兵隊ニ於テ前半年間隊列勤務ヲ爲シ後半年ノ初ニ於テ軍醫、藥劑生、獸醫、又ハ軍吏生ト爲リ各専門ノ勤務ヲ練習スルコトヲ得志願ノ者ハ入隊ノ際其卒業證書寫ヲ添へ出願スヘシ前項ノ獸醫、藥劑生タル者ハ第二條ノ馬匹ニ關スル納金ヲ要セス

第二十二條 前條ノ志願者中勤務勉勵品行方正ニシテ豫備士官タルヲ得ヘキ志操アル者ハ入隊ノ日ヨリ起算シ四箇月ノ後一等卒ヲ命シ更ニ二箇月ノ後上等兵ヲ命スヘシ之ニ軍醫、藥劑生、獸醫、軍吏生ヲ命スルニハ師團監督部長若クハ軍醫長、獸醫長ヨリ師團長ノ認可ヲ受クルモノトス但軍吏生ト爲シタル者ハ下士ノ勤務ヲ爲サシメ上等兵ヲ命シタルトキヨリ更ニ三箇月ノ後二等書記ノ階級ニ進ムヘシ

第二十三條 軍醫、藥劑生ノ教育ハ該隊上級醫官、藥劑生ノ教育ハ衛戍病院長、獸醫、藥劑生ノ教育ハ該隊上級ノ獸醫官、軍吏生ノ教育ハ師團監督部長各其責ニ任スルモノトス

第二十四條 軍醫、藥劑生、獸醫、藥劑生ハ曹長同等ノ取扱ヲ受クルモノトス

第二十五條 軍醫、藥劑生、獸醫、藥劑生及軍吏生ト爲シタル者ハ服役滿期ノ際師團監督部長、軍醫長若クハ獸醫長終末試験委員ヲシテ第二十六條ノ格例ニ從ヒ終末試験ヲ爲サシメ其

及豫備役ニ編入ス
其落第者ニ在テハ軍醫長ハ三等看護長ニ藥劑生ハ二等調劑手ニ獸醫生ハ蹄鐵工下長ニ軍吏生ハ二等書記ニ任シ豫備役ニ編入ス

前二項ニ於ル下士ノ任官ハ軍醫長、藥劑生ニ在テハ軍醫長ヨリ陸軍省醫務局長、獸醫生ニ在テハ醫隊隊長ヨリ師團長、軍吏生ニ在テハ監督部長ヨリ陸軍省經理局長ノ認可ヲ受クルモノトス

第二十六條 師團長及師團監督部長ハ毎年一年志願兵ノ終末試験格例ヲ定メ豫メ之ヲ告達ス

第二十七條 終末試験委員ハ聯隊長、監督部長之ヲ編成ス
軍醫長、藥劑生、獸醫生ノ終末試験委員ハ師團長之ヲ編成シ軍醫長及獸醫長ノ指揮ニ屬ス

第二十八條 第十八條及第二十二條ニ依リ上等兵ト爲シタル者ハ成ルヘク兵卒ト居室ヲ異ニシ將校ト共ニ會食セシムヘシ

第二十九條 一年志願兵ノ服制ハ別ニ定ムルモノ、外其階級ニ應シ各兵科ノ下士兵卒ト同一トス但軍醫長、藥劑生、獸醫生ハ該隊曹長(ト同一ニシテ襟ニ特別ノ徽章ヲ附ス)ト以テ階級ニ進メタルハ該隊二等軍曹ト同一トスニ改ム

第三十條 戰時若クハ事變ニ際シテハ一年志願兵ト雖モ通常ノ現役勤務ニ服セシムルコトアルヘシ

第三十一條 一年志願兵入隊前禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ死亡シタルトキハ其親族ヨリ

旅團長ニ届出ヘシ

第三十二條 一年志願兵認定證書ヲ所持スル者疾病其他止テ得サル事故ニ由リ十二月一日

前項ノ事故アル者十二月三十一日ヲ過ルモ入隊シ難シト認ムルトキハ旅團長之ヲ次年廻

第三十三條 一年志願兵入隊シタルトキ若クハ次年廻シト爲リタルトキハ本籍所管大隊區

第三十四條 一年志願兵認定證書ヲ得タル者正當ノ事由ナクシテ其年十二月一日ニ入隊セ

第三十五條 徵兵事務條例第五十三條(第六十七條及第六十八條)ハ一年志願兵ニモ亦適用

附則

第二十六條 明治二十七年以前一年志願兵トシテ服役シタル者ノ豫備役後備役年期ハ第七

條ニ依ル但明治二十四年以前一年志願兵トシテ服役シタル者ノ後備役年期ハ豫備役年期

○四百七 陸軍一年志願兵條例施行細則 明治二十六年七月二十二日

陸軍一年志願兵條例施行細則

陸軍一年志願兵條例施行細則

- 第一條 條例第二條ノ所屬隊ヨリ給スル被服器具ノ現品左ノ如シ
- 一 第一種帽前共
- 二 第二種帽
- 三 第一種衣袴
- 四 第二種衣袴
- 五 夏衣袴二者
- 六 日履
- 七 外套
- 八 脚絆
- 九 第一種手蹠
- 十 背囊
- 十一 被服手入具
- 十二 飯盒
- 十三 水筒
- 十四 寢具
- 第二條 糧食費自辨ノ者ハ行軍若クハ野外演習中ノ糧食費亦自辨トス
- 第三條 條例第八條ノ願書ハ附錄第一第二様式ニ承認書ハ第三様式ニ證明書ハ第四様式ニ依リ之ヲ作ル可シ

第四條 條例第十三條ノ身體検査終レハ軍醫ハ其成績ヲ陸軍將校生徒試験臨時委員ニ通知シ條例第十條ノ人名書ニ不參其他ノ事由ヲ記註シ體格検査表ヲ添ヘ師團長ニ報告シ師團長ハ之ヲ條例第八條ノ旅團長ニ交付ス
旅團長ハ其身體検査ニ不合格ノ者^{二十歳未満者ヲ除ク}體格検査表ヲ本籍地ノ旅管徴兵官ニ送付ス可シ

第五條 條例第十四條第二項ニ依リ身體検査ヲ爲ス可キ者ノ人名ハ旅團長ヨリ大隊區司令官又ハ警備隊區司令官ニ達シ同官之ヲ島司郡市長ニ通達シ島司郡市長ハ検査ノ時日及場所ヲ告示ス可シ
居住地旅管外ノ衛戍地ニ於テ服役セシコトヲ志願スル者ノ身體検査ハ衛戍地所管ノ旅團長^{東京衛戍地ニ在テハ歩兵第一旅團長}ヨリ居住地所管ノ旅團長ニ協議シテ之ヲ行フ可シ
事故アリテ指定ノ検査場ニ出頭シ難キ者ハ願ニ依リ他ノ徴兵署若クハ検査所ニ於テ身體検査ヲ受クルコトヲ得

第六條 前條ノ身體検査終ル後大隊區司令官又ハ警備隊區司令官其人名書ニ不參其他ノ事由ヲ記註シ體格検査表ヲ添ヘ旅團長ニ呈ス
旅團長ハ其身體検査ニ不合格ノ者^{二十歳未満者ヲ除ク}體格検査表ヲ本籍地ノ旅管徴兵官ニ送付ス

可シ

第七條 第四條及第六條ノ身體検査不合格ノ者ハ旅管徴兵官徴集免除又ハ兵役免除ノ處分ヲ爲シ其一時徴集ニ適セサル者ハ大隊區徴兵官又ハ警備隊區徴兵官ヲシテ徴集延期ノ處分ヲ爲サシム可シ

第八條 旅團長ハ條例第十三條及第十四條第二項ノ検査ニ不參セル者並學術試験ニ落第セシ者二十歳未満者ヲ除ク本籍地ノ大隊區徴兵官又ハ警備隊區徴兵官ニ通知ス可シ

第九條 條例第十四條ノ一年志願兵認定證書ハ附録第五様式ニ官費服役證書ハ第六様式ニ依リ作ル可シ但條例(第七條)ニ依リ次年廻シト爲ス可キ者ハ官費服役證書ノ餘白ニ其旨ヲ記載ス可シ二十八年四月省令第五號ヲ以テ(第七條)ノ第六條第二項ニ改メ

第十條 旅團長ハ同兵種二隊以上アル衛戍地ニ服役セントスル者ノ隊籍ヲ定ムルニハ成ル可ク之ヲ各隊ニ平均ス可シ

官費服役者中醫學、藥學、理財學者クハ商業學卒業證書ヲ所持スル者ハ步兵理財學、商業學卒業證書ヲ所持スル者ハ師團司令部所在地歩兵隊ニ限ル獸醫學卒業證書ヲ所持スル者ハ騎兵隊、野戰砲兵隊又ハ輜重兵隊ニ配付ス可シ

第十一條 旅團長ハ一年志願兵認定證書ヲ付與シタル者ヲ自費服役、官費服役、次年廻シ等ニ區別シ其人名書ニ體格検査表ヲ添ヘ當該聯隊長聯隊長ハ旅團長以下同シニ下付シ又其人員ヲ師團長ニ報告ス可シ

第十二條 聯隊長ハ前條ノ一年志願兵ニシテ十二月一日ニ入隊セサル者アルトキハ其人名書ヲ旅團長ニ報告ス可シ

第十三條 條例第三十一條第三十二條第二項第三十四條及入隊前第三十五條ニ當ル者アルトキハ旅團長ハ其旨ヲ聯隊長ニ通知シ師團長ニ報告ス可シ但二十歳以上ノ者ニ在テハ本籍地ノ大隊區徴兵官警備隊區徴兵官ニモ亦通知ス可シ

前項ノ者官費服役者ナルトキハ條例第七條ニ依リ次年廻シト爲シタル者ヲ繰上ケ十二月三十一日迄ニ入隊セシムルコトヲ得

第十四條 一年志願兵徵募事務終結後師團長ハ附録第七様式ニ依リ一年志願兵人員表ヲ作り翌年一月十五日迄ニ陸軍大臣ニ報告ス可シ

第十五條 條例第二十一條ニ依リ軍醫生、藥劑生、獸醫生及軍吏生ヲ志願スル者アルトキハ聯隊長其願書及卒業證書寫ヲ師團監督部長若クハ軍醫長若クハ獸醫長ニ送附シ監督部長軍醫長獸醫長ヨリ師團長ノ認可ヲ受ケ後半年初ニ於テ聯隊長ヲ經由シ之ヲ命スルモノトス

藥劑生ハ衛戍病院ニ軍吏生ハ師團監督部ニ派遣シ勤務ヲ練習セシムルモノトス

第十六條 軍醫生、藥劑生、軍吏生ト爲シタル者ハ貸與セシ兵器ヲ返納セシメ更ニ徒歩刀ヲ給ス獸醫生ト爲シタル者ハ軍刀或ハ砲兵刀ヲ除クノ外兵器ヲ返納セシム

第十七條 師團長ハ一年志願兵終末試験終リタルトキ附録第八様式ニ依リ成績表ヲ作り陸

軍大臣ニ報告ス可シ

條十八條 一年志願兵終末試験及第證書ハ附録第九様式ニ依リ各部各隊ニ於テ製ス可シ
第十九條 一年志願兵入隊前轉住其他止テ得サル事故ニ依リ隊籍變更ヲ願出ル者アルトキハ旅團長之ヲ許可スルコトヲ得但所轄外ニ係ルモノハ豫メ當該旅團長ト協議スルコトヲ要ス

第二十條 一年志願兵現役ヲ免シ若クハ死亡シタルトキハ資費ヲ精算シ殘金アレハ之ヲ還付ス

第一様式

十八年四月省令第五號ヲ以テ本表中(第十一條)ヲ(第十三條)ニ改ム

一年志願兵服役願

私儀徵兵令(第十一條)ニ依リ服役中ノ費用全額ヲ自辨シ何地何兵隊ニ於テ一年志願兵トシテ服役致度志願ニ候間御認可相成度別紙某學校卒業證書寫相添此段奉願候也

年月日

府(縣)郡(市)町(村)番地住
府(縣)郡(市)町(村)番地寄留
華(士)族(平民)

氏

名印
年月日生

步兵第何旅團長(爵)氏名殿

條例第九條ニ當ル者ハ「卒業證書寫」ノ五字ヲ「長證明書」ノ四字ニ換ヘ戶主ニアラサル者及二十歳未滿ノ者ハ「相添」ノ上ニ「戶主(後見人)ノ承認書」ノ字ヲ挿入シ學術試験ヲ受クヘキ者ハ「御認可」以下ヲ「學術試験ノ上御認可相成度(戶主、後見人)ノ承認書相添」此段奉願候也」ニ作ル

第二様式

同上省令ヲ以テ本表中(第十一條)ヲ(第十三條)ニ改ム

一年志願兵官費服役願

私儀徵兵令第十一條ニ依リ一年志願兵トシテ服役致度志願ニ候處志願中ノ費用全額自辨ス可キ資力無之候ニ付糧食費ヲ自辨仕候間其他ハ官費ヲ以テ服役ノ儀御認可相成度別紙某學校卒業證書寫相添此段奉願候也

年月日

府(縣)郡(市)町(村)番地住
府(縣)郡(市)町(村)番地寄留
華(士)族(平民)

氏

名印
年月日生

步兵第何旅團長(爵)氏名殿

第一様式欄外ノ記注ハ本様式ニ適用ス
第三様式

一年志願兵服役承認書

右者一年志願兵トシテ服役致度志願ニ候處服役中ノ費用金何圓無相違上納可爲致候也

氏名

年月日

府(縣)郡(市)町(村)番地住
府(縣)郡(市)町(村)番地寄留
月去(後凡人)
氏名印
年月日生

條例第四條ニ當ル者ハ本文「金何圓無相違上納」ノ八字ヲ「金額自辨スヘキ資力無之候得共糧食費金三十八圓ハ無相違自辨」ノ字ニ換フ
第四様式

身元證明書

氏名

一禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトナシ
一何年何月罰金何圓ニ處ヒラル或ハ何年何月何々ノ罰ニ處セラル等

一戸主或ハ本人何種公債證書或ハ株券金額何千圓何百圓ヲ所有スル等
一戸主或ハ本人官廳或ハ會社等ヨリ受クル給料何千何百圓等
一何々ノ所得年額何千何百圓等
右相違無之ニ付一年志願兵服役中ノ費用金額ヲ自辨シ得ルコトヲ證明ス
年月日 府(縣)郡(市)長 氏名印

條例第四條ニ當ル者ハ「右相違無之」云々ヲ「右相違無之候得共一家ノ生計ヲ立テ餘裕無之ニ付糧食費ノ外自辨シ能ハサルコトヲ證明ス」ニ作ル(第五乃至第九様式略ス)

第四百七乙

北海道居住一年志願兵服役及願書差出方ノ件(明治二十八年十一月三十日陸軍省令第三十一號)
北海道渡島後志膽振右狩ノ四箇國ニ居住スル者ニシテ官費ヲ以テ一年志願兵トナル者ハ第二師管第四旅管青森衛戍地屯在ノ歩兵隊ニ於テ服役セシム其願書ハ歩兵第四旅團長ニ差出ス

第三款 陸軍志願兵身體檢查規則

第四百八

陸軍志願兵身體檢查規則(明治二十五年三月二十六日陸軍省令第二十三號)
明治二十二年三月陸軍省達第三十九號陸軍志願兵身體檢查規則左ノ通改正ス

陸軍志願兵身體檢查規則

第一條 陸軍志願兵(徵兵事務條例施行細則第八條ニ當ル者ハ除ク)身體檢查ハ其身材ノ合格ト不合格トヲ判別スルモノトス而シテ此檢查ハ學術上該種ノ方法ヲ施スコトヲ得
此規則ハ陸軍士官候補生並陸軍諸生自志願者ノ身體檢查ニ適用ス

第二條 志願一日ノ検査人員ハ醫官一名ニ付概テ四十名トス

第三條 志願者ノ身長ヲ定ムルコト左ノ如シ但別ニ規定スル所アルモノハ此限ニ非ス

滿十五歲以上 四尺七寸以上

滿十六歲以上 四尺八寸以上

滿十七歲以上 四尺九寸以上

滿十八歲以上 五尺 以上

第四條 體格ヲ區別スルコト左ノ如シ

一 合格 徵兵検査規則第三條ノ甲種乙種ニ該當スルモノ身長ノ制限ハ本則第三條ニ據ル

二 不合格 前項ニ該當セサルモノ

第五條 近視ノモノハ合格トナスコトヲ得ス但各兵科士官候補生志願者ニ在テハ二十尺ノ

距離ニ於テ眼鏡ヲ用ヒス斯涅兒連氏視力表ノ三十號ヲ視得ルモノ一年志願兵ニ在テハ同

百號ヲ視得ルモノヲ採ルコトヲ得衛生部士官候補生志願者ニ在テハ尙高度ノモノヲ採ル

モ妨ナシ

第六條 一年志願兵志願者ニ限リ第四條ノ不合格中二十歲未満ノ者ヲ除ク徵兵検査規則第三條ノ丙種若

クハ丁種若クハ戊種ニ當ルモノナルコトヲ區別スヘシ

第七條 醫官ハ検査終了後一週日以内ニ體格表(第一式)ヲ調製シテ所管軍醫長ニ報告シ軍

醫長ハ之ヲ陸軍省醫務局長ニ呈スヘシ

第八條 士官候補生並諸生徒志願者ノ體格検査表(第二式)ハ検査終了後士官候補生並諸生

●陸軍各兵科現役下士補充條例明治二十一年三月三十日(三月三十一日)公布

第八條 現役中本人ヲ要スルニアラサレハ一家ノ生計ヲ營ミ難キ事故ヲ生スルトキハ本

人ノ願ニ依リ現役ヲ免スルコトヲ得

○第四百十一 陸軍下士服役規則ニ據リ現役免除出願方ノ件明治二十一年八月十八日 陸軍省訓令甲第七號北海道廳

府縣

明治十七年當省達中第十七號陸軍下士服役規則第十四條ニ依リ現役免除ヲ願フ者ハ本年

當省訓令甲第三號ノ手續ヲ爲シ本人ヨリ所管長官ニ出願セシムヘシ

○第四百十二 各兵隊下士徵兵令ニ照シ召集ノ者ノ外身分異動等届出方ノ件明治二十

二十日

陸軍省達中第二十六號府縣

各兵隊下士兵卒徵兵令ニ照シ召集スル者ヲ除ノ外府縣貫屬營或ハ養子及離縁并族籍變換改

姓名等有之節ハ其管轄廳ヨリ本人所管廳へ准士官以上並文官ハ本省へ可届出旨去ル明治六

年布第二百二十六號同九年達第六十九號ヲ以テ相違置候處右ハ本人ヨリ夫々其所管へ直ニ

可届出旨ニ付自今府縣廳ヨリ別段届出ニ不及候條此旨相違候事

第五款 歸休兵並豫備後備役ニ關スル件

第一節 陸軍歸休兵條例及憲兵卒概則

○第四百十三 陸軍歸休兵條例明治二十二年十二月二十八日(十二月三十日)公布

陸軍省達中第二十五號

朕陸軍歸休兵條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍歸休兵條例

- 第一條 陸軍現役兵中徵兵令第十二條ニ依リ歸休ヲ命ス可キ者ハ二箇年以上服役シタル者ニ限リ警備隊諸兵ハ八箇月以上在營シタル者ニ限ル
- 第二條 歸休ヲ命ス可キ人員ハ其都度陸軍大臣上裁ヲ經テ之ヲ定ム
- 第三條 歸休兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ召集ス平常ト雖モ演習ノ爲メ又ハ原隊ニ於テ臨時兵員ノ補缺ヲ要スルトキハ之ヲ召集ス
- 第四條 歸休兵在郷中ハ「本籍」大隊區司令官ノ監視ニ屬ス二十七年十月勅令第百八十二號ヲ以テ(本籍)ノ二字ヲ加フ
- 第五條 歸休兵在郷中現役滿期ニ至リタルトキハ別ニ命ナクシテ豫備役ニ入ルモノトス
- 第六條 歸休兵ハ官廳ニ奉職スルコトヲ得但奉職ノ故ヲ以テ召集ヲ猶豫若クハ免除スルコトナシ
- 第七條 休歸兵ハ退營後七日以内ニ衛戍地ヲ出發シ一日行程十里詰ヨリ勘ナカラサル日數間ニ歸郷シ著後七日以内ニ市町村長東京部大阪ノ三市ニ在テハ區長以下之ニ依リヲ經テ監視區長ニ届出可シ退營後衛戍地若クハ其他ノ地ニ八日以上滞在若クハ寄留セント欲スルトキハ本條ノ出發期日内ニ本籍市町村ニ於テ召集ノ命アルトキ之ヲ通報ス可キ者ヲ定メ市町村長ヲ經テ監視區長ニ届出可シ但歸郷シタルトキハ前項ノ届出ヲ爲ス可シ
- 前項ノ滞在地若クハ寄留地本籍地外ノ大隊區ニ係ルトキハ其ノ地ノ市町村長ヲ經テ同地監視區長ニモ届出ヘシ但本籍ニ復歸シ若クハ寄留替ヲ爲ストキ亦同シ同上勅令ヲ以テ本項ヲ追加ス

- 第八條 歸休兵在郷中傷疾若クハ疾病ニ由リ永久服役ニ堪ヘスト思惟スルトキハ陸軍醫官ノ診斷證書若クハ地方醫師ノ病況書ヲ添ヘ市町村長ヲ經テ監視區長ニ届出可シ
- 第九條 歸休兵在郷中兵籍上異動ヲ生シタルトキハ七日以内ニ市町村長ヲ經テ監視區長ニ届出可シ但監視區外ニ戶籍ヲ轉換シタルトキハ新舊所管ノ監視區長ニ届出可シ
- 第十條 歸休兵在郷中七日以上ノ旅行又ハ寄留セント欲スルトキハ召集ノ命アルトキ之ヲ通報ス可キ者ヲ定メ市町村長ヲ經テ監視區長ニ届出可シ但歸郷シタルトキハ七日以内ニ市町村長ヲ經テ其由ヲ監視區長ニ届出可シ
- 前項ノ寄留地本籍地外ノ大隊區ニ係ルトキハ寄留地市町村長ヲ經テ同地監視區長ニモ届出ヘシ但本籍ニ復歸シ若クハ寄留替ヲ爲ストキ亦同シ同上勅令ヲ以テ本項ヲ追加ス
- 第十一條 歸休兵ハ外國ニ旅行又ハ寄留スルヲ許サス
- 對馬警備隊區ニ在テハ朝鮮國釜山ニ旅行又ハ寄留スルコトヲ得但此場合ニ於テハ第十條「第一項」ノ例ニ依ル可シ同上勅令ヲ以テ(第十條)ノ下ニ(第一項)ノ三字ヲ加フ
- 第十二條 歸休兵在郷中死亡又ハ失踪シタル者「アルトキ及失踪中戶籍ヲ轉換シタルトキハ其ノ戶主本人戶主ナキハ其ノ家族」ヨリ七日以内ニ市町村長ヲ經テ監視區長ニ届出可シ失踪ノ者歸郷シタルトキ若クハ踪跡ヲ知得シタルトキ亦同シ但監視區外ニ戶籍ヲ轉換シタルトキハ新舊所管ノ監視區長ニ届出ヘシ同上勅令ヲ以テ(アルトキ)ノ下ニ(ハ親族)トアルヲ「アルトキ」及「以下」トモニ改メ末文ニ(但)以下三十一字ヲ加フ
- 家族ナキ者ニシテ前項ノ事故ヲ生シタルトキハ市町村長ヨリ監視區長ニ通知スヘシ

第十三條

歸休兵在郷中重罪輕罪^{刑金ヲ}ノ刑ニ處セラレタルトキハ刑名及刑期ヲ記シ其ノ戶主^{本八戶主ナリ}ヨリ七日以内ニ市町村長ヲ經テ監視區長ニ届出可シ^{同上勅令ヲ以テ(記シ)ノ下(其親族)トアルヲ(其ノ戶主)以下(其親族)トアルヲ追加ス}

家族ナキ者ニシテ前項ノ事故ヲ生シタルトキハ市町村長ヨリ監視區長ニ通知スヘシ

第十四條

歸休兵演習又ハ臨時兵員補缺ノ爲メ召集ノ命ヲ受ケタルトキ傷痍疾病其他ノ事故ニテ歸營シ難キトキハ傷痍疾病ノ者ハ陸軍醫官ノ診斷證書若クハ地方醫師ノ病況書其他ノ事故ハ證明書ヲ添ヘ市町村長ノ與書證印ヲ受ケ監視區長ニ届出可シ^{同上勅令ヲ以テ(演習又ハ臨時兵員補缺)ノ下(其親族)トアルヲ追加ス}

第十五條

本條例中兵ト稱スルハ徵兵令ニ依リ徵集シタル雜卒職工ヲ包含ス

第十六條

警備隊諸兵ニシテ定期退營シ又ハ輜重輸卒ニシテ退營シ尙ホ現役中ニ在ル者ハ總テ本條例ニ依ル

第十七條

第七條第一項及第二項第十條第一項及第十一條第二項第十二條第十三條ノ届出ヲ爲サ、ル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス^{同上勅令ヲ以テ(第七條)ノ下(第二項)ノ下(第十三條)ノ下(第八字ヲ加フ)}

第十八條

第七條第十條ノ通報人ニシテ正當ノ事由ナク召集ノ命ヲ通報セス若クハ其通報ヲ遲緩シタル者及第十一條第一項ニ違背シタル者ハ一日以上十日以下ノ勾留ニ處ス

第十九條

本條例中大隊區司令官トアルハ警備隊區ニ於テハ警備隊區司令官監視區長トアル

ルハ警備隊區副官監視區トアルハ警備隊區トス

第二十條

市制町村制ヲ實施セサル地方ニ在テ本條例中市町村長ノ職務ハ戶長ニ於テ之ヲ行フ可シ

第四百十四

憲兵卒概則^{明治十八年一月六日 陸軍省陸軍第一號府縣}

憲兵卒概則

第一條 憲兵卒ハ憲兵條例第十八條ニ基ツキ近衛及ヒ鎮臺ノ常備並ニ後備服役ノ兵卒^{二箇年以}

第二條

憲兵卒ハ其入隊ノ日ヨリ管區内ノ合宿所ニ居住セシム但憲兵隊長ハ大隊長ノ具申ニ依リ外宿ヲ許スコトヲ得

第三條

憲兵卒ハ憲兵トナリタル日ヨリ更ニ七箇年間現役ニ服セシメ其役終ルノ後ハ初メテ兵卒トナリタル日ヨリ算シ^{服役年數ノ計算ハ徵兵令第十二條ニ依ル以下ニ同シ}十二箇年ニ滿タサル者ハ舊兵科ニ復シ

第四條

現役滿期ノ後尙ホ現役ニ服センコトヲ請フ者ハ詮議ノ上再ヒ服役スルヲ許ス

第五條

前條再服役ハ二ヶ年ヲ以テ一期トス其再願者滿期ノ後尙ホ現役ニ服センコトヲ請フ者ハ更ニ詮議ノ上之ヲ許ス但再服役志願ノ者二ヶ年未滿ニシテ年齡定限ニ至ル者ハ其定限ニ至ル迄服役セシム

第六條 憲兵卒ノ品行不正又ハ任務不洽等ノ者アルトキハ憲兵隊ヲ除キ初メテ兵卒トナリタル日ヨリ算シ十二箇年ニ滿タサル者ハ舊兵科ニ復シ其服役年限ニ應シ鎮臺ノ常備或ハ後備兵役ニ服セシム

第七條 服役中ハ家事ノ故障ヲ以テ免除ヲ請フコトヲ許サス然レモ主若クハ父兄等死歿シ又ハ重罪ノ刑ニ處セラレ或ハ癩疾不具等トナリ本人ヲ要スルニアラサレハ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサルトキハ詮議ノ上免除スルコトアル可シ但服役中養子分家又ハ他家ヲ續人トナリタル者ハ本條ノ事故ヲ生スルモ免除ノ詮議ニ及ハス

第八條 前條ニ依リ免除シタルトキハ初メテ兵卒トナリタル日ヨリ算シ十二箇年ニ滿タサル者ハ舊兵科ニ復シ其服役年限ニ應シ近衛若クハ鎮臺ノ常備或ハ後備兵役ニ服セシム但常備兵役ニ服ス可キ者ノ内未タ定期ノ服役ヲ終ヘサル者ハ其年限内郷里ニ歸休セシム

第九條 第七條ノ事故ヲ生シ免除ヲ願フ者ハ本人親屬以上連署ノ願書ニ其事由ヲ詳記シ戸長並ニ郡區長及ヒ管轄廳ノ與書證印ニ尙ホ郡區及ヒ府(縣)駐在官ノ與書證印ヲ受ケ家族書(癩疾ノ者ハ外ニ地方醫師診斷書又重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ刑名宣告書)ヲ添ヘ憲兵本部ニ願出ツ可シ

第十條 憲兵卒ノ召募ハ陸軍卿其人員及ヒ檢査格例ヲ定メ近衛都督又ハ鎮臺司令官ニ牒告シ各軍管ニ檢査官ヲ派出シ格例ニ準據シテ檢査ヲ爲シ選舉セシムルヲ例トス故ニ憲兵本部長ハ之ヲ要スルニ當リ召募ノ事ヲ上申ス可シ但時宜ニ依リ近衛又ハ其鎮臺ヲ限リ召募セシムルヲアル可シ

第十一條 近衛都督ハ憲兵卒召募ノ牒告ヲ受レハ各隊長ニ達シ現役在營中ノ志願者ニシテ第一條ニ適當ノ者ヲ調査セシム

第十二條 隊長ハ憲兵卒調査ノ達アレハ該隊中ノ志願者ヲ調査シ第一條ニ適當ノ者ト認ムルトキハ其人名簿ヲ製シ近衛都督若クハ鎮臺司令官ニ呈ス可シ

第十三條 後備軍司令官ハ憲兵卒調査ノ達アレハ府縣駐在官ニ達シ豫備後備兵及ヒ歸休兵中ノ志願者ヲ調査セシム駐在官ハ其志願者ヲ調査シ第一條ニ適當ノ者ト認ムルトキハ其人名簿ヲ製シ後備軍司令官ニ呈ス可シ

第十四條 後備軍司令官ハ前條駐在官ヨリ出ス所ノ人名簿ヲ審査シ意見アレハ之ヲ取捨シ近衛鎮臺ノ豫備後備兵及ヒ歸休者ヲ區別シ更ニ志願者ノ人名簿ヲ製シ鎮臺司令官ニ呈ス可シ

第十五條 近衛都督鎮臺司令官ハ隊長又ハ後備軍司令官ヨリ憲兵卒志願者ノ人名簿ヲ出ストキハ點檢ノ上之ヲ憲兵本部ニ送付ス可シ

第十六條 憲兵本部長ハ憲兵卒志願者ノ人名簿ヲ受領スルトキハ之ヲ檢査官ニ付ス可シ檢査官ハ其人名簿ニ依リ檢査格例ニ準據シ檢査ヲ爲シ合格ノ者ハ其優等順序ニ從ヒ一連ノ番號ヲ附シ憲兵卒合格名簿ヲ製シ檢査ニ係ル一切ノ書類ト共ニ之ヲ憲兵本部長ニ呈ス可シ

第十七條 憲兵本部長ハ憲兵卒合格名簿ニ就キ優等ノ者ヨリ順次ニ定員ヲ選抜シ其採用ス可キ者ノ姓名及ヒ所屬隊號ヲ記載シ(陸軍卿ニ上申シ許可ヲ得)所管ニ照會シテ入隊セシ

山 同年通甲第三十號ヲ以テ(陸軍卿ニ
上申シ許可ヲ得)ノ十一字ヲ削除ス

第十八條 豫備兵後備兵及ヒ歸休兵中ノ志願者ニシテ検査ノ爲メ鎮臺或ハ營所等ニ往復ス
ル旅費ハ總テ自辨タルヘシ

第二節 陸軍豫備後備將校下士兵卒服役條例及後備役服役中
養子分家相續等届出方並豫備役兵卒豫備徵員滿期後名簿
保存方ノ件

○第四百十五

陸軍豫備後備將校服役條例(明治二十二年十二月二十八日(十二月三十日)公布)
勅令第四十三號

陸軍豫備後備將校服役條例

第一條 陸軍豫備後備將校ハ本籍所在師管ノ兵籍ニ編入シ師團長ノ管轄ニ屬ス

(北海道徵兵令未行地在籍ノ豫備後備將校ハ北海道ノ兵籍ニ編入シ屯田兵司令官ノ管轄ニ
屬ス)ニ三年八月勅令第百八十號ヲ以テ本項ヲ追加
シ二十七年十月勅令第百八十號ニ依リ削除ス

第二條 豫備後備將校ハ戰時若クハ事變ニ際シ之ヲ召集ス平常ニ在テハ勤務演習ノ爲メ召
集スルコトアル可シ

第三條 豫備後備將校ハ召集ニ應スルトキ及朝拜參賀公私ノ儀式祭典其他兼アル(宴會ニ
列スル時ニ限り)陸軍ノ制服ヲ著スルモノトス但文官ニ任セラレタル者ハ召集ノ場合ニ
除クノ外文官ノ制服ヲ著スルモ妨ケナシ(同上勅令ヲ以テ(宴會ニ列スル時ニ限り)ニ改ム)

第四條 豫備後備將校ニシテ文官ニ任セラレ餘人ヲ以テ代フ可カラサル職務ヲ奉スル者及
市町村長、助役、收入役ト爲ル者ハ勤務演習ノ爲メ召集スルコトナシ

法律ヲ以テ設立シタル議會ノ議員ト爲ル者其開會中亦同シ

餘人ヲ以テ代フ可カラサル職務ヲ奉スル者ハ豫備後備將校ヨリ内閣ニ具狀シ認可ヲ請ケ
本人所管ノ師團長ニ通達ス可シ其事故止ミタルトキ亦同シ

第五條 豫備後備將校ハ現役將校同等官ノ次席トス

第六條 豫備後備將校服役滿期ニ至リタルトキハ辭令ヲ用キシテ豫備ハ後備ニ後備ハ退
役ニ入ル者トス

豫備後備滿期後引續キ服役セント欲スルトキハ年數ヲ定メ陸軍大臣ニ申請ス可シ

第七條 豫備後備將校傷痍若クハ疾病ニ由リ永久服役ニ堪ヘスト思惟スルトキハ陸軍醫官
ノ診斷證書若クハ地方醫師ノ病況書ヲ添ヘ退役ヲ陸軍大臣ニ申請ス可シ

第八條 豫備後備將校ニシテ止ムヲ得サル事故アリ勤務演習召集ノ猶豫ヲ願フ者ハ其事實
ヲ證明シ師團長ノ許可ヲ請フ可シ

第九條 豫備後備將校ニシテ他ノ師管ニ寄留シ該師管ニ於テ勤務演習ヲ爲サント欲スル者
ハ所轄師團長ノ許可ヲ請フ可シ但許可ヲ受ケタルトキハ「豫備後備」編入年、現官ニ任セ
ラレタル年月及當テ勤務演習ヲ爲シタル年月ヲ記シ其ノ由ヲ「寄留地」師團長ニ届出可
シ(同上勅令ヲ以テ(タルトキハ)ノ下(豫
備後備ノ編入)以下四十字ヲ加フ)

第十條 現役ヨリ豫備若クハ後備ニ入ル將校歸郷シタルトキハ十四日以内ニ師團長ニ届出
可シ

從前ノ在職地若クハ其他ノ地ニ一箇月以上滞在若クハ寄留セント欲スルトキ若クハ歸郷
旅行日數一箇月以上ヲ要スルトキハ本籍市町村ニ於テ召集ノ命アルトキ之ヲ通報ス可キ

者ヲ定メ師團長ニ届出可シ但歸郷シタルトキハ前項ノ届出ヲ爲ス可シ
 前項ノ滞在地若クハ寄留地本籍地外ノ師管ニ係ルトキハ其ノ地ノ師團長ニモ届出ヘシ但
 本籍ニ復歸シ若クハ寄留替ヲ爲ストキ亦同シ同上勅令ヲ以テ本項ヲ加フ
 第十一條 豫備後備將校兵籍上異動ヲ生シタルトキハ十四日以内ニ師團長ニ届出可シ但師
 管外ニ戶籍ヲ轉換シタルトキハ新舊所管ノ師團長ニ届出可シ
 第十二條 豫備後備將校十四日以上ノ旅行或ハ寄留セントスルトキハ召集ノ命アルトキ之
 ヲ通報ス可キ者ヲ定メ師團長ニ届出可シ但歸郷シタルトキハ十四日以内ニ師團長ニ届出
 可シ
 前項ノ寄留地本籍地外ノ師管ニ係ルトキハ其ノ地ノ師團長ニモ届出ヘシ但本籍ニ復歸シ
 若クハ寄留替ヲ爲ストキ亦同シ同上勅令ヲ以テ本項ヲ加フ
 外國ニ旅行中又ハ寄留中ハ勤務演習ノ爲メ召集スルコトナシ
 外國ニ在ル者召集ノ通報ヲ受ケ又ハ其ノ他ノ手續ニ由リ充員若クハ後備軍召集ノ舉アル
 コトヲ確知シタルトキハ直ニ歸朝シ本籍地到着後二十四時以内ニ師團長ニ届出ヘシ同上
 第十三條 豫備後備將校ニシテ市町村長、助役、收入役ト爲リ又ハ法律ヲ以テ設立シタル議
 會ノ議員ト爲リタルトキ並ニ之ヲ罷メタルトキハ十四日以内ニ師團長ニ届出可シ
 第十四條 豫備後備將校ニシテ死亡又ハ失踪シタル者アルトキ及失踪中戶籍ヲ轉換シタル
 トキハ其ノ戶主本人戸主ナヨリ十四日以内ニ師團長ニ届出可シ失踪ノ者歸郷シタルトキ若
 クハ踪跡ヲ知得シタルトキ亦同シ但師管外ニ戶籍ヲ轉換シタルトキハ新舊所管ノ師團
 長長ニ届出ヘシ同上勅令ヲ以テ本項ヲ加フ
(アルトキ)以下勅令第三十二條ニ改メ(亦同シ)ノ下ニ加テ加フ

家族ナキ者ニシテ前項ノ事故ヲ生シタルトキハ市町村長ヨリ大隊區司令官ニ通知スヘシ
同上勅令ヲ以テ本項ヲ加フ
 第十五條 豫備後備將校重罪輕罪罰金ヲノ刑ニ處セラレタルトキハ刑名及刑期ヲ記シ「其ノ
 戶主本人戸主ナ」ヨリ十四日以内ニ師團長ニ届出可シ同上勅令ヲ以テ本項ヲ加フ
(其ノ戶主)及罰註共十三字ニ改ム
 家族ナキ者ニシテ前項ノ事故ヲ生シタルトキハ市町村長ヨリ大隊區司令官ニ通知スヘシ
同上勅令ヲ以テ本項ヲ加フ
 第十六條 豫備後備將官ヨリ陸軍大臣ニ差出ス願書ハ師團長ヲ經由シ佐官以下ノ將校ヨリ
 師團長ニ差出ス願書ハ大隊區司令官豫備後備區ニ在テハ及旅團長ヲ經由シ陸軍大臣ニ差出ス
 願書ハ大隊區司令官旅團長及師團長ヲ經由ス可シ
 第十七條 本條例ハ豫備後備ノ將校相當官ニ適用ス
 第十八條 本條例中師團長若クハ旅團長ノ職務ハ第七師管ニ在テハ師團旅團設置迄屯田兵
 司令官之ヲ行フ二十三年八月勅令第九十號ヲ以テ本條ヲ追加シ
 第十九條 第十條「第一項及第二項」第十一條第十二條「第一項及第四項」第十三條「第十四
 條第一項」ノ届出ヲ爲サ、ル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス二十三年八月
勅令第九十號
ヲ以テ(元第十八條)ヲ(元第十九條)ニ改メ二十三年十月勅令第八十號ヲ以テ(第十條)ノ下ニ(第
一項及第二項)(第十二條)ノ下ニ(第一項及第四項)(第十三條)ノ下ニ(第十四條第十五條)ヲ加フ
遅緩シタル者ハ一日以上十日以下ノ勾留ニ處ス二十三年八月勅令第九十號ヲ以テ(元
第二十條)第十條第十二條ノ通報人正當ノ事由ナクシテ召集ノ命ヲ通報セス若クハ其通報
ヲ遅緩シタル者ハ一日以上十日以下ノ勾留ニ處ス二十三年八月勅令第九十號ヲ以テ(元
附則二十八十月勅令第八
十號ヲ以テ本則ヲ追加ス

第二十一條 市制町村制ヲ實施セサル地方ニ在テ本條例中市町村長ノ職務ハ局長ニ於テ之ヲ行フ可シ

○第四百十六 豫備後備下士兵卒服役條例 明治二十二年十二月二十八日(十二月三十日公布)

朕陸軍豫備後備下士兵卒服役條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍豫備後備下士兵卒服役條例

第一條 陸軍豫備後備下士兵卒ハ本籍師管ノ兵籍ニ編入シ大隊區司令官ノ管轄ニ屬ス

(北海道徵兵令未行地在籍ノ豫備後備兵卒ハ屯田兵司令官ノ管轄ニ屬ス)二十三年八月勅令第九加シ二十七年十月勅令第九百八十一號ヲ以テ削除ス

第二條 豫備後備下士ハ戰時若クハ事變ニ際シ之ヲ召集ス平常ニ在テハ毎年一度簡閱點呼ヲ爲シ又勤務演習ノ爲メ召集スルコトアル可シ

第三條 豫備後備下士ニシテ文官ニ任セラル餘人ヲ以テ代フ可カラサル職務ヲ奉スル者及市町村長 助役 收入 役ト爲ル者ハ勤務演習簡閱點呼ノ爲メ召集スルコトナシ法律ヲ以テ設立シタル議會ノ議員ト爲ル者其開會中亦同シ餘人ヲ以テ代フ可カラサル職務ヲ奉スル者ハ豫メ當該官廳ヨリ内閣ニ具狀シ認可ヲ請ケ本人所管ノ大隊區司令官ニ通達ス可シ其事故止ミタルトキ亦同シ

第四條 豫備後備下士兵卒服役滿期ニ至リタルトキハ辭令ヲ用キシテ豫備ハ後備ニ後備ハ國民兵役ニ入ルモノトス但下士ニ在テ後備滿期ニ至リタルトキハ其官消滅スルモノトス

第五條 豫備後備下士及下士適任證書ヲ有スル者滿期後引續キ服役セント欲スルトキハ年數ヲ定メ市町村長 (東京京都大阪ノ三市ニ在テハ局長以下之ニ依リ) 及監視區長ヲ經テ大隊區司令官ニ願出可シ

第六條 豫備後備下士兵卒ニシテ止ムヲ得サル事故アリ勤務演習召集ノ猶豫若クハ簡閱點呼免除ヲ願ハント欲スルトキハ其願書ニ市町村長ノ與書證明ヲ受ケ監視區長ヲ經テ大隊區司令官ニ差出ス可シ

第七條 豫備後備下士兵卒ニシテ監視區外ニ寄留スル者ハ願ニ由リ其地ニ於テ簡閱點呼ヲ受クルコトヲ得

一箇年以上師管 歩兵ニ在テハ旅管 外ニ寄留スル者ハ願ニ由リ寄留地師管又ハ旅管ニ於テ勤務演習ヲ爲スコトヲ得

第二項ニ依リ願出ル者ハ本籍市町村長ノ與書證明ヲ受ケ監視區長ヲ經テ大隊區司令官ニ差出ス可シ但許可ヲ受ケタルトキハ寄留地到着後 寄留後出願ノ者ハ四日以内ニ其由ヲ寄留地ノ(一)豫備後備ノ編入年ヲ記シ其ノ由ヲ寄留地市町村長ヲ經テ同地ニ監視區長ニ届出可シ

同上勅令ヲ以テ(其由ヲ寄留地ノ)トアル 豫備後備)以下ニ十七字ニ改ム

第八條 現役ヨリ豫備役若クハ後備役ニ入ル下士兵卒ハ十四日以内ニ衛戍地又ハ從前ノ在職地ヲ出發シ一日行程十里計ヨリ勦ナカラサル日數間ニ歸郷シ著後十四日以内ニ市町村長ヲ經テ監視區長ニ届出可シ

衛戍地又ハ從前ノ在職地若クハ其他ノ地ニ十五日以上滞在若クハ寄留セント欲スルトキ

ハ本條ノ出發期日内ニ本籍市町村ニ於テ召集ノ命アルトキ之ヲ通報ス可キ者ヲ定メ市町村長ヲ經テ監視區長ニ届出可シ但歸郷シタルトキハ前項ノ届出ヲ爲ス可シ

前項ノ滞在在地若クハ寄留地本籍地外ノ大隊區ニ係ルトキハ其ノ他ノ市町村長ヲ經テ同地監視區長ニ届出ヘシ但本籍ニ復歸シ若クハ寄留替ヲ爲ストキ亦同同上勅令ヲ以テ

第九條 豫備後備下士兵卒傷疾若クハ疾病ニ由リ永久服役ニ堪ヘスト思惟スルトキハ陸軍醫官ノ診斷證書若クハ地方醫師ノ病況書ヲ添ヘ市町村長ヲ經テ監視區長ニ届出可シ

第十條 豫備後備下士兵卒兵籍上異動ヲ生シタルトキハ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ監視區長ニ届出可シ但監視區外ニ戶籍ヲ轉換シタルトキハ新舊所管ノ監視區長ニ届出可シ

第十一條 豫備後備下士兵卒十四日以上ノ旅行或ハ寄留セント欲スルトキハ召集ノ命アルトキ之ヲ通報ス可キ者ヲ定メ市町村長ヲ經テ監視區長ニ届出可シ但歸郷シタルトキハ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ監視區長ニ届出可シ

前項ノ寄留地本籍地外ノ大隊區ニ係ルトキハ寄留地市町村長ヲ經テ同地監視區長ニ届出ヘシ但本籍ニ復歸シ若クハ寄留替ヲ爲ストキ亦同同上勅令ヲ以テ

外國ニ旅行中又ハ寄留中ハ勤務演習簡閱點呼ノ爲メ召集スルコトナシ但對馬警備隊區ニ在テ朝鮮國釜山ニ旅行又ハ寄留スル者ハ此限ニアラス

外國ニ在ル者召集ノ通報ヲ受ケ又ハ其ノ他ノ手續ニ由リ充員若クハ後備軍召集ノ舉アルコトヲ確知シタルトキハ直ニ歸朝シ本籍地到着後二十四時以内ニ市町村長ヲ經テ監視區

長ニ届出ヘシ同上勅令ヲ以テ

第十二條 豫備後備下士兵卒ニシテ市町村長、助役、收入役、ト爲リ又ハ法律ヲ以テ設立シタル議會ノ議員ト爲リタルトキ並ニ之ヲ罷メタルトキハ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ監視區長ニ届出可シ

第十三條 豫備後備下士兵卒ニシテ死亡又ハ失踪シタル者(アルトキハ親族)「アルトキ及失踪中戶籍ヲ轉換シタルトキハ其ノ戶主本人戶主ナレバ家族」ヨリ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ監視區長ニ届出可シ失踪ノ者歸郷シタルトキ若クハ踪跡ヲ知得シタルトキ亦同シ「但監視區外ニ戶籍ヲ轉換シタルトキハ新舊所管ノ監視區長ニ届出可シ(アルトキ及)以下別對共三十二字ニ改メ(亦同シ)ノ下三十一字ヲ加フ

家族ナキ者ニシテ前項ノ事故ヲ生シタルトキハ市町村長ヨリ監視區長ニ通知スヘシ同上勅令ヲ以テ

第十四條 豫備後備下士兵卒重罪輕罪罰金ヲノ刑ニ處セラレタルトキハ刑名及刑期ヲ記シ(其親族)「其ノ戶主本人戶主ナレバ家族」ヨリ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ監視區長ニ届出可シ同上勅令ヲ以テ

家族ナキ者ニシテ前項ノ事故ヲ生シタルトキハ市町村長ヨリ監視區長ニ通知スヘシ同上勅令ヲ以テ

第十五條 本條例中兵卒ト稱スルハ雜卒職工ヲ包含ス

第十六條 第七條第三項但書第八條第一項及第二項第十條第十一條第一項及第四項第

十二條第十三條第十四條ノ届出ヲ爲サ、ル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處

ス同上勅令ヲ以テ(第八條)ノ下(第一項及第二項(第十一條)ノ下(第一項及第四項(第十二條)ノ下(第十三條第十四條)ヲ加フ

第十七條 第八條第十一條ノ通報人正當ノ事由ナクシテ召集ノ命ヲ通報セス若クハ其通報

ヲ遅緩シタル者ハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

第十八條 豫備後備下士兵卒正當ノ事由ナクシテ簡閱點呼ニ會セサル者ハ五十錢以上一圓

九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第十九條 警備隊區ニ於テハ本條例中大隊區司令官ノ職務ハ警備隊區司令官之ヲ行ヒ監視

區長ノ職務ハ警備隊區副官之ヲ行フ又大隊區監視區トアルハ同警備隊區トス同上勅令ヲ以テ

第二十條 屯田兵條例ニ依リ服役スル豫備後備下士兵卒ノ取扱ハ別ニ定ムル所ニ依ル同上勅令

第二十一條 第七師管ニ大隊區司令部設置迄ハ大隊區司令官ノ職務ハ屯田兵司令官之ヲ行

ヒ監視區長ノ職務ハ屯田兵副官之ヲ行フ同上勅令ヲ以テ

第二十二條 市制町村制ヲ實施セザル地方ニ在テ本條例中市町村長ノ職務ハ戶長ニ於テ之

ヲ行フ可シ同上勅令ヲ以テ元(第二十條)ヲ(第二十二條)ニ改ム

第四百十七條 後備軍服役中他家ノ養子トナリ分家相續等ニ取極メ者届出方ノ件明治

九月二十三日
陸軍省達第四百十六號

後備軍服役中他家ノ養子トナリ或ハ分家相續人等ニ取極度者ハ復習並非常ノ際無故障召集

ニ應スヘキ後證ヲ以テ其管轄廳ニ願出其廳ニ於テ篤ト事實ヲ取糺シ無相違者ハ聞届直ニ所

管領臺へ届出候様可致此旨相達候事

第四百十八條 陸軍後備役兵卒及陸海軍豫備徵員滿期ノトキ其名簿ヲ島廳郡衙ニ送付

シ島廳郡衙ニ於テ保存ノ件明治二十五年四月十五日
陸軍省訓令第六號北海道廳府縣(沖繩縣ヲ除ク)

陸軍後備役兵卒及陸海軍豫備徵員滿期ノトキハ其名簿後備役滿期ノヲ大隊區司令部ヨリ北海

道廳府縣廳ニ送付セシメ候條之ヲ國民兵名簿トシ年齡四十歳迄保存ス可シ但警備隊區ニ在

テ後備役滿期トナル者ノ戰時名簿ハ警備隊區司令部ヨリ島廳又ハ郡役所ニ送付セシメ候條

島廳又ハ郡役所ニ於テ保存セシムヘシ

同指令

陸軍豫備後備下士兵身上異動届等取扱ノ件明治二十五年四月二十一日
陸軍省訓令

郡役所ハ陸軍召集條例第四百十八條同第四百十九條ニ示シタル如ク陸軍豫備後備將校下士

兵員名簿ヲ備ヘ異動アルトキハ必ス筆削ヲ加フヘキ處明治二十二年陸軍豫備後備服役條例

並ニ歸休兵條例被相定身上異動等ハ總テ町村長ヲ經テ監視區長へ届出ツヘキ筈ニテ郡役所

ハ其異動ヲ知ルニ由ナク依テ右異動届ノ際ハ町村長ヨリ郡長へ報告ノ手續ニ致シ來候得共

動モスレハ報告疎漏ヲ生シ實際差聞モ有之候間今般陸軍召集旅費支出規程被相定就テハ郡

役所名簿ノ儀一層精確ヲ要シ候間前文條例中身上異動届等町村長ヲ經ヘキ分ハ總テ郡役所
ヲ經由候様致度於然ハ町村役場ハ勿論郡役所監視區共取扱上便宜ニシテ郡役所名簿確實ト
可相成候條御許可相成度

陸軍省指令 明治二十五年四月二十九日

伺ノ通

(附言) 歸休兵豫備後備將校下士兵卒服役者召集ニ關スル條規ハ陸軍召集條例等ニ於テ
詳記スル處アルヲ以テ參看スヘシ

第六款 屯田兵

第一節 屯田兵條例及召集規則

○第四百十九 屯田兵條例 明治二十三年八月二十九日(八月三十日公布)
勅令第八十一號

朕屯田兵條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

屯田兵條例

- 第一條 屯田兵ハ屯田歩兵屯田騎兵屯田砲兵屯田工兵ヲ以テ編成シ北海道樞要ノ地ニ配置
シテ其警備ニ充ツ
- 第二條 屯田兵ハ兵農相兼スルノ制トス平常ハ給與ノ兵屋ニ居住シ軍事上ノ訓練及開墾耕
稼ニ從事セシム
- 第三條 屯田兵ハ府縣ヨリ志願者ヲ召集シ本籍ヲ北海道ニ移シ家族ト共ニ移住セシム

稅ヲ免除ス

第四條 移住ノ年ヨリ三十年間ハ屯田兵ニ給與シタル土地ノ讓渡若ハ質入書入ハ無効トス
且強制執行ヲ之ニ施スコトヲ得ス

第五條 屯田兵ニ給與シタル土地ニシテ移住ノ年ヨリ三十箇年ヲ過キテ開墾セサル部分ハ
沒收ス

第六條 屯田兵ニシテ召集ノ條件ニ違背シ其ノ他正當ノ理由ナクシテ兵役ノ義務ヲ履行セ
サルトキハ其ノ給與シタル土地ヲ沒收ス

前項ニ依リ土地ヲ沒收スルトキハ給與ノ建物及其ノ土地ニ定著スル給與ノ物件ハ併セテ
之ヲ沒收シ其ノ他ノ建物及物件ハ期限ヲ定メテ之ヲ取除カシム若期限迄ニ取除カサルト
キハ競賣ニ附シ其ノ費用ヲ引去リ殘額ヲ交付ス 二十八年三月十九日法律第二十五號
ヲ以テ本項ヲ追加ス(四月一日公布)

第七條 從前北海道ニ移住シタル屯田兵ニ給與ノ土地本則第一條ノ坪數ニ及ハサルモノハ
之ニ滿ツル迄追給ス

其屯田兵村ニハ公有財産トシテ土地ヲ給ス其坪數及管理ノ方法等ハ本則第二條ノ例ニ依ル

第八條 從前北海道ニ移住シタル屯田兵及屯田兵村ニ給與ノ土地ハ服役中及其ノ滿期ノ年
ヨリ二十年間國稅及地方稅ヲ免除ス

○第四百二十一乙 官給ニ係ル屯田兵ノ建物及馬匹讓渡質入書入差押禁止ノ件 明治二十
八年三月

二十九日(四月一日公布)
法律第二十六號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル官給ニ係ル屯田兵ノ建物及馬匹ノ讓渡質入書入ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
官給ニ係ル屯田兵ノ建物及馬匹ハ之ヲ讓渡シ又ハ質入書入ト爲シ又ハ債務ノ抵償トシテ之ヲ差押フルコトヲ得ス但讓渡ノ許可ヲ得タルモノ及給與ノ年ヨリ三十箇年ヲ過キタル建物ハ此ノ限ニ在ラス

○第四百二十三丙

屯田兵下士卒ノ動員チ行フタル部隊ニ屬スル者給料給與ノ件明治八年四月五日(四月六日公布)
勅令第四十一號

朕扶助年限中ニ在ル屯田兵下士卒ニシテ動員チ行フタル部隊ニ屬スル者ノ給料給與ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
扶助年限中ニ在ル屯田兵下士卒動員チ行フタル部隊ニ屬スルトキハ扶助米鹽菜料ヲ受ケサル下士卒卒ト等シク給料ヲ給與ス此ノ場合ニ在テハ屯田兵移住給與規則ニ依リ給與スル扶助米鹽菜料ヲ控除ス

●伺指令

○屯田兵志願者本人及家族ノ養子ニ係ル者年限起算方ノ件明治十六年十一月十四日
大阪府開合
屯田兵志願者中本人又ハ家族以モノ養子ニシテ入籍後一箇年ヲ經サルモノハ召集規則第九條第二項及第五項ニ據リ採用不相成筈ニ候處其期限計算方同規則中何等ノ明文無之右ハ召集

集年ノ四月一日ヲ以テ分界トナスヘキ義ニ候哉

陸軍省軍務局第二軍事課回答 明治二十六年十一月十六日

御見解ノ通ト存候

第七款 國民軍條例及該規則ニ關スル件

第一節 國民軍條例

○第四百二十四甲

國民軍條例明治二十八年一月二十五日(同三十一日公布)
勅令第十三號

朕國民軍條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

國民軍條例

- 第一條 國民軍ハ陸軍ニ屬シ主トシテ衛戍若クハ邊境ノ警備ニ充ツ
- 第二條 國民軍ハ國民兵ヲ以テ之ヲ編制ス
- 第三條 國民兵ノ召集及解散ハ勅命ニ依リ師團長之ヲ行フ
- 戒嚴ヲ宣告シ得ルノ權アル司令官時機切迫シテ通信斷絶シ命ヲ請フノ途ナキトキハ直ニ召集チ行フコトヲ得
- 第四條 國民軍幹部ハ必要ニ應シ現役豫備後備ノ陸軍將校、同相當官、准士官、下士ヲ以テ充ツルノ外左ニ掲グル者ヨリ選抜シテ之ニ充ツ
- 一 退役ノ陸軍將校、同相當官、准士官ニシテ國民兵役ニ在ル者若クハ國民軍編入志願者

二 元陸軍下士、上等兵ニシテ國民兵役ニ在ル者若クハ國民軍編入志願ノ者
三 國民兵中材幹技能アル者

第五條 陸軍後備兵ニシテ後備軍召集ニ加ハズル者ハ特ニ國民軍ニ編入スルコトヲ得
第六條 第四條第二第三ニ該ル者ノ任官ハ陸軍武官官等表ニ依リ士官以上ハ師團長ノ具狀ニ由リ陸軍大臣之ヲ奏薦宣行シ其ノ他ハ師團長ノ認可ヲ得テ聯隊長同等以上ノ權アル長官之ヲ行フ

第三條第二項ニ依リ召集ヲ行ヒタル司令官ハ召集員ニ士官以上ノ勤務ヲ命スルコトヲ得其ノ勤務ヲ命セラレタル者ノ身分取扱ハ其官職ヲ有スル者ニ準ス

前項ノ司令官師團長ニアラサルトキハ準士官以下ノ任官ニ付師團長ト同一ノ權ヲ有ス

第七條 國民軍幹部ノ進級ハ振擢トス其ノ任官ハ前條ノ例ニ依ル

第八條 國民軍編制ノ爲メ召集セラレタル者及志願ニ由リ國民軍ニ編入セラレタル者ハ其ノ間現役ニ準ス

第九條 第四條第二第三ニ該リ任官シタル者解散ノトキハ準士官以上ハ之ヲ退役トシ下士ハ其ノ官ヲ免ス

第二節 國民軍召集並補充兵役國民兵役志願國民軍編入者ニ關スル諸則

○第四百二十四乙 國民兵召集規則明治二十八年二月一日 陸軍省令第二號

國民兵召集規則左ノ通定ム

國民兵召集規則

第一章 總則

第一條 國民兵召集ヲ別テ左ノ四種トス

第一種 陸軍ニ於テ軍事教育ヲ受ケタル者

第二種 滿二十一歳以上二十六歳未滿ニシテ陸軍豫備徵員タリシ者

第三種 滿二十六歳以上三十歳未滿ニシテ陸軍豫備徵員タリシ者

第四種 第三種ニ屬セサル者

第二條 各種ノ國民兵召集ハ各種同時若クハ各別之ヲ行ヒ又ハ一部ノ地方ヲ限り之ヲ行フコトヲ得

第三條 各種ノ國民兵ハ年齢若キ者ヨリ之ヲ召集スルヲ例トス

第四條 本規則ニ於テ郡ト稱スルハ市東京、京都、大阪ノ三市ニ在テハ區及島廳ヲ置キタル島嶼ヲ包含ス

第五條 本規則ニ於テ師團長ト稱スルハ近衛師團長ヲ包含セス又警備隊區ニ在テハ同司令官ハ大隊區司令官、島司ハ郡長、市長東京、京都、大阪ノ三市ニ在テハ區長ハ郡長及町村長、戶長ハ町村長ノ職務ヲ行フ

第六條 戒嚴ヲ宣告シ得ル權アル司令官國民兵ノ召集ヲ行フ場合ニ在テ師團長ニアラサル

司令官ハ其召集ニ關シ師團長ト同一ノ職權ヲ有ス

第二章 召集

第七條 師團長所要ノ人員ヲ定ムルニハ召集區域中召集ノ種類毎ニ其總員不應召集ノ見込數ヲ率トシ比例ヲ以テ之ヲ各大隊區ニ配賦ス但配賦人員ニハ檢査不合格見込人員凡十分ノ一ヲ加算スルモノトス

第八條 大隊區司令官前條ノ達ヲ受ケレハ各郡ニ配賦スヘキ人員召集地及應召集ノ一旦集合スヘキ地點並ニ其集合期日ヲ定メ之ヲ郡長ニ通達ス
大隊區司令官召集人員ヲ定ムルニハ大隊區中召集ノ種類毎ニ其總員ヲ率トシ比例ヲ以テ之ヲ各郡ニ配賦ス
大隊區司令官ハ各郡ノ應召集並ニ其召集地到着ノ時日ヲ豫定シ之ヲ旅團長ヲ經テ師團長ニ報告スヘシ

第九條 郡長ハ地方長官ヨリ國民兵召集令ヲ受領シ大隊區司令官ヨリ前條第一項ノ通達ヲ受ケタルトキハ召集令、召集スヘキ人員、召集地、集合地及集合期日ヲ町村長ニ通達シ且郡長召集人員ヲ定ムルニハ郡中召集ノ種類毎ニ其總員ヲ率トシ比例ヲ以テ之ヲ各町村ニ配賦ス

第十條 町村長前條ノ達ヲ受ケタルトキハ其配賦人員ニ應シ第一樣式ノ召集令傳達書ヲ作

リ之ヲ國民兵中召集スル種類ニ相當スル者ノ内年齢若キ者ヨリ逐次ニ之ヲ交付シ配賦人員ニ充タシメ然ル後集合地ニ至リ派遣ノ郡吏員ニ第二樣式ノ應召員連名簿二通ヲ附シテ應召員ヲ交付スヘシ此名簿ニハ其町村ニ在籍スル國民兵中召集令傳達書ヲ交付シタル總テノ人員ヲ掲ケ不應召員ハ其事由ヲ記シ第十二條ノ書類ヲ添フヘシ

第十一條 召集傳達書ヲ受ケタル國民兵ハ町村長ノ指示ニ從ヒ該傳達書ヲ携帶シ發途スヘシ
第十二條 正當ノ事故ニ因リ召集ニ應ジ難キ者ハ本人或ハ戸主若クハ其家族ヨリ二十四時間以内ニ町村長ニ届出ツヘシ但其事故傷殘疾病ニ係ルトキハ醫師ノ診斷書ヲ其他ハ憲兵或ハ警察官ノ承諾書ヲ添フヘシ
前項ニ違背シタル者ハ五十錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處シ又ハ五日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

第十三條 郡吏員集合地ニ至レハ町村長ヨリ受領セシ連名簿ヲ大隊區司令官或ハ大隊區司令官出張員ニ差出スヘシ

第十四條 應召員集合地ニ到着スレハ大隊區司令官或ハ大隊區司令官出張員身體檢査ヲ爲サシメ合格不合格ヲ召集令傳達書並ニ連名簿ニ記入シ連名簿一通ハ之ヲ郡吏員ニ傳達書ハ之ヲ本人ニ返附シ其合格者ハ郡吏員ヲシテ召集地ニ引率セシメ不合格者ハ直チニ歸郷セシムヘシ但身體檢査ハ最寄衛戍地ノ在職軍醫若クハ地方醫師ヲシテ之ヲ行ハシム

第十五條 郡吏官應召員ヲ引率シ召集地ニ到着シタルトキハ連名簿ト共ニ之ヲ國民兵受領員ニ交付スヘシ

第十六條 召集地ニ於ケル國民兵受領員ハ師團長適宜ニ之ヲ編成スヘシ

第十七條 召集令傳達書ハ應召員ヨリ編入セラレタル部隊ニ差出スモノトス

第十八條 陸軍召集條例第二章中本則ニ矛盾セサルモノハ之ヲ準用ス

第三章 旅費支給
第十九條 第一種國民兵居住地ヨリ集合地迄ノ旅費ハ陸軍召集旅費支出規程ニ依リ支給ス

但平時豫メ計畫シ置ク處ノ要員ニ加ヘサルモノニ係ル旅費ハ第二項ノ例ニ依ル

第二第三第四種國民兵居住地ヨリ集合地迄ノ旅費ハ當該監督部長陸軍大臣ノ命令及師團長ノ請求ニ依リ陸軍召集旅費支出規程ニ定ムル所ノ出納官吏ニ送付シ該出納官吏之ヲ應召員ニ交付ス

其ノ集合地ヨリ召集地迄ノ旅費及檢査不合格者ノ歸郷旅費ハ大隊區司令部ノ出納官吏ニ送付シ該出納官吏之ヲ本人ニ交付ス二十八十一月省令第二十八號ヲ以テ以上本條ヲ改正ス

第二十條 國民兵召集旅費ハ陸軍給與令第二十七表ノ額ニ依ル

第二十一條 志願ニ依リ國民軍ノ幹部ニ充テラレタル者ハ前條ノ例ニ依リ編成地ニ於テ旅費ヲ給ス

第四章 雜則

第二十二條 第六條ノ場合ニ在テ前諸條ノ規定ニ依リ難キトキハ司令官必要ニ應ジ適宜處置スルコトヲ得

第何種國民兵

何處(縣)何郡(區)市町村番地
族籍(主(妻長男、子弟等))

姓 名
何年何月生

右國民兵トシテ何召集地ニ召集ヲ命セラレ候條來ル何月何日午前何時何大隊區何地集合地ニ參集スヘシ

何年何月何日

何市町村長 姓 名 印

記

一金何圓何拾何錢

右居住地ヨリ集合地迄ノ旅費トシテ相渡候也

何年何月何日

何郡長(何收稅署長)(何郡書記) 姓 名 印

第二樣式 用紙美濃紙

何府(縣)何郡(區)市町村

第何種國民兵連名簿

住所 族 籍	召集ニ應セサル事由	合 格	不 合 格	備 要	姓 名
何村字何々番地士族 戸主(某長男、子弟等) 何村字何々番地平民 某二男坊	疾 病	合 格	不 合 格	元 豫 備 隊 員	何 某
〃	〃	合 格	不 合 格	元 陸 軍 歩 兵	何 某
〃	〃	合 格	不 合 格	元 警 備 隊 員	何 某
〃	〃	合 格	不 合 格	元 農 業 醫	何 某
〃	〃	合 格	不 合 格	元 禁 鋼	何 某

計何名

應召員

何名

不應召員

何名

前書ノ通相違無之候也

何年何月何日

何市町村長

姓

名 印

○第四百二十四丙

國民兵召集事務準則 明治二十八年三月七日
陸軍省訓令甲第一號師團司令部(近衛師團司令部ヲ除ク)北
海道廳府縣(沖繩縣ヲ除ク)

國民兵召集事務準則左ノ通改ム

國民兵召集事務準則

第一項 大隊區司令部、警備隊區司令部、島廳、郡市役所、東京、京都、大阪ノ三市ニ
町村役場ニ國民

兵召集名簿ヲ備置カシムヘシ

第二項 國民兵召集名簿ハ召集規則第一條ニ掲クル種類ニ分チ年齡ノ若キ者ヨリ順序ニ編
製スルモノトス但第一種召集名簿ハ將校、同相當官、准士官及元下士、兵卒職工並ニ各兵
科各部ニ區分ス

第三項 師團司令部ニ於テハ召集規則第一條ニ掲クル種類及各大隊區ニ分チタル國民兵召
集人員表ヲ備置キ大隊區司令部、警備隊區司令部ニハ郡市及島廳ヲ置キタル島嶼ニ分チ
タル國民兵召集人員表ヲ島廳、郡役所ニハ町村ニ分チタル國民兵召集人員表ヲ備置カシ
ムヘシ

第四項 前第二項ノ名簿及人員表ハ毎年四月一日ノ現在員ヲ豫定シ三月一日迄ニ整頓スル
モノトス

第五項 國民兵召集名簿及人員表整頓シタルトキハ人員表一通ヲ添ヘ師團司令部ヨリ陸軍
省ニ報告スヘシ

第六項 召集規則第一條第二種第三種ノ年齡計算ハ召集年ノ十二月ヲ以テス

第七項 六週間現役滿期ノ者ハ召集規則第一條第四種ニ屬スルモノトシ調査スヘシ

第八項 退役准士官以上及元下士以下ノ者ニシテ豫メ國民軍編入ノ許可ヲ受ケタルモノハ
召集規則第一條第一種ニ屬スルモノトシ調査スヘシ但其人員ハ召集規則第七條第八條第
九條配賦人員及其率トナスヘキ總員ニ加フルモノトス

第九項 國民軍編入志願者ニシテ退役准士官以上ノモノハ師團長ニ於テ之ヲ許可シ元下士以下ノモノニ在テハ大隊區司令官警備隊區司令官ヲシテ許可セシムヘシ

第十項 召集規則第一條第三種第四種ニ屬スル者ノ名簿二十歳以下ノハ豫メ備置クニ及ハス者ハ人員表共ハ豫メ備置クニ及ハス

第十一項 第一種第二種國民兵召集名簿及人員表整頓期限ハ明治二十八年ニ限り師團司令部ニ於テ適宜之ヲ定ムヘシ

第十二項 前諸項ニ據クル外國國民兵召集ニ關スル細則ハ師團司令部及地方廳ニ於テ規定スヘシ

○第四百二十四丁 補充兵國民兵在役者及志願國民軍編入中ノ者ニ適用スヘキ法律罰

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル補充兵役國民兵役ニ在ル者及國民軍編入志願者ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

補充兵役國民兵役ニ在ル者ニシテ召集中ノ者及志願ニ依リ國民軍ニ編入中ノ者ニハ豫備、後備ノ軍籍ニ在リテ召集中ノ者ニ適用スヘキ法律ノ規定ヲ適用ス其召集ニ關スル罰例ハ徵兵徵集ニ關スル例ニ依ル

○第四百二十四戊 陸軍補充兵召集規則 明治二十八年十一月二十八日 陸軍補充兵召集規則左ノ通定ム

陸軍補充兵召集規則 陸軍省令第二十七號 第一章 總則

第一條 戰時若クハ事變ニ際シ又ハ平時ニ於テ勤務演習簡閱點呼等ノ爲メ召集スルノ方法及其ノ解散ノ取扱ハ本則中特ニ規定セルモノハ外豫備後備兵召集及解散ノ例ニ依ル

第二條 教育ノ爲メ第一補充兵ヲ召集スルハ其ノ服役ノ初年ニ於テスルヲ例トス

第三條 本則ニ據リ召集ニ應スル者ノ旅費ハ陸軍召集旅費支出規程第八條ニ定ムル出納官吏ニ就キ受領スヘシ

第二章 戰時若クハ事變ニ於ケル召集 第四條 第一補充兵召集令狀ヲ領收シタルトキハ二十四時以内ニ旅費ヲ受領シ其ノ時間内ニ出發シ召集地參著ノ上ハ大隊區司令官警備隊區ニ在テハ警備隊區司令官、以下同シ又ハ同司令部出張員ニ届出ツ

ヘシ但正當ノ事故ニテ二十四時ヲ經過シタルトキハ其事由ヲ届出ツヘシ 召集途中一日ノ行程ハ汽軍路ハ二百哩海路ハ百海里陸路ハ十二里計ヲ以テ最下限トス

第五條 近衛師團ノ召集ニ應スヘキ第一補充兵召集令狀ヲ領收シタルトキハ旅費ヲ受領シ指定ノ期日ニ近衛兵集合地ニ參著シ大隊區司令官又ハ同司令部出張員ニ届出ツヘシ

第六條 第二補充兵ヲ召集スルニハ都吏員ヲシテ召集地又ハ近衛兵集合地迄引率セシムルモノトス

第七條 第二補充兵召集令狀ヲ領收シタルトキハ旅費ヲ受領シ指定ノ期日ニ其ノ場所ニ參著シ前條ノ引率員ニ届出ツヘシ

第八條 補充兵疾病其ノ他ノ事故ニ由リ召集ニ應シ難キトキハ本人或ハ戶主若クハ其ノ家族ヨリ二十四時間以内ニ町村長、奥書證印ヲ以テ監視區長ニ届出ツヘシ但疾病傷痕、者

ハ醫師ノ診斷書其ノ他ノ者ハ憲兵或ハ警察官ノ承認書ヲ添フヘシ

第九條 召集ニ應スヘキ補充兵前條ノ事故止ミタルトキハ二十四時間以内ニ本人或ハ戶主若シハ其ノ家族ヨリ町村長ヲ經テ監視區長ニ届出ツヘシ

第十條 第八條第九條ニ違背シタル者ハ五十錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處シ又ハ五日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

第三章 平時ニ於ケル召集

第十一條 教育ノ爲メ第一補充兵ヲ召集スルニハ先ツ大隊區司令部所在地若クハ便宜ノ地ニ集合シ大隊區司令部員若クハ其ノ他ノ下士兵卒ヲシテ召集地ニ引率セシムルモノトス但召集員五人未滿ナルトキハ單行セシム

第十二條 教育ノ爲メ第一補充兵ヲ召集スルトキハ師團長近衛師團長ヲ除ク其ノ召集期日及日數ヲ地方長官ニ通知シ大隊區司令官ニ達スヘシ

第十三條 地方長官前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ之ヲ管内ニ告示スヘシ

第十四條 大隊區司令官第十二條ノ達ヲ受ケタルトキハ集合地及集合期日ヲ東京、大阪、ノ三市ニ在町村長、戶長ヲ經テ之ヲ本人ニ達スヘシ

第十五條 第一補充兵教育ノ爲メ召集ノ達ヲ受ケタルトキハ旅費ヲ受領シ指定ノ期日ニ其ノ場所ニ參著シ第十一條ノ引率員ニ届出ツヘシ

第十六條 第一補充兵演習令狀ヲ領收シタルトキハ旅費ヲ受領シ其ノ令狀ニ記載スル期日ニ其ノ場所ニ參著シ大隊區司令官又ハ同司令部出張員ニ届出ツヘシ

第十七條 第一補充兵點呼令狀ヲ領收シタルトキハ其ノ令狀ニ記載スル期日ニ其ノ場所ニ參著シ監視區長ニ届出ツヘシ但點呼ノ場所ニ往復ノ旅費ハ自辨トス

第十八條 第一補充兵疾病其ノ他ノ事故ニ由リ召集ニ應シ難キトキハ本人或ハ戶主若クハ其ノ家族ヨリ召集期日迄ニ點呼ノトキハ其當日第八條ノ例ニ依リ監視區長ニ届出ツヘシ

第十九條 第一補充兵疾病其ノ他ノ事故ニ由リ第十四條ノ召集ニ應セサル者ハ翌年之ヲ召集ス

第四章 雜則

第二十條 第二補充兵召集令狀裏面ノ記載方ハ陸軍召集條例第一樣式其ノ二裏面ノ例ニ依ル

第二十一條 戰時若クハ事變ニ際シ近衛師團ニ召集スヘキ補充兵ハ町村長豫メ之ヲ本人ニ告知スヘシ

第二十二條 本則施行ニ關スル細則ハ師團司令部及地方廳ニ於テ規定スヘシ

第二十三條 明治二十八年徵募ノ第一補充兵ニ限リ第二條ヲ適用セス

第八款 陸軍豫備後備役召集
第一節 陸軍召集條例及召集不應者届出令狀返付方並寄留者召集方等ノ件

○第四百二十四條 陸軍召集條例明治十九年十月九日 陸軍省令甲第三十九號

陸軍召集條例別冊ノ通定

但施行期日ハ追テ違スヘシ

(別冊)

陸軍召集條例

第一章 總則

第一條 陸軍召集條例ハ平戰兩時ノ緩急ニ應シ歸休兵並ニ豫備役後備軍(艦員)兵員ヲ召集スルノ手續ヲ示スモノナリ

第二條 凡ソ召集ハ之ヲ別チテ左ノ六種トス

- 一 充員召集
- 二 後備軍召集
- 三 近衛充員召集
- 四 近衛後備軍召集
- 五 演習召集
- 六 點呼召集

第三條 充員召集ハ戰時若クハ事變ノ緩急ニ應シ一部若クハ全國ノ歸休兵並ニ豫備役(艦員)兵員ヲ召集スルモノトス

第四條 充員召集ヲ別チテ二種トス戰時若クハ時變ニ際シ團隊ヲ戰時定員ニ充足シ補充隊

其専門ノ勤務ニ服セシム

第六條 勤務演習ノ終ニ於テ豫備將校試験ヲ爲シ及第ノ者ヲ士官ニ選舉シ及補任ノコトヲ上申スルハ陸軍各兵科現役士官補充條例第二十九條乃至第三十一條ニ依ル但豫備將校試験ノ方法ハ近衛都督又ハ師團長之ヲ定ム

志願軍醫志願藥劑生ハ實地ノ試験ヲ爲シ其及第者衛生部士官ニ選舉シ及補任ノコトヲ上申スルハ陸軍衛生部現役士官補充條例第十一條乃至第十四條ニ依ル但選舉會議ニ於テ多數ノ否認者アルトキハ其報告書ヲ陸軍省醫務局長ニ上申シ醫務局長ハ其理由ヲ具ヘ陸軍大臣ニ進達シ大臣ニ於テ見習士官ノ分限ヲ除クコトヲ裁定ス其裁定ヲ受ケタル者ハ一等看護長又ハ一等調劑手ニ任シ豫備役ニ編入ス

志願軍吏生及志願獸醫生ハ實地ノ試験ヲ爲シ其及第者ヲ軍吏部又ハ獸醫部士官ニ選舉シ及補任ノコトヲ上申スルハ別ニ定ムル所ニ依ル

第七條 第六條ノ試験ニ落第シ仍ホ豫備士官タラントヲ冀望スル者及事故アリテ召集ニ應シ得サリシ者ハ次年ノ勤務演習ニ召集ス
(以下略)

第三節 召集旅費ニ關スル件

○第四百三十四 陸軍召集旅費支出規程明治二十五年三月二十九日 陸軍省令第五號

陸軍召集旅費支出規程左ノ通相定メ本年五月一日ヨリ施行ス

但明治二十三年二月陸軍省令第五號同年四月陸軍省令第十一號ノ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

陸軍召集旅費支出規程

第一條 陸軍臨時召集旅費ハ島司郡長北海省嶺南區ハ、市長ハ同長以下同シニ於テ毎年(五月)一日十二月一日ニ現在ス可キ其管内在郷ノ陸軍軍人及豫備徵員ヲ豫定シ之ニ要スル召集旅費ヲ計算シ臨時召集旅費概算表ヲ作り第一期(三月)十五日第二期(十月)十五日迄ニ當該大隊區司令部又ハ警備隊區司令部ニ發送ス可シ(二十八年十一月省令第二十九號ヲ以テ(五月)ヲ充員及第一團(四月)ニ(三月)ヲ(二月)ニ(及豫備徵員)ヲ(補民兵)ニ改ム

市長ハ前項概算表ノ外同時ニ臨時召集旅費入別簿附錄第一樣式ヲ作り之ヲ第八條ノ直稅分署長若シハ間稅分署長ニ送付ス可シ

第二條 大隊區司令部及警備隊區司令部ハ前條ノ概算表ヲ師團司令部ニ差出シ師團司令部ニ於テハ其金額ヲ調査シ之ヲ一表附錄第二樣式ニ取纏メ毎年(三月三十一日)及十月三十一日迄ニ陸軍省ニ發送ス可シ同上省令ヲ以テ(三月三十一日)ヲ(二月二十八日)ニ改ム

第三條 陸軍省ハ毎年二回(四月)陸軍臨時召集旅費概算表ヲ作り大藏省ニ送附シ又當該仕拂命令官ニ下付ス(三月)ニ改ム

第一期概算表ハ(五月)一日ヨリ十一月三十日迄第二期概算表ハ十二月一日ヨリ翌年(四月二十日)迄有效ノモノトス同上(五月)ヲ(四月)ニ(四月)ニ(三月三十一日)ニ改ム

第四條 陸軍省ハ平時ニ於テ豫メ臨時召集旅費ノ豫算要求書及仕拂豫算計算書ヲ調製シ置キ戰時若シハ事變ニ際シ大藏省ヲ經テ要求書ノ裁定ヲ得計算書ハ同省ノ檢視ヲ受クルモ

ノトス

第五條 前條仕拂豫算計算書ノ檢視ヲ受ケタルトキハ即時電信其他ノ方法ヲ以テ師團司令部及當該仕拂命令官ニ令達ス

第六條 師團司令部ハ前條ノ令達ヲ受ケタルトキハ臨時召集旅費概算表ノ金額ヲ目的トシ普通ノ手續ヲ以テ現金前渡ヲ受ケ可キ官吏ハ旅費金額送付方ヲ當該仕拂命令官ニ請求ス可シ

第七條 仕拂命令官ハ前條ノ請求ヲ調査シ直ニ現金前渡ノ仕拂命令ヲ發行ス可シ

第八條 現金前渡ヲ受ケ可キ官吏ハ島司郡長トシ又市ニ在テハ其市所在ノ直稅分署長若クハ間稅分署長トス但島廳若クハ郡役所ニ遠隔セシ町村ニシテ特ニ場所ヲ定メ支給ヲ要スルモノハ島廳書前郡書記トス

島司郡長若クハ書記及直間稅分署長前條ノ現金前渡ヲ受ケタルトキハ出納官吏ノ責任ヲ以テ其管内召集ニ應ス可キ在郷軍人並ニ豫備徵員ニ對シ各自ニ召集地ニ到ル定則ノ旅費額ヲ支給ス可シ但補充兵及第一國民兵ノ旅費額ハ豫備後備ノ軍人ニ同シ同上省令ヲ以テ(補充兵及第一國民兵)ニ改ム但特チ加フ

第一項直稅分署長若クハ間稅分署長ハ地方長官之ヲ定メ島廳郡役所ノ外特ニ支給ノ場所ヲ設クルトキ必要ト認ムルトキハ師團長ハ地方長官ト協議ノ上之ヲ定メ地方長官ヨリ其郡市又ハ島嶼ニ告示ス可シ
臨時召集旅費支給ニ係ル事務ハ最モ迅速ヲ要ス故ニ出納官吏タル者現金前渡ノ命令ヲ受ケタルトキハ晝夜ヲ分タス之ヲ處辨ス可シ

第九條 島司郡長若クハ書記及直間稅分署長ハ召集終レハ會計検査院ニ提出ス可キ仕拂計
 算書及證據書類ヲ師團司令部ヲ經テ仕拂命令官ニ送付ス可シ
 其仕拂殘金ハ仕拂命令官ノ返納告知書ヲ得テ金庫ニ納付ス可シ
 其戻入ヲ要求スルハ師團司令部ヨリ陸軍省ニ具申スルモノトス
 第十條 出納官吏タル島司郡長若クハ書記及直間稅分署長ノ官氏名ハ北海道廳府縣廳ヨリ
 師團司令部ニ通知シ同司令部ヨリハ當該仕拂命令官ニ通知シ又陸軍省ニ報告ス可シ
 第十一條 演習召集旅費ハ第六條乃至第十條ニ準據シ取扱フ可シ但島司郡長若クハ書記及
 直間稅分署長ハ送附ス可キ金額ハ師團司令部ニ於テ算定シ普通ノ手續ヲ以テ仕拂命令官
 ニ請求スルモノトス
 其召集ニ應シタル者歸郷ノ旅費ハ各隊ニ於テ支給ス可シ
 第十二條 本規程中師團長師團司令部ハ第七師管ニ在テハ屯田兵司令官、屯田兵司令部ニ
 適用ス同上省令ヲ以テ
 本條ヲ追加ス

附錄第一樣幣

住	所	召	集	地	召集地ニ到ル里程	旅	費	金	氏	名

島司郡市長ニ於テハ此様式ニ準シ調製ス可シ

(附言)

同上省令ヲ以テ本表中(近衛團充員召集)ノ下ニ

第一國民兵召集
人員一旅費

ノ區畫ヲ加

○第四百二十五

陸軍豫備役後備將校下士卒並歸休兵召集旅費支給概則 明治三十一年七月十六日 陸軍省令第十五號

陸軍豫備役後備軍(驅員)兵員並歸休兵召集旅費支給概則左ノ通定ム

第一條 豫備役後備軍(驅員)將校ニ在リテハ旅中諸費トシテ一日陸路十里詰ノ割ヲ以テ日
 當金壹圓五拾錢ヲ支給ス但近方三里未滿ハ之ヲ給セス三里以上六里未滿ハ日當ノ半額六
 里以上ハ全額ヲ給ス又十里以上ノ端里數一里未滿ハ給セス二里以上六里未滿ハ半額六里
 以上ハ全額ヲ給ス

第二條 歸休兵並豫備役後備軍(驅員)下士及兵員ニ在リテハ旅中諸費トシテ一日陸路十里
 詰ノ割ヲ以テ日當金四拾錢ヲ支給ス但近方及端里數ノ給與方ハ前條ニ同シ

第三條 召集地到着ノ際官ノ都心ニ依リ各自ニ宿泊セシムルトキハ其到着翌日ヨリ宿泊ノ
 數ニ應ジ(驅員)將校ハ滞在日當金五拾錢(驅員)下士及兵員ハ日當金貳拾八錢ヲ支給ス但
 近方三里未滿ノ者及三里以上六里未滿ノ者並十里以上端里數六里未滿ノ者ニ限リ到着當
 日ハ(驅員)兵員共旅中日當ノ半額ヲ給ス又下士以下ニシテ翌日午後ニ至リ入營セシムル
 トキハ晝食料トシテ金八錢ヲ支給ス

第四條 旅中川留雪支ノ爲メ他道ヲ迂回シ若シクハ滞在シ又ハ病氣船待等ノ爲メ滞在シタ
 ルトキハ其事由ヲ詳具セシメ其判然タルモノハ右迂路ニ係ル延申里程ヲ通算シテ日當ヲ

給シ或ハ宿泊ノ數ニ應シテ滞在日當ヲ支給ス但下士以下ニ在リテハ郡區長若クハ戶長ノ證明書病氣ハ醫師ノ診斷書ヲ要ス

第五條 陸路計算法ハ概テ郵便線路圖ニ依リ算出スルモノトス但島嶼居住ノ者船賃ハ時宜ニ依リ實費支給スルコトアルヘシ

第六條 此概則ハ明治二十一年十一月十日ヨリ施行シ同日ヨリ明治二十年選甲第三十二號陸軍省達ハ廢止ス

(附言) 豫備役後備軍艦員ノ名稱ハ消滅シ從前ノ豫備役後備軍(艦員)ハ豫備後備將校下士ト稱ス(符號第四百二十)ノ附言ヲ參看スヘシ

○第四百二十六 陸軍召集條例中旅費金受領方及旅費金受領後發程時間ニ關スル件
明治二十五年三月二十九日 陸軍省令第六號

陸軍召集條例中召集旅費ニ關スル件左ノ通定ム
一條例第三十二條第五十三條第六十三條第八十四條ノ召集令狀若クハ第百條第百二十三條ノ演習令狀ヲ領收シタル在郷陸軍々人ハ陸軍召集旅費支出規程第八條ノ官吏ニ就キ其旅費金ヲ受領ス可シ但特ニ支給ノ場所ヲ設クル地ト雖モ疾病其他ノ事故ニ由リ期ニ後レ召集ニ應スル者ハ島嶼郡役所ニ就キ其旅費ヲ受領ス可シ

一條例第三十二條第五十三條ノ出發時限ハ召集令狀領收後二十四時以內 旅費金受領ノ爲メニ 者ハ旅費金 受領後即時 トス

但一日行程汽車路二百哩海路百海里陸路十二里計ヲ以テ最下限トス 二十六年四月省令 第六號ヲ以テ但書 加ス

一 本令ハ明治二十五年五月一日ヨリ施行ス

○第四百二十七 演習召集旅費金支給日時定メ方ノ件 明治二十五年三月二十九日 陸軍省訓令甲第三號 北海道廳府縣 陸軍召集旅費支出規程第十一條ニ依リ演習召集ノ旅費金ヲ支給スル日時ハ島司郡長 北海道廳 長ヨリ之ヲ各自ニ達セシメ又市ニ在テハ市長 東京都大阪 三市ハ區長ヨリ直間稅分署長ヘ協議ノ上之ヲ 定メ各自ニ達セシム可シ

○第四百二十七乙 在郷ノ下士卒及兵役義務者並引率ノ市町村吏員ニ支給スヘキ召集 旅費支出方ノ件 明治二十七年九月十二日(同十三日公布) 法律第二十三號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル陸軍召集旅費支出ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム 戰時若ハ事變ニ際シ召集スル在郷陸軍下士卒及兵役義務アル者並ニ之ヲ引率スヘキ市町村 吏員ニ支給スヘキ旅費ニ付テハ各市町村長ニ現金仕拂ヲ爲サシムル爲現金前渡ノ仕拂命令 ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ市町村長ニ對シ會計法第九章ニ定ムル出納官吏ニ關スル規定ヲ適用ス ●會計法 明治二十二年二月十一日 法律第四號

第九章 出納官吏 第二十六條 政府ニ屬スル現金若ハ物品ノ出納ヲ掌ル所ノ官吏ハ其ノ現金若ハ物品ニ付 一切ノ責任ヲ負ヒ會計検査院ノ検査判決ヲ受クヘシ

第二十七條 前條ノ官吏水火盜難又ハ其ノ他ノ事故ニ由リ其保管スル所ノ現金若ハ物品
ヲ紛失毀損ニタル場合ニ於テハ其ノ保管上避ケ得ヘカテサリシ事實ヲ會計検査院ニ證
明シ責任解除ノ判決ヲ受クルニ非サレハ其ノ負擔ノ責ヲ免ルコトヲ得ス

第二十八條 現金又ハ物品ノ出納ヲ掌ルニ付身元保證金ヲ納メシムルコトヲ要スルモノ
ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第二十九條 仕拂命令ノ職務ハ現金出納ノ義務ト相兼ヌルコトヲ得ス

●同指令

●召集旅費支出規程ノ出納官吏不在等ノトキ臨時代理ノ件明治二十五年四月十九日
神奈川縣上甲
陸軍召集旅費支出規程ニ依リ郡長郡書記及直間稅分署長ヲ以テ出納官吏タルノ責任ヲ負ハ
シメ其官氏名ヲ師團司令部ニ通報スヘキ筈ナル處該官吏ノ如キハ毎ニ本務上ニ關シ各所出
張不在ノコト往々之アリ若シ其場合ニ際シ召集ノ發令之アリ本人歸應ヲ待ツノ猶豫ナキト
キハ他ノ官吏ヲシテ臨時代理セシムル様致シ度實際差支ノ場合モ之アルヘキニ付キ豫テ聞
届相成リタシ

陸軍省指令 明治二十五年四月三十日

上申ノ趣代理者ノ官氏名ヲ師團司令部ニ通報スヘシ其代理ヲ解キタルトキ亦同シ
●陸軍召集旅費支出規程ノ件明治二十五年四月十九日
青森縣照會
今般陸軍召集旅費支出規程定メラレタルニ付キ疑義ノ廉左ニ

第一項 郡書記ヲ以テ出納官吏トスル場合ニ於テ金員ノ送付ヲ受ルトキニ當リ公務出張不

一金何百何拾圓也

右ハ今般結婚奉願候ニ付御許可ノ上ハ家計保證金トシテ可差出候也

年號月日

官 姓 名 印

○第四百四十三 現役輜重輸卒入營前結婚差許ノ件明治十九年七月三十日
陸軍省令甲第三十五號
現役輜重輸卒入營期日即四月二十日後ハ結婚不相成儀ニ候處自今諸兵同様入營前ハ結婚ス
ルヲ得

但本年省令甲第九號ニ據リ郷里ニ於テ服役ノ者ハ讀法式施行前本文ニ同シ(甲第九號
ハ略記ス)

第十一款 陸軍教導團生徒召募及陸軍衛生部士官候補生並醫
科大學依託生徒採用規則

○第四百四十四 陸軍教導團生徒召募規則明治二十七年十二月十一日
陸軍省令第二十五號

陸軍教導團生徒召募規則

第一條 陸軍教導團生徒ハ年齡滿十八年以上二十五年以下ニシテ步兵、騎兵、野戰砲兵、工
兵輜重兵科ノ下志願者中身體検査學科試驗ノ成績ニ依リ所要人員ヲ採用ス

其年齡ヲ算スルハ召募ニ應スヘキ年ノ四月ヲ以テス

第二條 左ニ掲ケル者ハ志願者タルヲ得ズ但入團願書差出ノ後本條ノ事故ヲ生スル者アル
トキハ島司郡市長東京府大坂ノ三市ニ在
テハ區長以下之ニ依リハ速ニ大隊區司令官又ハ警備隊區司令官ニ報告シ同

官ハ之ヲ教導團長ニ報告スヘシ

- 一 陸海軍現役、豫備役、後備役ニ在ル者
 - 二 妻アル者
 - 三 復権ヲ得サル家資分散者、破産者及身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者
 - 四 禁錮ノ刑ニ處セラレタル者及賭博犯ノ處分ヲ受ケタル者
 - 五 前諸項ノ外素行修マラサル者
- 第三條 砲兵、工兵科ハ身長五尺二寸以上歩兵、騎兵、輜重兵科ハ五尺以上ニシテ體質強壯ナルヲ要ス

第四條 學科試驗科目左ノ如シ

- 一 讀書 日本外史又ハ日本政記ノ類(通讀)
 - 二 作文 記事文(漢字交リ)及通俗文
但作文ヲ以テ作字ノ巧拙ヲ試驗ス
 - 三 數學 整數四則、分數、比例、開平、開立
試驗ハ一科毎ニ若干ノ點數ヲ與ヘ其總點數ヲ比較シテ優劣ヲ定ム但一科ニ落第スル者ハ假令總點數ニ於テ優等ナリト雖トモ採用ゼス
- 第五條 志願者ハ第一書式ノ願書ニ第二第三書式ノ履歷書及戶籍寫各副本ヲ添ヘ召募ニ應スヘキ前年ノ九月二十日迄ニ町村長ノ與書證印ヲ受ケ島司郡長ニ差出シ市ニ在テハ直

アルモ日當ヲ増給スルノ限リニアラス

第十四條 入團ヲ命セラレタル者居住地出發前疾病其他ノ事故ヲ生シ入團延期ヲ出願セントスルトキハ入團期日ヨリ何日間猶豫ノ旨疾病ハ醫師ノ診斷書其他ハ市町村長ノ證明書ヲ添付スヘシ記載シ其願書ヲ當該大隊區司令官又ハ警備隊區司令部ヲ經テ教導團長ニ差出スヘシ又入團途中ニ於テ同一ノ事故ヲ生シ期日ニ著團ニ難キトキハ電報若クハ郵便ヲ以テ教導團長ニ届出事故止ミ著團ノ節疾病ハ醫師ノ診斷書其他ハ其地ノ市町村長若クハ船長等ノ證明書ヲ以テ更ニ届出ヘシ

前項ニ依リ入團期日後十日以内ニ到著セサル者ハ除名スハシ

第十五條 入團ノ違ヲ受ケタル者故ナク出發ヲ遲延シ若クハ無届ニテ期日ニ到著セス或ハ自己ノ不注意ヨリシテ期日ニ後レタル者ハ採用セサルノミナラス支給セシ旅費ヲ返納セシム

第十六條 採用スヘキ者著團スルトキハ再ヒ身體検査ヲ行フヘシ此検査ニ於テ不合格ノ者ハ歸郷セシメ其旨ヲ教導團ヨリ當該大隊區司令部又ハ警備隊區司令部ニ通報ス但自己ノ不攝生等ヨリ發病スルモノト認ムルトキハ之ニ歸郷旅費ヲ給セサルノミナラス入團旅費ヲ返納セシムルトス

第十七條 生徒入團ノ上ハ教導團條例第十五條ニ據リ左ノ誓約ヲ爲サシム

誓文

今般陸軍出身志願ニ付教導團生徒奉願候處御許容相成候ニ付テハ自今御規則嚴重ニ相
守誓テ陸軍ニ從事可仕且御定規ノ服役年間ハ假令疾病ト雖トモ醫官ノ診斷ニ依ラズシ
テ免役ヲ請願致候等ノ儀毛頭仕間敷候仍テ誓文如件

年號 月 日

附則

姓 名 印

第十八條 市制町村制ヲ施行セサル地方ニ在テハ本規則中市町村長ノ職務ハ區戶長ニ於テ
之ヲ行フヘシ

第十九條 沖繩縣下ノ志願者ニ關シ大隊區司令官ノ取扱ニ係ルモノハ當分ノ内沖繩分遣步
兵隊長之ヲ取扱フヘシ

第二十條 明治二十八年召募ノ者ニ限リ第五條ノ願書差出期限十一月十五日第十一條ノ書
類送付期限ヲ二月十五日迄トシ第五條ノ人名通報期限ハ適宜トス但第五條ノ願書其他ノ
書類ハ島司郡市長ヨリ一月二十五日迄ニ大隊區司令官又ハ警備隊區司令官ニ送付スヘシ
第一號書式 用紙美濃紙

教導團入學願

某儀

陸軍出身志願ニ付教導團生徒トシテ入學仕度候間御試驗ノ上御採用被下度入團ノ上
ハ御規則嚴重ニ相守リ誓テ陸軍ニ從事可仕本人身上ノ儀ハ何事ニ依ラス身元保證人

ニ市長ニ差出スヘシ但父兄親族等一家ノ戶主ニシテ身元體ナレニ名ノ保證人ヲ要ス
島司郡市長ハ前項ノ願書ニ與書證印ノ上第四書式ノ志願者連名簿及各自ノ里程調書願書ニ
車路海陸路ノ區別ヲナシ若シ二道
アルモノハ二道トモ取調ヲ要スヲ添ヘ之ヲ大隊區司令官又ハ警備隊區司令官ニ送付シ同官ハ
十月三十一日迄ニ其人名及希望兵科ヲ教導團長ニ通報スヘシ

第六條 大隊區司令官又ハ警備隊區司令官ハ身體検査及學科試驗ノ時日ヲ定メ教導團長及
島司郡市長ニ通知シ島司郡市長ハ之ヲ本人ニ通達スヘシ

第七條 志願者ノ身體検査及學科試驗ハ當該大隊區司令官又ハ警備隊區司令官其司令部所
在地ニ於テ之ヲ行フ

其身體検査ハ司令部最寄衛戍地在職ノ軍醫ヲ派シテ之ニ任セシム之カ爲メ大隊區司令官
ハ検査日割ヲ師團長ニ上申シ軍醫ノ派遣ヲ申請スヘシ但警備隊區ニ在テハ警備隊區司令
官ヨリ警備隊司令官ニ請求スルモノトス

學科試驗ハ大隊區司令官又ハ警備隊區司令官身體検査合格者ニ就テ之ヲ爲スヘシ
第二項ノ軍醫ハ大隊區司令官又ハ警備隊區司令官ノ指揮ヲ受クルモノトス
志願者検査場ヘノ往復旅費及滞在費ハ自辨トス

甲大隊區ノ志願者ニシテ居住地最寄ノ乙大隊區司令部ニ於テ身體検査及學科試驗ヲ受ケ
ンコトヲ出願スル者アルトキハ甲乙兩大隊區司令官協議ノ上之ヲ許可スルコトヲ得
第八條 學科試驗ノ問題ハ教導團長之ヲ作り密封シテ大隊區司令官又ハ警備隊區司令官ニ

送付スヘシ

第九條 志願者ハ検査時日ニ後レサル機當該大隊區司令部又ハ警備隊區司令部ニ出頭シテ指揮ヲ受ケヘシ疾病其他ノ事故ニ依リ當日出場ヲ缺ク者アルモ之カ爲メ時日ヲ延ハスコトナシ

第十條 志願者試験ヲ受ケタル後チ轉住スルトキハ速ニ舊住地ノ大隊區司令部又ハ警備隊區司令部ヲ經テ教導團ニ届出且ツ之ト同時ニ新住地ノ大隊區司令部又ハ警備隊區司令部ヘモ届出ヘシ

又已ムヲ得サル事故ニ由リ志願取消ヲ爲ントスル者ハ大隊區司令部又ハ警備隊區司令部ヲ經テ其願書ヲ教導團ヘ差出スヘシ

第十一條 大隊區司令部又ハ警備隊區司令部ハ學科試験ヲ終レハ受験者ノ答解書ヲ取纏メ之ニ第五條ノ島司郡市長ヨリ受領シタル書類ヲ添ヘ連名簿ニ各自希望ノ兵科ヲ記入シテ十二月三十一日迄ニ教導團長ニ送付スヘシ

第十二條 教導團長ハ大隊區司令部又ハ警備隊區司令部ヨリ送付スル所ノ答解書ヲ審査シ採用スヘキ者ト否トヲ決定シ大隊區司令部又ハ警備隊區司令部島司郡市長及町村長ヲ經テ之ヲ本人ニ通達シ其採用者ニハ入團ヲ命スヘシ

第十三條 入團ノ達ヲ受ケタル者ニハ其居住地受檢當時ノ住所ヲ云ヨリ教導團迄ノ里程ニ應シテ舟車馬料及日常ヲ當該監督部ヨリ支給ス但自己ノ便宜ヲ以テ入團期日前早著シ滞在スル者

一	祖父	某某
一	祖母	某某
一	父	某某
一	母	某某
一	兄	某某
一	弟	某某
一	姉	某某
一	妹	某某

右之通相送無之候也
年 號 月 日

本人 姓 名 印
身元保證人 姓 名 印

第四號書式 用紙半紙

陸軍教導團生徒志願者連名簿		何縣何郡(市)	
府縣族籍職業	何年何月	何年何月	姓
名	名	名	名

(參照) 二十七年十二月二十三日留守第一師團參謀長ヨリ教導團生徒召募規則改正相成
 リタル處舊規則第五條ニハ寄留者云々ノ割註アリテ新規則第五條ニハ寄留者云々ノ明
 文ナキモ寄留地ヨリ出願スルモ差支ナキヤ否ノ問合セニ同月二十五日陸軍省第二軍事
 課長ヨリ意見ノ通リト回答セラレタリ 翌二十六日 官報簡略

○第四百四十五 陸軍衛生部士官候補生並醫科大學依託學生採用規則 明治二十六年七月
 陸軍省令第十五號

本年七 勅令第七十七號陸軍衛生部現役士官補充條例ニ依リ陸軍衛生部士官候補生並醫科大
 學依託學生採用規則左ノ通定ム

陸軍衛生部士官候補生並醫科大學依託學生採用規則

第一條 陸軍衛生部醫科大學依託學生ノ補缺要員ハ陸軍省醫務局長ヲシテ帝國大學總長ニ
 協議セシメ志願者ヲ召集ス

軍醫生、藥劑生ヨリ衛生部士官候補生志願者ヲ召募スルトキハ醫務局長ヲシテ其要員ヲ
 師團長ニ移牒シ師團長之ヲ部隊ニ告達ス

第二條 醫科大學々生ニシテ依託學生ヲ志願スル者ハ願書ニ履歷書及戶籍明細書ヲ添ヘ帝
 國大學總長ヲ經テ陸軍省醫務局長ニ之レヲ出サシメ醫務局長ハ醫官ヲシテ身體検査ヲ爲
 サシメ其體格適當ノ者ニ醫科大學依託學生ヲ命ス該學生卒業シタルトキハ醫務局長ハ大
 學總長ヨリ其卒業成績書ヲ受ケタル後陸軍大臣ノ認可ヲ得テ陸軍衛生部士官候補生ヲ命

ニ於テ引受可申依テ履歷書及戶籍寫相添保證人連署此段奉願也

年 號 月 日

府(縣)何族(平民)職業

戶主ニ非サレハ誰子弟等

何國何郡(市)何町(村)何番地住(寄留)

第一希望何科
 第二希望何々
 第三希望何々

第四希望何々
 第五希望何々

姓 名 印

年 號 月 日 生

明治何年十二月何年何箇月

身元保證人

府(縣)何族(平民)

姓 名 印

同上

姓 名 印

同上

姓 名 印

同上

陸軍教導團長 官姓名殿

右之通願出候ニ付取調候處相違無之候也

府(縣)市(郡町)村)長 姓 名 印

府(縣)島司(郡長) 姓 名 印

前書之通相違無之候也

第二號書式 用紙美濃紙

履歷書

書式ニ示ス外履歷ニ係ルモノハ悉ク記載スヘシ

府(縣)何族(平民)職業

- 一 何年何月種痘(天然痘)
- 一 陸海軍現役、豫備役、後備役ニアラス
- 一 妻ナシ
- 一 家資分散ノ宣告又ハ身代限ノ処分ヲ受ケシコトナシ
- 一 (家資分散ノ宣告ヲ受ケシモ既ニ復権ヲ得タリ又ハ身代限ノ処分ヲ受ケシモ負債ノ數償ハ既ニ完了ス)
- 一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトナシ
- 一 及賄賂犯ノ処分ヲ受ケシコトナシ
- 一 何年月日任何官(免本官)何官(職)
- 一 何年月日何職被申付(何職被免)何官(職)
- 一 何年月日ヨリ何年月日迄何學校(塾)入學何科卒業(何學修業)
- 一 何年月日ヨリ何年月日迄何學研究(商業)ノ爲メ何國(外國)ニ在留
- 一 何年月日徴兵(士官候補生、幼年學校生徒、教導團生徒、海軍兵學校生徒等)ノ検査ヲ受ケ格別(格別)ニ在留
- 一 學科ニ合格セス
- 一 何年月日何々ニ依テ賞典何々下賜
- 一 何年月日何々ノ科ニ依リテ何罰申付ラル
- 一 右之通相違無之候也

戸主ニ非レハ某子弟等
姓 名

木人 姓 名 印
身元保證人 姓 名 印

第三號書式 用紙美濃紙
戸籍寫 戸籍中現在スル者ノミヲ記載スヘシ

市町村長ノ評定ニ服セサル者ハ其評定ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ一箇月以内ニ裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第九條 標石ハ諸測量ノ基準點トシテ官民共ニ使用スルコトヲ得

第十條 標石ヲ移轉シ若クハ毀壞シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十一條 規標及ヒ標杭ヲ移轉シ若クハ毀壞シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二條 測旗及ヒ假杭ヲ移轉シ若クハ毀壞シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十三條 過誤ニ由リ測量標ヲ毀壞シ又ハ之ニ瓦礫其他ノ雜物ヲ擲チ獸類ヲ繫キ繩索ノ類ヲ懸ケ或ハ貼紙シ或ハ戲書シ其他惡戯ヲ爲シタル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第十四條 本條例施行ノ細則ハ陸軍大臣之ヲ定ム

附則

第十五條 本條例中市制町村制ノ實施ニ至ラザル地方ニ在テハ市町村長ノ職務ハ區戸長ヲシテ之ヲ行ハシム

○第四百四十七 陸地測量標條例施行細則 明治二十八年八月十五日 陸軍省令第十七號

陸地測量標條例施行細則

第一條 陸地測量ハ三角測量、水準測量及地形測量ノ三トス

第二條 陸地測量部ハ各測量ヲ施行セントスルトキ豫メ之ヲ所轄ノ道廳府縣廳ニ通知シ該廳ハ之ヲ其地區ニ告示スヘシ

第三條 陸地測量部ハ地形測量ノ完成シタルトキハ之ヲ所轄道廳府縣廳ニ通知スヘシ

第四條 陸地測量部ハ道廳府縣廳若クハ島司郡市長ニ照會シ測量上必要ノ調査ヲ求ムルコトヲ得

但事宜ニ依リ出張測量官ヲシテ直ニ之ヲ爲サシムルコトヲ得

第五條 本條例第五條ニ依リ測量主任官ノ携帶スル證票左ノ如シ

表 面 印	陸地測量證	表 面	陸地測量部(何科)「何」 官 氏 名
-------------	-------	--------	-----------------------

第六條 標石及海岸水準點規標ハ永遠ニ保存スヘキモノニシテ其種類左ノ如シ

- 一等三角點標石 (第一圖)
- 二等或ハ三等三角點標石 (第二圖)
- 水準點標石 (第三圖)

第七條 規標(海岸水準點規標ヲ除ク)標杭ハ地形測量ヲ終ル迄假杭ハ三角點規標或ハ水準

(地形ニ應ジ建設スルヲ以テ其形狀一定セス)

點標石ヲ設置スル迄保存スヘキモノニシテ其種類左ノ如シ

- 三角點規標 (第四第五第六第七第八第九圖)
- 四等三角點標杭 (第十圖)
- 三角點或ハ一等水準點假標杭 (第十一圖)
- 二等水準點標杭 (第十二圖)
- 地形圖根點規標 (第九圖)
- 地形圖根點規標杭 (第十三圖)
- 地形水準點標杭 (第十四圖)

第八條 測量主任官測量標ヲ建設セントスルトキ御料地内ニ在テハ該地所屬ノ區別ニ依リ豫メ御料局或ハ同支廳又ハ支廳出張所ニ通知スヘシ

但事業ノ急施ヲ要シ其場所御料地所轄廳ト遠隔セルトキハ建設ノ後之ヲ通知スルコトヲ得

官有地第一種第二種神地(伊勢神宮並ニ山陵ヲ除ク)ニ在テハ其神社及所管廳ト協議シ官有地第二種第三種第二項第三項第四項第四種ノ土地及民有社寺地同宅地ニ在テハ測旗假杭建設ノ外ハ其所管廳又ハ所有者ニ協議スヘシ

第九條 測量主任官ハ測量標(地形測量ニ際シ一時假設)ヲ建設セル時其種類位置及坪數等ノ記載シタル書類ヲ市長又ハ町村長ニ交付シ該敷地ニ係ル調査ヲ求ムルコトヲ得此場合ニ於テ市

町村長ハ其位置ノ國郡(市)町(村)字地目番地及ヒ官有ニ在テハ所轄廳名民有ニ在テハ所有者ノ住所氏名並ニ本條例第三條及第四條ノ規定ニ關シ敷地所有者ノ志望等ヲ調査シ取調書(第一(第二)號書式)或ハ建標請書(第三號書式)又ハ寄附願書第四號書式ヲ徵シ別ニ其曆本一通ヲ添ヘ二週間内ニ測量主任官ニ送致スヘシ

第十條 測量主任官ハ前條ノ正本ヲ添ヘ官有地ニ係ルモノハ其所轄廳ニ民有地ニ係ルモノハ該地所轄ノ道廳府縣廳ニ通知スヘシ

第十一條 道廳府縣廳前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ其正本ニ依リ敷地ノ買上ケ借入レ等ノ事ヲ處分シ其旨ヲ陸地測量部ニ通報スヘシ

第十二條 測量諸標ヲ建設シ其敷地ニ關スル處分結了シタルトキハ陸地測量部ニ於テ測量諸標及同敷地ノ明細書ヲ製シ之ヲ道廳府縣廳東京府下ニ在テハ警視廳ニ通知シ其保管ヲ求ムヘシ但東京府廳東京府下ニ在テハ警視廳ハ別ニ本文ノ明細書ヲ送付シ置クヘシ

道廳府縣廳東京府下ニ在テハ警視廳ニ於テハ適宜保管ノ方法ヲ設ケ各地方警察署長分署長又ハ市町村長ヲシテ測量諸標及同敷地ヲ監守セシメ若クハ亡失毀損其他異狀アルトキハ事由ヲ附シ之ヲ届出シメ其旨陸地測量部ニ通知スヘシ

陸地測量部ハ測量諸標ヲ移轉若クハ撤去シタルトキハ道廳府縣廳東京府下ニ在テハ警視廳ニ通知シ官有地ニ係ルモノハ猶其所轄廳ニ通知スヘシ

第十三條 陸地測量部ニ於テ前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ其必要ニ應シテ修理又ハ改設ヲ

執行シ更ニ道廳府縣廳東京府下ニ在テハ警視廳ニ通報スヘシ

第十四條 標石敷地ハ方一坪ニシテ標石ヲ以テ其中心ヲ領セシム

但地坪ハ地形ニ應シ本條ニ依リ難キトキハ格別トス

第十五條 規標、標杭、假杭ノ敷地ハ地形ト建標ノ種類ニ依リ異同アルヲ以テ豫メ一定セス

第十六條 標石敷地内ニ土砂塵埃其他雜物等ヲ堆積スルヲ許サス

第十七條 敷地買上代ハ其都度之ヲ支拂ヒ借地料ハ會計年度末ニ於テ之ヲ支拂フヘシ

但借地料ハ其土地使用ノ當日ヨリ起算シ其一箇年ニ滿タサルモノハ月割ヲ以テ支拂フヘシ

第十八條 敷地買上代及借地料ハ本人ヨリ地方廳ニ請求書(第五號書式)ヲ差出シ該廳ハ審査ノ上之ヲ陸地測量部ニ回付スヘシ

但借地料請求書ハ三月五日迄ニ地方廳ニ差出シ該廳ハ同月十日限り之ヲ發送スヘシ

第十九條 官有ニ係ル竹木ヲ伐除シ又ハ樹上ニ規標ヲ設置シタルトキハ測量主任官ハ其明細書ヲ作り所轄廳ニ報告シ所轄廳補償ヲ要スルトキハ相當ノ額ヲ定メ陸地測量部ニ請求スヘシ

第二十條 市町村又ハ人民ニ對スル補償金ノ支拂ハ出張測量官ニ於テ之ヲ取扱フモノトス

第二十一條 本條例第六條掲記外ノ土地ニ在テハ已ムヲ得サルトキト雖モ其所轄廳或ハ所有者ノ承諾ヲ得ルニ非レハ障礙竹木ヲ伐除シ又ハ樹上ニ規標ヲ設置スルコトヲ得ス此場

合ニ於テハ前二條ヲ適用ス

第二十二條 標石規標ハ陸地測量部ノ認可ヲ得ルニ非レハ使用スルコトヲ得ス

前項ノ認可ヲ得ントスル者ハ豫メ使用ノ日數及其事由ヲ詳記シ陸地測量部ニ申請スヘシ

第二十三條 標石使用ノ爲メ新ニ要スル標旗標杭其他規標等ハ標石ヲ離ル、コト二尺以内ノ地ニ建設スルヲ許サス

第二十四條 使用者標石ノ經緯度及真高ヲ要スルトキハ其種類番號位置ヲ詳記シ陸地測量部ニ請求スヘシ

第二十五條 標石規標標杭ノ周圍ニ於テ之ヲ段損スルノ虞アルカ又ハ其效用ヲ妨クヘキ事業ヲ爲サントスルトキハ事由ヲ具シ設計圖ヲ添ヘ其移轉ヲ道廳府縣廳ニ請求スヘシ

第二十六條 道廳府縣廳前條ノ請求ヲ受ケタルトキハ之ヲ審査シ意見ヲ附シ之ヲ陸地測量部長ニ移牒スヘシ
但移轉ノ爲メニ要スル費用ハ其請求者ノ負擔トス

第二十七條 陸地測量部長前條ノ移牒ヲ受ケ移轉ノ必要ヲ認ムルトキハ其移轉ニ要スル費用ノ概算額ヲ定メ地方廳ヲ經テ之ヲ請求シ移轉執行ノ上ハ其決算ヲ爲シ證憑書類ヲ附シ該廳ニ送致スヘシ

第二十八條 道廳府縣廳ハ前條ノ費用ヲ請求者ヨリ受取リ陸地測量部ニ回付シ其決算書類ハ之ヲ其請求者ニ送致スヘシ

第二十九條 測旗假杭ノ移轉ヲ要スヘキ事由アルトキハ出張測量主任官ニ請求シテ其承諾ヲ經ヘシ

第三十條 測量標敷地所在ノ町村名其他ニ關シ異動ヲ生シタルトキハ道廳府縣廳ヨリ陸地測量部ニ通知スヘシ

第三十一條 本則第十六條第二十二條第二十三條及第二十五條ヲ犯シタル者ハ十一日以上二十五日以下ノ輕禁錮又ハ二圓以上二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

第三十二條 市制町村制ヲ實施セサル地方ニ在テハ本則中市町村長ノ爲スヘキ事務ハ區戶長若クハ之ニ準スル吏員ニ於テ之ヲ行フヘシ

第三十三條 本則ハ明治二十八年九月一日ヨリ施行ス

三角點敷地調書々式(第一號)

三角點敷地取調書 (用紙半紙紙)

備考雜記	敷地	田	園	地	敷地		石	規	標	杭	所	轄
					種	別						
何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何
何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何
何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何
何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何

前番取調之通相違無之候也

年號月日

陸地測量部

御中

何府(縣)何市(郡)何町(村)長 氏

名職印

水準點敷地取調書々式(第二號)

水準點敷地取調書 (用紙半紙郵紙)

水準點	府(縣)	國	市(郡)町(村)	大字	字	地名	敷地	坪數	標石	標杭	接近地	所轄廳
等級一番號	何府	何國	何市	何町	何々	何々	何々	何々	何々	何々	何々	何省(何府縣)
何等	何號	何府	何國	何市	何町	何々	何々	何々	何々	何々	何々	何省(何府縣)
何等	何號	何縣	何國	何郡	何村	何々	何々	何々	何々	何々	何々	何省(何府縣)

前書取調之通相違無之候也

年號月日

陸地測量部

御中

何府(縣)何市(郡)何町(村)長 氏

名職印

建標請書々式(第三號其一)

借地料並ニ敷地買上ケテ請求セサル分) 建標請書 (用紙半紙郵紙)

等級一番號	名稱	府(縣)	國	市(郡)町(村)	大字	字	地名	敷地	坪數	備考
何等	何號	何々	何府(縣)	何國	何市(郡)	何町(村)	何々	何々	何々	年月日撰定

右誰所有(管理)誰等共有)地内へ御部ニ於テ今般何等三角點御撰定標石埋定規標建設相成候ニ付左ノ件々御請申上候

也

一標石敷地何坪ハ相當代價ヲ以テ買上ケ可申事

一規標敷地何坪(内標石敷地)ハ地形測量ヲ終ル迄成規ノ借地料ヲ以テ買上ケ可申事

年號月日

前書之通相違無之候也

何府(縣)何市(郡)何町(村)大字當座

右所有者(管理)共有總代) 氏

名職印

何府(縣)何市(郡)何町(村)長 氏

名職印

陸地測量部

御中

借地料並ニ敷地買上ケテ請求セサル分) 建標請書 (用紙半紙郵紙)

等級一番號	名稱	府(縣)	國	市(郡)町(村)	大字	字	地名	敷地	坪數	備考
何等	何號	何々	何府(縣)	何國	何市(郡)	何町(村)	何々	何々	何々	年月日撰定

右誰所有(管理)誰等共有)地内へ御部ニ於テ今般何等三角點御撰定標石埋定規標建設相成候ニ付左ノ件々御請申上候也

一標石敷地何坪ハ標石存在中無料買上(寄附)可申事

一規標敷地何坪(内標石敷地)ハ地形測量ヲ終ル迄無料買上ケ可申事

年號月日

前書之相違無之候也

何府(縣)何市(郡)何町(村)大字當座

右所有者(管理)共有總代) 氏

名職印

何府(縣)何市(郡)何町(村)長 氏

名職印

陸地測量部

建標請書々式(第三號其二)

借地料ヲ請求スヘキ分(四等三角點)

建標請書 (用紙半紙郵紙)

御中

等級	番號	名册	府(縣)	國	市(郡)	町(村)	大字	俗稱	地目	備考
四等	何號	何々	何府(縣)	何國	何市(郡)	何町(村)	何々	何々	何々	年月日撰定

右誰所有(管理)誰等共有(地内)御部ニ於テ今般四等三角點御撰定標杭埋定規標建設相成候ニ付左ノ件御請申上候也

一標杭敷地何坪(規標敷地何坪)ハ地形測置ヲ終ル迄成規ノ借地料ヲ以テ貸上ケ可申事

何府(縣)何市(郡)何町(村)大字

右所有者(管理)者

氏 名印

前書之通相違無之候也

年號月日

陸地測量部

御中

何府(縣)何市(郡)何町(村)長 氏

名職印

借地料ヲ請求セサル分

建標請書 (用紙半紙郵紙)

御中

等級	番號	名册	府(縣)	國	市(郡)	町(村)	大字	俗稱	地目	備考
四等	何號	何々	何府(縣)	何國	何市(郡)	何町(村)	何々	何々	何々	年月日撰定

右誰所有(管理)誰等共有(地内)御部ニ於テ今般四等三角點御撰定標杭埋定規標建設相成候ニ付左ノ件御請申上候也

一標杭敷地何坪(規標敷地何坪)ハ地形測置ヲ終ル迄無料貸上ケ可申事

何府(縣)何市(郡)何町(村)大字

前書之通相違無之候也

年號月日

陸地測量部

御中

何府(縣)何市(郡)何町(村)長 氏

名職印

建標請書々式(第三號其三)

敷地買上ケテ請求スヘキ分(一等水準點)

建標請書 (用紙半紙郵紙)

御中

等級	番號	府(縣)	國	市(郡)	町(村)	大字	俗稱	地目	備考
一等	何號	何府(縣)	何國	何市(郡)	何町(村)	何々	何々	何々	年月日撰定

右誰所有(管理)誰等共有(地内)御部ニ於テ今般一等水準點御撰定標杭埋定規標建設相成候ニ付左ノ件御請申上候也

一標石敷地何坪ハ相當代價ヲ以テ買上ケ可申事

何府(縣)何市(郡)何町(村)大字

右所有者(管理)者

氏 名印

前書之通相違無之候也

年號月日

陸地測量部

御中

何府(縣)何市(郡)何町(村)長 氏

名職印

敷地買上ケテ請求セサル分

建標請書 (用紙半紙郵紙)

御中

等級	番號	府(縣)	國	市(郡)	町(村)	大字	俗稱	地目	備考
一等	何號	何府(縣)	何國	何市(郡)	何町(村)	何々	何々	何々	備考

一等 何號 何府(縣) 何國 何市(郡) 何町(村) 何々 何々 何々 年月日撰定

右誰所有(管理)(誰等共有)地内へ御部ニ於テ今般一等水準點御擬定相成候ニ付左ノ件御請申上候也
一 標石敷地何坪へ標石存在中無料貸上(寄附)可申事

年號月日

前書之通相違無之候也

陸地測量部

御中

何府(縣)何市(郡)何町(村)大字番地
右所有者(管理)者 氏 名印
何府(縣)何市(郡)何町(村)長 氏 名職印

建標請書々式(第三號其四)

借地料ヲ請求スヘキ分(二等水準點)

建標請書 (用紙半紙郵紙)

水準點	府(縣)	國	市(郡)	町(村)	大字	字	地目	備考
等級番號	何府(縣)	何國	何市(郡)	何町(村)	何々	何々	何番	年月日撰定

右誰所有(管理)(誰等共有)地内へ御部ニ於テ今般二等水準點御擬定標杭埋定相成候ニ付左ノ件御請申上候也
一 標杭敷地何坪へ地形測量ヲ終ル迄無料貸上ケ可申事

年號月日

前書之通相違無之候也

陸地測量部

何府(縣)何市(郡)何町(村)大字番地
右所有者(管理)者 氏 名印
何府(縣)何市(郡)何町(村)長 氏 名職印

御中

借地料ヲ請求セサル分
建標請書 (用紙半紙郵紙)

水準點	府(縣)	國	市(郡)	町(村)	大字	字	地目	備考
等級番號	何府(縣)	何國	何市(郡)	何町(村)	何々	何々	何番	年月日撰定

右誰所有(管理)(誰等共有)地内へ御部ニ於テ今般二等水準點御擬定標杭埋定相成候ニ付左ノ件御請申上候也
一 標杭敷地何坪へ地形測量ヲ終ル迄無料貸上ケ可申事

年號月日

前書之通相違無之候也

陸地測量部

御中

何府(縣)何市(郡)何町(村)長 氏 名職印
右所有者(管理)者 氏 名印
何府(縣)何市(郡)何町(村)大字番地

標石敷地寄附願書々式(第四號)

標石敷地寄附願書 (用紙半紙郵紙)

何	府(縣)	國	市(郡)	町(村)	大字	字	地目	備考
等級番號	何府(縣)	何國	何市(郡)	何町(村)	何々	何々	何番	年月日撰定

右誰所有(管理)(誰等共有)地内へ御部ニ於テ今般何等三角(等水準)點御擬定相成候ニ付該標石敷地何坪寄附仕度此段出願候也

年號月日

右所有者(管理)者 氏 名印

前番之通相違無之候也
年號月日

陸地測量部
御中

何府(縣)何市(郡)何町(村)長 氏

名職印

(第五號書式及圖面略ス)

○第四百四十八 陸地測量部修技所生徒採用規則明治二十五年三月十九日
陸軍省令第四號

陸地測量部修技所生徒採用規則左ノ通改正ス

陸地測量部修技所生徒採用規則

一 陸地測量部修技所生徒ハ各兵科下士ノ現役滿期後陸地測量官タルヲ志望シ第一項ノ資格ヲ有シ第二項ノ學科ヲ修得セル者ノ内ヨリ採用ス(第一條)

第一項 生徒召募ノ告達アリタル年ノ十一月ヨリ翌年十月迄ニ現役滿期トナル者身體強壯行狀方正勤務勉勵年齢二十八年以下其計算ハ召募ス可キ
年ノ十月ヲ以テス

第二項 (學科目録ス)
一 製圖科ノ生徒ニ限リ一般人民ヨリ志願者ヲ採用スルコトアルヘシ其檢査格及ヒ志願者心得ハ其時々告示ス(第二條)

一 生徒ヲ召募セントスルトキハ豫メ其前年四月迄ニ召募人員ヲ告達ス(第三條)

一 陸地測量部修技所生徒ヲ命セラレタル者ハ父兄親族若クハ其他一家ヲ爲ス身元確實ナル者二名居住ノ者タルハシ内一名ハ東京市内ヲ以テ身元保證人ト爲シ入學ノ際左式ノ入學證書ヲ差出ス可シ(第六條)

四 軍樂生ハ滿十四年以上十七年未滿

第四條 左ニ掲ケル者ハ志願兵タルコトヲ許サス

一 陸軍ノ豫備後備役ニ在ル者

二 徵兵令第二十八條ニ當ル者

三 禁錮以上ノ刑ニ處セラレ若クハ賭博犯ニ依リ懲罰ニ處セラレタル者

四 刑事被告人トナリ裁判未決ノ者

五 身代限リノ處分ヲ受ケ負債ノ義務ヲ免レサル者

第五條 志願兵ノ服役ヲ分テ現役及豫備役トス

現役ハ八箇年ニシテ入營ノ日ヨリ之ニ服シ豫備役ハ四箇年ニシテ現役ヲ終リタル日ヨリ之ニ服ス

水雷夫ハ前項ニ依ラス十二箇年間現役ニ服セシメ豫備役ニ服セシメス但第一年ニ於テハ六箇月以内第二年ヨリ十一箇年間ハ毎年二箇月以内在營セシメ其餘ノ時日ハ歸休セシム

第六條 服役中禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ監視ニ付セラレ又ハ逃亡若クハ失踪シタル者其ノ刑期中及逃亡失踪中ノ日數ハ服役年期ニ算入セス二十七年十二月十七日勅令第
二百一號ヲ以テ本條ヲ改正ス

第七條 服役期限既ニ滿ルト雖モ戰時或ハ事變ニ際スルトキ若クハ臨時ニ演習ノ舉アルトキ若クハ航海中ハ其期限ヲ延スコトアル可シ

第八條 豫備兵ハ戰時或ハ事變ニ際シ兵員ヲ要スルトキ之ヲ召集ス平時ニ在テハ演習ノ爲

メ召集スルコトアル可シ但餘人ヲ以テ代フ可ラサル職務ヲ奉スル官吏及市町村長助役及收入役ハ召集スルコトナシ

法律ヲ以テ設立シタル議會ノ議員其開會中亦同シ

第九條 服役中ハ免役ヲ願フコトヲ許サス但服役中疾病若クハ傷殘ニ依リ服役ニ堪ヘ難キ者ハ其役ヲ免シ現役ヲ通シテ滿十二箇年ニ至ルマテ豫備役ニ服セシム其永久服役ニ堪ヘ難キ者ハ兵役ヲ免ス

第十條 水雷夫、工夫ヲ除クノ外志願兵ノ現役中ハ家族アル者ニ限り其扶助金トシテ一日金二錢七厘ヲ給ス

第十一條 志願兵徵募ノ爲メ別表ノ如ク海軍志願兵徵募區ヲ定メ鎮守府ヲシテ之ヲ管セシム

第十二條 志願兵徵募ノ人員ハ毎年海軍大臣之ヲ定メ各徵募區ニ配當シ鎮守府ヲシテ徵募セシム

(軍樂生、水雷夫、工夫ハ前項ニ依ラス鎮守府又ハ海軍省第一局ヲシテ徵募セシム) 二十三年令第三百九十四號ヲ以テ本項ヲ削除ス

附則

第十三條 舊規則ニ依リ徵募シタル者ノ服役年期ハ舊規則ニ依ル

第十四條 舊規則ニ依リ一箇月金一圓七十五錢ノ家族扶助金ヲ給スル者ニハ本年十月以後

海軍省指令 明治三十四年六月二十六日(陸軍大臣連署) 後段伺之通

第二款 海軍下士卒ニ係ル件

第一節 海軍下士服役條例及下士卒免役歸省出願等ニ關スル件

○第四百五十五 海軍下士服役條例 明治二十二年四月二十九日(四月三十日公布) 勅令第五十六號

朕海軍下士服役規則ヲ廢止シ海軍下士服役條例制定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍下士服役條例

第一條 海軍下士ノ服役ヲ分テ現役及豫備役トス

第二條 現役ハ六箇年ニシテ下士ニ任シタル日ヨリ之ニ服シ豫備役ハ四箇年ニシテ現役ヲ終リタル日ヨリ之ニ服ス

卒ノ服役年數ヲ通算シテ現役滿十六箇年ヲ過タル者ハ兵役ヲ免ス

第三條 服役中禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ監視ニ付セラレ又ハ逃亡若クハ失踪シタル者其ノ刑期中及逃亡失踪中ノ日數ハ服役年期ニ算入セス 二十七年十二月十七日勅令第百號ヲ以テ本條ヲ改正ス

第四條 現役中ハ免役ヲ願フコトヲ許サス但家族自活シ能ハサル事故ヲ生シ本人ヲ要スルトキハ父母 若クハ近隣二人以上ノ親族 願ニ依リ現役ヲ免シ豫備役ニ服セシムルコトアル可シ服役中養子分家又ハ絶家廢家再興他家相續人トナリタル爲メ本文ノ事故ヲ生シタル者ハ此限

ニ在ラス

前項ニ依リ豫備役ニ入りタル者ハ現役ヲ通シテ十箇年ニ至ルマテ豫備役ニ服セシム

第五條 現役中傷疾若クハ疾病ニ依リ現役ニ堪ヘ難キ者ハ其役ヲ免シ豫備役ニ服セシム

第六條 現役中傷疾若クハ疾病ニ依リ永久服役ニ堪ヘ難キ者ハ兵役ヲ免ス

第七條 服役期限已ニ滿ルト雖モ戰時或ハ事變ニ際スルトキ若クハ臨時ニ演習ノ擧アルト

キ又ハ航海中ハ其期限ヲ延スコトアル可シ

第八條 下士ノ服役ヲ退キタルトキハ其官ヲ免スルモノトス

附則

第九條 艦内教授警吏ヲ除クノ外現今現役中ニ在ル下士ニシテ卒ヨリ進級セシ者ハ其滿期

マテ從前ノ規則ニ依リ服役セシム

第十條 艦内教授警吏ニシテ現役滿六箇年ヲ過キタル者ハ其役ヲ免シ現役ヲ通シテ十箇年

ニ至ルマテ豫備役ニ服セシム現役十箇年ヲ過キタル者ハ服役ヲ免ス

○第四百五十六 海軍現役下士免役願書ニ市町村長等與書證印ノ件明治二十二年十月二日

本年四月勅令第五十六號海軍下士服役條例第四條ニ依リ現役下士ノ免役ヲ願フ者ハ願書ニ

市町村長又ハ區長ノ與書證印ヲ受ケ其屬タル鎮守府ヘ願出シヘシ

○第四百五十七 海軍軍樂手造兵廠火藥工廠ノ技工免役願書差出方ノ件明治二十二年十

一月十一日
海軍省告示第十六號

第六條 府縣知事ニ於テ市町村立小學校ノ正教員左ノ事項ニ該當スト認ムルトキハ退職ヲ命スヘシ

一 正當ノ理由ニ基キ退職ヲ願出テタルトキ

二 傷疾ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ終身其職務ニ堪ヘサルトキ

三 (退職ノ期限滿ツルモ退職ヲ命シタル事由消滅セサルトキ) 同上省令ヲ以テ

四 退職者ノ代員トシテ任用セラレタル場合ニ於テ退職者ノ復職スルトキ

從前ノ成規ニ依リ授與シタル小學校教員免許狀又ハ之ト同一ノ效ヲ有スル小學校師範學科

卒業證書ヲ有シ教員タル者ニシテ其有效期限滿ツルトキハ特ニ辭令書ヲ用ヒスシテ前項

ニ依リ退職ヲ命シタル者ト同一ニ見做スヘシ(退職者休職期限滿ツルトキ亦同シ) 同上省令

職者以下十

第七條 府縣知事ハ休職退職ノ事由ニ關シ第五條第六條ノ例ニ依リ難キモノアル場合ニ於

テハ文部大臣ノ指揮ヲ受ケテ特別ノ處分ヲナスコトヲ得

第八條 市町村立小學校校長及教員ノ任用休職復職退職等ニハ辭令書ヲ交付スヘシ

第九條 私立小學校校長ハ其小學校ノ教員中ニ就キ兼任スルヲ常例トス

第十條 第二條准教員任用ノ規程ハ私立小學校ニ關シ之ヲ適用ス但任用ノ期限ハ其設立者

ニ於テ之ヲ定メ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

第十一條 私立小學校ノ學校長及教員ノ任用解職ハ其設立者ヨリ府縣知事ニ開申スヘシ

第十二條 此規則ニ關スル細則ハ府縣知事之ヲ定ムヘシ

(附言) 明治二十八年八月省令第二十一號末項ニ於テ「明治二十七年六月五日以後此ノ省令施行以前ニ召集セラレタル者ハ其ノ召集ノ日ヨリ休職ヲ命セラレタルモノトス」ト掲載セラレタルニ依リ本令第五條第二項以下三項及第六條第二項ノ未文追加ノ省令施行以前該年六月五日以後ニ於テ豫備後備ノ軍籍ニ在ル小學校正教員ニシテ陸軍ニ召集セラレタル者ハ其日ヨリ休職ヲ命セラレタルモノト爲スヘシ

●高等師範學校入學ノ小學校正教員ニ休職ヲ命スル件明治二十七年三月一日 文部省令第六號

明治十九年文部省令第十八號高等師範學校生徒募集規則ニ依リ高等師範學校ニ入學ノ許可ヲ得タル者現ニ市町村立小學校正教員ノ職ニ在ルトキハ地方官ニ於テ其ノ在學中休職ヲ命スヘシ

●公立學校職員休職ノ件明治二十七年八月八日 勅令第四百四十二號

朕公立學校職員休職ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 學校編制ノ變更事務ノ伸縮等ニ依リ其ノ人ヲ要セサル場合其ノ他傷痍疾病等ノ事故アル場合ニ於テハ地方長官ハ公立學校職員ニ休職ヲ命スルコトヲ得 豫備後備ノ軍籍ニ在ル公立學校職員職時若クハ事變ニ際シ召集セラレタルトキハ當然休職ヲ命セラレタルモノトス

第一項ニ依ル休職ノ期限ハ一箇年トシ第二項ニ依ル休職ノ期限ハ其ノ事故止ミタル後

十六 拾町歩以下ニシテ見積代價金貳百圓ニ超ヘサル森林原野ノ民有地又ハ道路河川ニ介在セルモノヲ接續地ノ所有者ハ賣拂フトキ

十七 見積代價金貳百圓ニ超ヘサル木竹ヲ賣拂フトキ

第二條 農商務大臣ハ競争入札ニ付シタル物件ノ豫定價格ニ達セス該入札ヲ取消シタル場合ニ於テ爾後三十日以内ニ豫定價格ヨリ低カラサル代價ヲ以テ同一物件ノ拂下ヲ望ム者アルトキハ隨意之ヲ賣拂フトコトヲ得

第四款 狩獵ニ關スル件

○第五百三十一 狩獵法明治二十八年三月二十日(三月二十七日公布) 法律第二十號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル狩獵法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

狩獵法

第一章 獵具獵法

第一條 此ノ法律ニ於テ狩獵ト稱スルハ銃器、各種ノ網、放鷹、罽繻又ハ機ヲ以テ鳥獸ヲ捕獲スルヲ謂フ

前項ノ外ノ獵具獵法ニシテ第一條ニ掲ケサルモノニ就テハ地方長官東京府下ハ警視 總監以下依之ハ農商務大臣ノ認可ヲ經テ便宜取締規則ヲ設クルコトヲ得

第三條 日出前、日没後又ハ市街、人家稠密ノ場所、衆人群集ノ場所ニ於テ若ハ銃丸ノ達スヘキ處アル建物船舶汽車ニ向テ銃獵ヲ爲スコトヲ得ス

第十二條 此規則ニ關スル細則ハ府縣知事之ヲ定ムヘシ

(附言) 明治二十八年八月省令第二十一號末項ニ於テ「明治二十七年六月五日以後此ノ省令施行以前ニ召集セラレタル者ハ其ノ召集ノ日ヨリ休職ヲ命セラレタルモノトス」ト掲載セラレタルニ依リ本令第五條第二項以下三項及第六條第二項ノ末文追加ノ省令施行以前該年六月五日以後ニ於テ豫備後備ノ軍籍ニ在ル小學校正教員ニシテ陸軍ニ召集セラレタル者ハ其日ヨリ休職ヲ命セラレタルモノト爲スヘシ

●高等師範學校入學ノ小學校正教員ニ休職ヲ命スル件明治二十七年三月一日
文部省令第六號

明治十九年文部省令第十八號高等師範學校生徒募集規則ニ依リ高等師範學校ニ入學ノ許可ヲ得タル者現ニ市町村立小學校正教員ノ職ニ在ルトキハ地方官ニ於テ其ノ在學中休職ヲ命スヘシ

●公立學校職員休職ノ件明治二十七年八月八日
勅令第四百四十一號

朕公立學校職員休職ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 學校編制ノ變更事務ノ伸縮等ニ依リ其ノ人ヲ要セサル場合其ノ他傷痕疾病等ノ事故アル場合ニ於テハ地方長官ハ公立學校職員ニ休職ヲ命スルコトヲ得

豫備後備ノ軍籍ニ在ル公立學校職員職時若クハ事變ニ際シ召集セラレタルトキハ當然休職ヲ命セラレタルモノトス

第一項ニ依ル休職ノ期限ハ一箇年トシ第二項ニ依ル休職ノ期限ハ其ノ事故止ミタル後

- 二 開墾若クハ牧畜ノ爲メ森林原野ヲ貸渡シ若クハ賣渡ストキ
- 三 鐵業ノ爲メ森林原野ヲ貸渡シ若クハ建築材料又ハ薪炭材ヲ賣渡ストキ
- 四 植樹ノ爲メ森林原野ヲ貸渡ストキ
- 五 非常ノ災害ニ罹リタル地方人民ノ爲メ建築材料ヲ賣渡ストキ
- 六 從來ノ慣行ニ由リ地元人民ニ木竹薪炭材下草秣小柴若クハ土石ヲ賣渡ストキ
- 七 部分木ヲ仕付人ニ賣拂フトキ
- 八 社寺建築營繕ノ爲メ該社寺上地ノ木材若クハ土石ヲ賣渡ストキ
- 九 地押調査ニ由リ發見シタル開墾地ヲ其開墾人ニ賣渡ストキ
- 十 建築其他ノ用ニ供スヘキ土石ヲ發見シタル場合ニ於テ之ヲ其發見人ニ賣渡ストキ
- 十一 季節アル生産物ヲ賣拂フトキ
- 十二 開墾牧畜若クハ植樹ノ爲メ貸渡シタル森林原野ノ區域内ニアル産物ヲ其借受人ニ賣拂フトキ
- 十三 林業附帯ノ用ニ供スル爲メ森林原野ヲ貸渡シ若クハ産物ヲ賣渡ストキ
- 十四 部分方法ニ由リ林産物製造ノ爲メ其原料ヲ請負人ニ賣渡ストキ
- 十五 見積借地料一箇年金貳百圓ニ超ヘサル森林原野ヲ貸渡ストキ

十六 拾町歩以下ニシテ見積代價金貳百圓ニ超ヘサル森林原野ノ民有地又ハ道路河

川ニ介在セルモノヲ接續地ノ所有者ハ賣拂フトキ

十七 見積代價金貳百圓ニ超ヘサル木竹ヲ賣拂フトキ

第二條 農商務大臣ハ競争入札ニ付シタル物件ノ豫定價格ニ達セス該入札ヲ取消シタル場
合ニ於テ爾後三十日以内ニ豫定價格ヨリ低カラサル代價ヲ以テ同一物件ノ拂下ヲ望ム者
アルトキハ隨意之ヲ賣拂フトコトヲ得

第四款 狩獵ニ關スル件

○第五百三十二 狩獵法明治二十八年三月二十日(三月二十七日公布)

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル狩獵法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

狩獵法

第一章 獵具獵法

第一條 此ノ法律ニ於テ狩獵ト稱スルハ銃器、各種ノ網、放鷹、鷓繩又ハ機ヲ以テ鳥獸ヲ捕
獲スルヲ謂フ

前項ノ外ノ獵具獵法ニシテ第一條ニ掲ケサルモノニ就テハ地方長官東京府下ハ警視
總監以下依之ハ農商
務大臣ノ認可ヲ經テ便宜取締規則ヲ設ケルコトヲ得

第三條 日出前、日没後又ハ市街、人家稠密ノ場所、衆人群集ノ場所ニ於テ若ハ銃丸ノ達ス
ヘキ處アル建物船舶汽車ニ向テ銃獵ヲ爲スコトヲ得ス